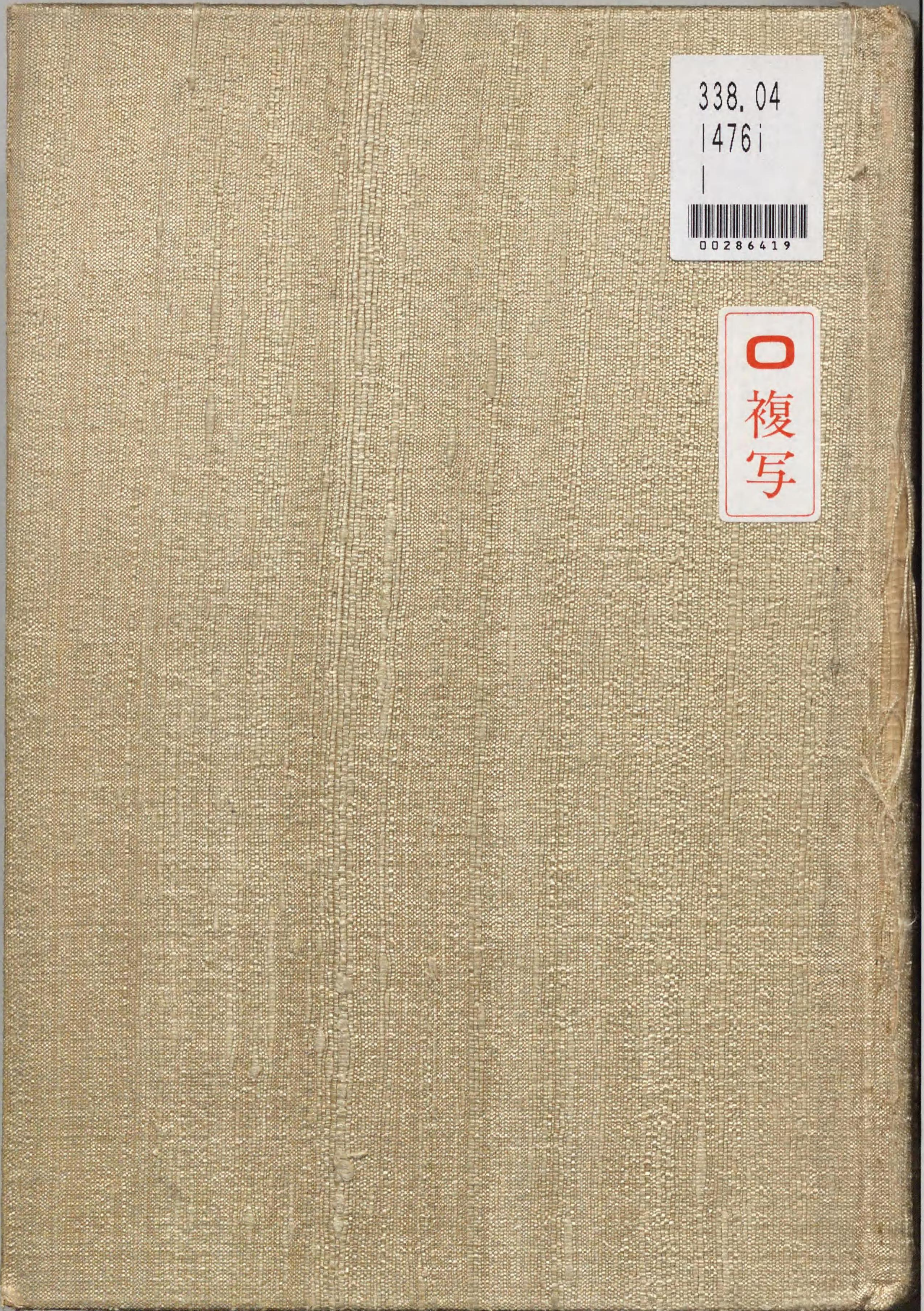


338.04
|476i
|
00286419

〇
複写



一般資料

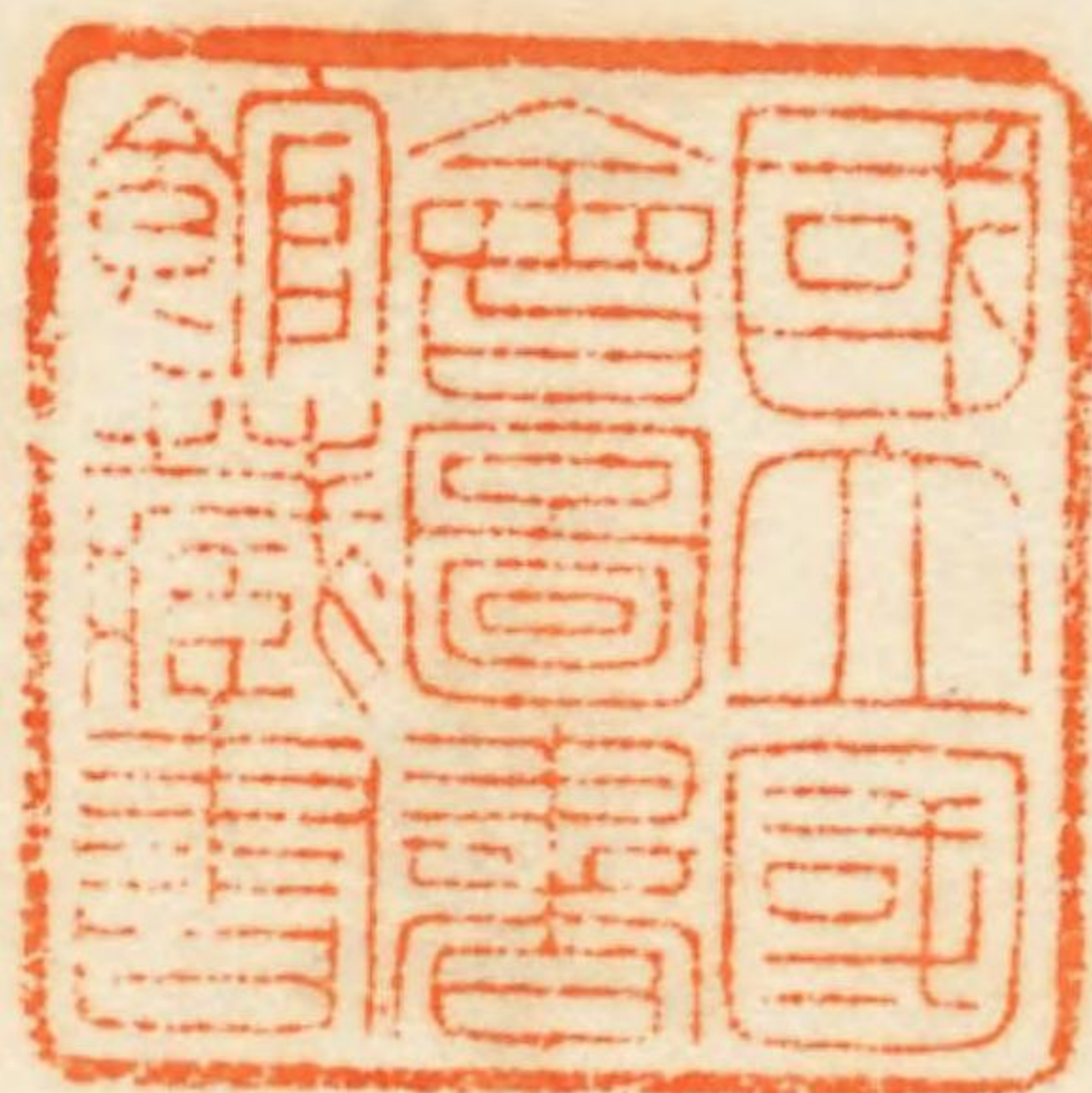
井上準之助論叢

三

井上準之助論叢

三

338.04-I476i I



286419

井上準之助論叢 第三卷 (演説、講演) 目次

日本銀行總裁時代(第二次)の演説、講演

休業銀行の整理方針と將來の財界對策……………一

第二十六回關西銀行大會演説……………五

銀行業務の改善……………六

休業銀行の整理……………二〇

東京手形交換所新年宴會演説……………二四

經濟知識の涵養……………三三

第二十四回全國手形交換所聯合會演説……………四四

閑居時代(第二次)の演説、講演

南遊所感……………三

昭和青年の進むべき道……………一六

金輸出解禁問題……………一三

大藏大臣時代(第二次)の演説、講演

財政の緊縮と金解禁……………一七

大阪商工会議所財政經濟に關する懇談會演説……………一九

臺所から見た金解禁……………三〇

實行豫算に關する説明……………三三

東京銀行俱樂部濱口内閣招待晚餐會演説……………三四

第二十八回關西銀行大會演説……………三九

經濟更新會創立總會演説……………二六

金解禁前後の經濟事情に就て……………二七

金解禁決行に當りて……………三四

第五十七回帝國議會に於ける財政演説……………三〇

後藤伯の一周忌に當りての所感……………三四

第五十八回帝國議會に於ける財政演説……………三五

第二十六回全國手形交換所聯合會演説……………三六

地方長官會議に於ける訓示演説……………三七

經濟更新會演説……………三九

我國財界の現状と國民の覺悟……………三九

地方長官會議に於ける訓示演説……………四〇

第二十九回關西銀行大會演說……………	四六
第三回日本商工會議所定期總會懇親會演說……………	四九
第五十九回帝國議會に於ける財政演說……………	四四
第五十九回帝國議會に於ける地租法案外三件説明演說……………	四〇
第二十七回全國手形交換所聯合會演說……………	四八
地方長官會議に於ける訓示演說……………	五〇
第十回全國無盡集會所定期總會演說……………	五〇
第三十回關西銀行大會演說……………	五七
第四回日本商工會議所定期總會懇親會演說……………	五七
民政黨筆頭總務時代の演說……………	
金輸出再禁止に關する質問演說……………	五五

日本銀行總裁時代(第二次)の演說、講演

井上準之助氏が昭和二年五月より同三年六月に至る日本銀行總裁時代の演説講演としては、昭和二年六月の御前講演、昭和二年の我國金融恐慌に關するもの、その他財政經濟に關する通俗なるもの等其の數多きも、此處には御前講演を除く五篇を載録することとなしたり。

銀行ノ整理ノ困難ナルコト

戦界整理ノ歴レタルコトハ大正九年、十年、十一年、頃
ニ戦界ノ状態ハ未タ判明セズ銀行ニ事業亦
モ将来ノ実情ニ的確ノ見込ヲ立テ得ナリト爲
シ、自他整理ハ明日ヲ恃シテ保延ヘラシテ其ノ力
十二年ノ
地震ノ損害後ハ殆ト不可能ニ陥ツタノコトアル

休業銀行の整理方針と將來の財界對策

(昭和二年九月二十一日
於東京銀行集會所)



今晚は私の日本銀行總裁に就任したお祝ひをして戴きまして、斯かる盛大なる宴會をお開き下さいましたことは、誠に有難く感謝する次第であります。

只今小野さんから挨拶に預りまして、何だか少し異様な感じが致しました。旅をして居る弟が家に歸つて來た時に、兄さんが餘り開き直つて切口上でよく歸つて來たと、斯う云はれると、如何にも異様の感じがせぬでもないのであります。のみならず、兄として崇めて居ります委員長から長老呼ばはりを致されまことは、一時に十年も年を取つたやうな氣が致します。長老といふ言葉は、澁澤子爵以外には用ひられぬやうな感じが實はして居つたのであります。併し開き直つた切口上は、私にとりましては誠に重々感謝致す次第であります。併し癖のある私ではありますし、不行届きの井上でありますので、二度の勤めが餘り受けられさう

な筈も實はないと考へて居りますが、財界の爲めに盡すといふ精神ばかり、氣ばかりの私が、再び此の難局に立つたのでありますから、どうぞ御同情下さいまして、お助けを願ふ次第であります。

尙今晚は何か私の意見を申せといふことでございますが、先刻から此處で友達と斯うやつて話して居りますと、餘りむづかしい事を申しますことは少し相應しくないやうな気分が致します。殊に此の時節柄に何か申しますやうな意見も無いのでございます。唯々毎日關係して居ります補償法の事を、一、二申して見たいと思つて居ります。

御承知の如く四月の銀行騒ぎは其の地域が殆ど日本全國、又何れの銀行も其の災難を免れることが出来なかつたといふことは、日本に今までなかつた事であります。丁度其の當時、私は九州からの歸りがけに中國、大阪等を通つて來たのであります。今から思出しても少し凄いやうな記憶を持つて居るのであります。あの時局がどう收まるかといふやうな事を考へまして、如何にも心配したのであります。モラトリアムになり、補償法になりまして、今日は財界も安定して居ります。

勿論、財界の安定は補償法だけの効果でもありません。世人一般が極度の神経過敏になつたのを自制心で之を抑へ、又金融業者諸君の誠にワイズな御處置の爲めに財界の鎮靜したこともあらうと思ひますが、併しながら此の補償法の効果、即ち今日の財界鎮靜に補償法といふものが餘程有力なものであるといふことは、見通すことは出来ぬと思ふのであります。御承知の如く、あの時には特に財界に何か突然出て來てあのやうな事が起るべき原因は無かつたのであります。唯財界の實狀が、段々色々な機會に世人に廣く感知されるやうになりました結果が、あんな事を生んだのであります。それで世人が落著いて、即ち四月のやうな事が再びあつても補償法があれば樂に金融が出来る、斯ういふ事の感じがありますれば、それで財界は落著く譯で、即ち神経過敏のものが神経が鎮靜すれば餘程其處に効果がある、斯ういふ事であらうと思ふのであります。補償法によりまして貸してある金高は七、八千萬圓であるのであります。よく世人が五億圓の補償であるのに五、六箇月経ちながら僅か七千萬圓か八千萬圓位の貸出高では少ないではないか、即ち補償法の精神が十分行はれて居ないのではないか、斯ういふ事を云はれる

のであります。併しながら私は、補償法によつて現在貸してある金高の大小といふことは論でない、斯う思ふのであります。補償法の此の財界鎮靜に効果のあることは、金が貸してあるから貸してないからといふ問題ではないのであります。若し假に四月のやうな事が再び起つたならば、樂に金融が出来る、從て銀行に對して危懼の念を抱く必要が無い、斯ういふ事が即ち補償法の精神であります。然らば此の補償法の効果は最早之れで盡きて居るか、斯ういふ事を考へますと、私はさうは考へて居らぬのであります。補償法の効果は、今後にも非常に重要なものと考へるのであります。それは何故かと申しますと、御承知の如く、歐羅巴の戰爭中に、日本のみならず、世界各國共に銀行の資金の固定したことは著しいものであります。其の固定した財産を段々流動化する、或は資金化するといふやうなことをしなければ、此の金融機關の基礎は確實にならぬのであります。併しながら申すまでもなく、信用機關が固定した資金を流動化させるといふやうな事に致しますと、往々にして信用機關の信用を疑はれるやうなことがあるのであります。然るに日本は、只今は補償法といふものがありまして、其の有効期間は來年の春一

杯あるのであります。さう致しますと、其の間に此の固定したものが假にあるとすれば、それを流動化する資金化するといふことには、此の補償法の有効期間が最も工合の好い時でありまして、若し此の時機を失したならば、再び固定資金を十分流動化することは出来ないといふことも考へられるのであります。それで日本にもさういふ類似の銀行がありますならば、固定貨を資金化して行かなければなりません。其の場合に、若し信用を疑はれるやうな事がありましたならば、補償法のありますことは、それに對して非常に有效なる處置をすることが出来るのであります。今後も日本の金融機關の整理に就きまして、最も有効であると考へますので、其の途をとつて行かなければならぬと考へて居るのであります。

尙休業銀行の事に就ては、貴方がたは既に、目に飽くほど新聞で御覽になつて居るし、耳にも飽いて居られるだらうし、今日は又十一時から大藏大臣の官舎で何時間といつて聽かされた方もあるのでありますから、今更私が申上げる事も無いのであります。此の休業銀行の整理の事に就きましては、説明をしますよりも寧ろ貴方がたに御了解を願つておきたい事があるのであります。それは御承知の如

く、休業銀行の整理は即ち休業銀行自體が整理するのが本則であります。日本銀行や政府が此の休業銀行の内部を調査して居るといふことは何故かと云へば、御承知の如く、若し此の休業銀行が店を再び開く場合に、一旦店を開きながら再び店を閉めるやうな事があつては財界に復た波瀾を起す、左様な事の無いやうに休業銀行の整理に就て補償法に所謂將來に營業を繼續して行き得るや否やを見て、さういふ銀行であるならば、補償法によつて金を貸すといふ二つの目的の爲めに見て居るのであります。極く一般の話を申し上げますと、四國で今治商業銀行といふのが長く休業して居つて、此の頃復活して補償法によつて金を貸したのであります。併しながら銀行が減資をして、重役が私財を提供して、さうして缺陷を悉く埋めたのであります。其の爲めに此の銀行は復活する事が出来た。即ち日本銀行及び政府は、補償法に所謂、今治商業銀行は將來に於て立派な營業の出来る銀行であると見たのであります。それによつて金を貸したのであります。さういふ必要の爲めに今治商業銀行の内部を見るといふことが、吾々の立場であります。併しながら多くの休業銀行の

中には、資本を割つても積立金を捨てても、重役が私財を出しても未拂込を拂込んでも、其の穴を埋め得ないものが多數あるのであります。さういふものを見ると、中々自立は困難であります。自立が困難だからといつて、其の儘に此の銀行を抛棄しておきますならば、日が経つに従ひ其の銀行の財産は段々湮滅します。従て所謂預金者の財産といふものは段々減少して行くのであります。其の爲めには、吾々は預金者の財産の保護をすることを任務として居るのであります。従て前に申す唯單に内輪の調査をしておくよりも、少し立入り過ぎた嫌ひがあるのであります。が、さういふ意味に於て休業銀行の内輪を調査して居るのであります。仍て左様な銀行でありますと、自立は出来ないと申しますと、縦し補償法で金を借り得られても、それを支拂ふ資格は無いといふことの爲めに、止むを得ず新銀行をこしらへて此の休業銀行の債權債務をそれに引繼いで拂ふ、斯ういふ事の仕組になつて居るのであります。従て此の新銀行は、一方から申しますと、休業銀行から引継ぎました財産を以て補償法により金を借りて、其の金で預金を支拂ふのであります。又一方には、此の銀行は普通の營業を営むのであります。幸ひ東京、大阪、名

古屋の大銀行の援助を得、又財界有力者の犠牲的精神によりまして後援を得たのでありますからして、此の銀行は必ず將來世人の信用を得て、立派に營業をやつて行くことが出来るであらうと思ひます。新銀行をこしらへて行きますことは、一方から申しますと中々手數であります。併しながらよく事態を考へて見ますと、今日に於ては休業銀行の預金が支拂はれないといふことが重要な問題になつて居りますけれども、之れが再び形勢を變化して預金が拂へるといふことになる、今度は此の休業銀行の持つて居る債權の取立をするといふことが非常な問題になります。私自身の考へでは預金の支拂はれないといふことも世人の大問題でありませんが、若し假に片端から此の休業銀行の持つて居ります貸出金を回収して行つたならば、預金の支拂はれない以上に大きな問題を生じます。休業銀行が持つて居ります債權は、東京、大阪のものを合せますと可なり大きなものであります。それを一文残らず取立てて見ようというても中々出来るものではありません。ところが貴方がたに御了解を願つておきたいのであります。新銀行が出来て評價致しました財産を以て補償法によつて金を借りる、幸ひに預金者が預金を其の

儘置いてくれれば尙宜しい、預金が取られても預金が補償法による借入金に肩代りをするのであります。それで借入金を以て預金の肩代りをして、さうして債權を漸次取立て——取立てると申しますよりは、其の銀行が營業を繼續して自分の得意先として段々盛立てて行きましたならば、財界の波瀾を起さずに済むであらうといふことが考へらるるのであります。故に其の點に就きましては、新銀行を立てる根本の趣意に就きまして、皆様の御了解を得ておきたいと思ふのであります。此の整理を致します銀行として、債權を残らず取立てて見るといふやうなことを想像し、東京の街の真中に休業銀行の持つて居る何億圓といふ債權があるといふことを考へて、之れを整理銀行として片端から取立てるといふことを考へて見たら、殆ど想像のつかないやうな大きな波瀾を起すのであります。それで新銀行を起しまして、非常な無理を申して大銀行なり財界なりの有力な方に株を持つて戴いて、廻はり諄く新銀行までこしらへるといふことは、其處に趣意があるといふことを一つ貴方がたに御了解を願つておきまして、偕て新銀行が出来た曉に、營業を繼續して行きます上に就きまして、十分の御援助を得たいと、今日からお

願ひする次第であります。

尙今日の經濟上の所謂現狀に就きましては、私より貴方がたの方が却てお詳しいので、私が申す事もないのであります。唯私が見た現狀を申上げて見ますと、四月にあの騒ぎがありました。それはあの時に何か財界に突如として財界を混亂すべき事柄が起つて來たのではない、大正九年からの財界の實狀が段々廣く感知されるやうになつたことの爲めに恐怖心を起して、あんな事柄が起つて來たのであります。起つて見ますと、實に豫想しないやうな大きな騒ぎが出來た爲めに、モラトリアム、補償法といふやうなものが出まして、漸く財界は鎮靜したのであります。六月末までの事を今から考へて見ますと、非常な神經過敏であつたのであります。財界が神經過敏になりますといふと、これまでずつと圓滿に行はれて居りました事も總ての部分に故障を起すのであります。事業會社が不規則な金融をして居つたものも中々遽に之れを改めることも出來ないし、又銀行業者諸君も今更の如く種々の仕事に就て新たな考へを以て御覽になつて、之れを改めようとなさるといふことの爲めに、可なりに神經過敏で金融も梗塞したのであります。事

業會社は可なり金融に苦しんだのであります。然るに七月となり、八月となり、今日になつて參りますと、今數箇月前まで人の口の端に上つて居りました事業會社の金融も段々と片附いて來て、時の經るに従ひて神經過敏も段々鎮靜して來まして、今日に於きましては、株の値段も何となく、理窟はありませぬが、落著いたやうな氣が致しまして、五月、六月には割引の出來なかつた手形も稍割引が出來るやうになり、株券も値が落著いた爲めに擔保になるやうになりました。非常に落著の無かつた財界も此の頃では少し落著いたやうな氣が致します。此の調子で今年一杯も進みましたならば稍宜しいかと、私は考へて居るのであります。勿論此の不景氣狀態は、此の度の財界の騒ぎで一層深刻になつたやうな感じが致します。口實を求める事もあります。此の度の銀行騒ぎで斯うなつた、あゝなつたといふ口實もあります。事實三月、四月からの狀態で不景氣が一層深刻になつた氣も致します。又支那の動亂、或は原料の如何によりまして綿絲の如きも安い、生絲も内地の金融、亞米利加の事情の爲めに安い、米も豐作の爲めに値段が安いといふやうな事もありまして、財界は一層廻はり合せが悪いやうな氣が致します。併しながら外

國貿易の如きも、餘りさう悲觀する必要も無い。爲替の如きは最近餘程下向いて居りますから決して樂觀は出來ぬのでありますが、先づ今の調子で參りましたならば、相當に落著くかと考へて居ります。併しながら、大正九年からずつと經來つた今日の不景氣が直ぐに恢復しようとは思ひませぬが、少なくとも銀行の取付騒ぎから出て來た神經過敏の状態が稍落著いて、段々まはりが良くなつて、三月、四月の恐慌前の状態に復りつゝあるやうな感じを、私は持つて居るのであります。まあ今日では將來に對する見越を致しますことは何人も出來ない時代であります。が、現状に對する私の感じは、そんな事を考へて居るのであります。

尙私は終りに一言私の感じを申したのであります。今日の如く段々不景氣になりますと處々方々で悲鳴が出ます。皆苦しいから色々な事を申します。併しながら其の結果、金融界、經濟界に對する意見が、或はそれに對する對策が、皆自身の立場からのみ出まして、廣く日本の財界全體を見た意見に非ず、又對策に非ずといふやうな氣がしまして、誠に遺憾に感ずるのであります。私は此の頃の銀行騒ぎから、日本は非常な大切の時機に遭遇して居ると思ふのであります。即ち

これで日本の財界が本當に立直るか、或は過去五、六年間の如く日本の財界は又再びうだり／＼してはつきりした天氣もなしに行かなければならぬか、餘り長く左様な時代が続けば日本そのものが衰へるのではないかといふやうな氣が致します。此の大切な時機に對しては極めて目前の都合のよいこと、即ち自分自身の立場のみから經濟論を爲すといふことは禁物である。即ち此處で禍根を残してはいかぬので、根本的に此の時機に整理して、日本の此の經濟界を立直すといふことを覺悟して行かなければならぬと、私は思ふのであります。大正九年から今日までの經過を見ますといふと、財界に居る者は苦しみ、苦しみに抜いて居る、此の時機に遭遇して尙再び禍を残して同じ事を繰返すといふことは、吾々にはもう堪へられぬのであります。茲に於て根本的に立直るやうにしなければならぬ。勿論これ程の時代であります、これ程の大なる經濟界でありますから、決して一朝一夕に之れが根本的整理が出來ようとは思ひませぬけれど、此の時機に於きまして、苟も經濟界を見、經濟界に對する對策を講ずるならば、遠い將來を見て爲すべきで、唯目前の事のみを見、或は自己の立場のみからして割出すやうな對策は、私は大禁物

であると考へるのであります。其の點に就きましては經濟界の中樞に立つて居られる諸君のことでありますから餘り勝手氣儘な意見に同意されずに、十分慎重な態度で此の經濟界を指導せらるゝやうに、私は希望して止まぬ次第であります。私も小野さんの切口上に釣られて甚だ固い事を申上げて相濟みませんでございましたが、どうぞ御容赦を願ひます。

第二十回 關西銀行大會演說

(昭和二年十一月二十五日
於名古屋工商會議所)

本年三、四月に起りました銀行の取付は我國の財界に於ける未曾有の事件でありまして、斯かる事の起りましたことは誠に遺憾の極みであります。而して斯かる不祥事の起りました原因は、戰時中の大好景氣後の大正九年の財界反動並に大正十二年の震災に發するものでありまして、財界の變動が餘りに過激であつたことにも基くものであります。併しながら結局は、主として我國の銀行の經營振りに大なる缺陷があつたことに歸著するのであります。故に吾々銀行業者は今後大いに銀行業務の經營に就て改善する所が無ければならぬのでありまして、私は今日は我國の銀行業務に於て一大革命を要する時機であると信じて居るのであります。而して過般の恐慌に於きましては、吾々は幾多の重要な經驗を得たのでありますから、銀行業務の改善刷新を圖るに當りまして、此の苦き且つ尊き經驗

に基きまして、苟も缺陷と考へらるゝ所は根本的に刷新を圖らなければならぬのであります。然らざれば過般の如き不祥事を再び繰返して、我國財界の健全なる發達を期することは不可能となるのであります。

銀行業務の改善

銀行業務の改善、刷新には、第一に銀行制度の改善を必要と致します。私の経験によりますれば、従來の我國の銀行制度には不十分の點が頗る多いのであります。其の改正案は幸ひに去る五十二議會を通過し、新銀行法として明年一月一日より其の實施を見るの運びとなりましたことは、極めて喜ばしい次第であります。新銀行法も未だ完全なものとは稱し難き所もありませうが、政府當局並に當事者に於て、此の法律改正の精神に遵ひ其の命ずる所を斷行し得ましたならば、銀行業務の改善、刷新の上に多大の效果があるものと信じて疑はないのであります。

第二は銀行業者の協調であります。假令如何に銀行制度が完備し、政府當局が之を勵行せられましても、若し銀行業者自體が進歩、改善をなす念慮に乏しけれ

ば到底斯業の完全なる改善、刷新は期し難いのであります。故に銀行業者は過般の經驗に鑑み、従來の經營振りを顧み、此の際大いに自ら改むるといふ覺悟が極めて必要であると思ふのであります。而して其の改善すべき最も主要のものとして考へらるゝものは、銀行業者間の協調であります。過般の金融界の動搖に當りまして吾人の最も痛切に經驗しましたことは、銀行は相互の間に非常に密接なる關係がありまして、我れ一人健全なれば他は如何に不健全なりとも我れ關せず焉との思想は大なる誤りであつたことであります。過般の經驗に徴しますれば、假令自分の銀行の信用は確實であつても、附近の銀行が取付を受けますれば、自分の銀行も亦災厄に遭遇せねばならぬといふことが明白となつたのであります。故に銀行業者は今後は自他の別無く大いに協調して、共存共榮の途を講ぜねばならぬと思ふのであります。現在の狀況より致しますれば、政府並に日本銀行が如何に銀行業務の改善に焦慮致しましても、銀行業者諸君が何れも銀行界全體の改善、刷新をなすといふ精神を以て之れが實行に當らるゝのでなければ、到底其の目的は之れを達することが出来ぬものと考ふるのであります。

銀行業者の協調といふことは、之れまでも既に屢唱へられた所でありまして、例へば預金利率の協定、又最近には配當率の引下等が行はれました。併し銀行業者間の協調は、言ふは易く行ふは頗る難いのでありまして、預金利率の協定はありまして、一方には預金争奪の激甚なる事實があり、其の結果銀行界全般に禍害を與ふることが少なくないのであります。又過般の財界の動搖に際し、各銀行が巨額の無擔保の短期の融通手形を擁して、銀行は勿論、事業會社も共に多大の困難を感じたるが如き、又社債の發行に於きまして、銀行は極めて少額で、無擔保のものが大部分を占めて居る如き變態を生じて居りますのは、仔細に之れを観察致しますれば、此れ等は皆銀行業者間の協調の缺けて居ることを證するものでありまして、寧ろ却て取引先に翻弄せられ、銀行業者の權威を失墜することの多いのは、銀行業の將來の爲めに極めて遺憾とする所であります。又銀行と最近發達せる信託會社若くは從來のビル・ブローカー銀行との間に於きまして、競争激甚の實例の暴露せらるゝことがありますが、私は此の三者の如きは互に相嫉視すべきものにあらざして、寧ろ同種の金融業者として互に相協調すべきものであらうと

信じて居るのであります。

其の次に銀行業務の改善に關聯致しまして、尙一つ茲に特に申述べたいのは銀行業者の養成のことでありまして、凡そ如何なる事業に於きまして、其の成功と不成功との岐るゝ所は要するに人にあるのであります、殊に銀行業の如き最も信用に重きを置く業務に於きましては、之れに従事する人の問題は一層重大であります。人格も低く、銀行業務に經驗も無く、又銀行業務に對して何等の主張も持たぬやうな人が銀行業務に携つて居るやうでは、其の銀行の業績のあがらぬのは當然であります。故に諸君の後繼者の養成に就きましては、特に慎重の考慮を拂はれんことを希望する次第であります。之れに就きまして私見を一つ申述べますれば、今後地方銀行の發展を圖る上に於きまして、地方銀行では、地方出の人で人格もあり教育のある人を御採用になることが、得策ではないかと思ふことでもあります。高等の教育を受けた青年は兎角地方に歸つて地方銀行に這入ることを喜ばず、都會の大銀行、大會社等に採用せられんことを希望するやうであります、私は青年に對しては必ずしも斯かる事が今後得策ではないといふことを申したい

のであります。地方の銀行に居りましても、銀行に關する業務の知識と經驗とを得て其の能力を十分に發揮することが出来ればそれで宜しいのであつて、又斯かる有能の人は後に至り必ず大いに發展するものと考へらるゝのであります。地方銀行に有爲の青年の活動する餘地は十分にあるものと考へて居るのであります。要するに銀行業務の改善に就きましては、今後其の經營に當る人の問題に一層多くの注意を拂はれたいと希望する次第であります。

休業銀行の整理

休業銀行は全國を通じて多數あります。而して其の内容は同一でなく、種々異つて居る状態でありますから、其の整理に就ても種々異りたる方法を探つて居る次第であります。單獨整理の出来るもの、即ち資本金の殘存するか關係者の私財提供等によつて缺損を補填し、將來營業を繼續し得る見込のあるものは單獨整理の方法によるのであります。例へば、四國の今治商業銀行の如きは之れであります。又九州にも一行此の方法にて整理し、不日開店の運びとならうとして居るも

のもあります。單獨整理は出来ずとも、他の銀行に合併し得るものは合併の方法によるのであります。又休業銀行中には、資本金の減少、未拂込株金の徵收、其の他重役の私財提供等を致しましても尙且つ其の全債務の支辨をなし得ぬものもあります。斯かる銀行の自立は到底見込の無いばかりでなく、若し斯かる銀行の整理を其の重役、株主又は債権者のみに一任しておきますならば、時を経るに従ひて其の銀行の財産は煙滅するの虞れがあり、従て預金者の不利益は益、増加するのみでありますから、政府並に日本銀行は預金者の利益を保護する爲めに、斯かる銀行に就きましては其の内容の調査をなし、財産を評價し、又其の財産を保管し其の資金化を圖り、出來得るだけ多く預金者に其の預金の支拂を爲さしむるやうに努力して居るのであります。此れ等の休業銀行は到底自力を以て復活するの見込は無く、従て補償法によりましては貸出をなすことは困難なるものでありますから、止むを得ず新たに新銀行、即ち昭和銀行を設立致しまして、之れに合併することと致したのであります。乃ち昭和銀行は休業銀行の債權債務を引継ぎ、一方には預金の支拂をなし、他方には普通銀行の業務を營むものであります。大銀行と財界

有力者との後援がありますから、昭和銀行は必ず世人の信用を得て、財界の安定には多大の功績をあげ得るものと期待して居る次第であります。而して休業銀行中、村井、中井、中澤及び八十四の各行は整理案も出来、預金者の承諾を求めつゝありまして、既に其の大部分は調印済となつて居りますから、遠からず昭和銀行に引繼がれ、預金の支拂を開始するに至るでありませう。左右田銀行も大體同様であります。之れは横濱興信銀行に合併せらるゝのであります。近江銀行は最初單獨開業の整理案を考究中でありましたが、それは事情困難なる爲めに之れも昭和銀行に合併せらるゝ豫定となつたのでありまして、目下未拂込株金の拂込を徴收しつゝありますから、遠からず整理案を得ることとなりませう。而して十五銀行は關係者に於て目下單獨開業の整理案を考究中であります。

現在に於ける金融界は引續き緩慢の状態を繼續して居りますが、此の緩慢は多少變態的の性質を有するものであることを忘れぬことが肝要であると思ひます。本年春期に於ける金融界恐慌の結果として起りました資金の偏在といふことが、其の緩慢の一因をなして居るからであります。併し此の資金の偏在は種々なる

形に於て漸次緩和されつゝあります。年末に差懸つて資金の繁忙、金利の昂騰を見ることあるべきは之れは固より當然であります。が、事業界に於ける資金の需要は尙俄に急激に増加するものとは思はれませぬから、豫期しない事が起らざる限りは、金融の大勢と致しましては、尙當分緩慢状態を繼續するであらうと想像致します。尤も近來社債發行頻發のことがあります。が、之れは漸次金融を引締むる一因となつて居ります。金融緩慢の時期に於きましては、銀行は資金の放資に就き困難を感ずるものであります。斯かる時機に於きましては、銀行の放資に就き特に慎重の御注意あらんことを希望する次第であります。

今春起りました金融界の動搖は、財界にこれといふ特種の事件が起つた爲めに發生したものではありません。既に大體其の鎮靜を見るに至りました以上、一般財界の大勢と致しましては、漸次動搖前の状態に復歸しつゝあるものと思はれます。併しながら其の以前より引續ける幾多の財界不況の原因は俄に除去せらるゝものではありませぬから、妄に財界の前途を樂觀するが如きは固より危険のことです。

東京手形交換所新年宴會演說

(昭和三年一月三十日)
於東京銀行集會所

今夕は手形交換所の新年宴會に御招待を蒙りまして、村長首め助役書記まで大勢罷り出まして御馳走になり、誠に有難うございます。昨年は厄年に遇ひましたが、此の正月は如何にも結構で居られます。どうか前厄だけにして是非とも後厄の無いやうに切に祈りますし、又さうなるやうに努力せねばならぬことと考へるのであります。

只今池田委員長より、去年の銀行の出來事からして此の銀行の改善を圖り既に著手して居られ、尙今後其の事に就て歩を進められると承り、誠に結構な事と考へるのであります。色々、善導をしたい、又斯うしたならばといふ事も實は考へて居るのであります。其の點に就ては具體的に段々御相談を致したいと思つて居ります。唯々今晚は一般的に此の種の出來事の原因とでも申します事に就て、私の

考へました事に就て申上げて見たいのであります。只今委員長から述べられたやうに、或動機によりましてあの出來事が起つたのであります。併しながら根本の原因に遡つて考へますれば色々あらうと思ひますが、其の中であの騒ぎの前から今日までも續いて居り、又今後も起りさうであるやうな原因の一つと致しまして、私は銀行業者間に於ける不當競争といふ事に就て、今晚は私の所感を申述べて見たいと思ふのであります。

今日の世の中で、銀行なら銀行といふものの間の競争を防ぐといふことは、之れは出來ぬ事であり、又弊害のある事でもあります。一種の專賣或は特許でない以上は必ず競争は伴ふものでありまして、競争あつて初めて社會の事物は進歩發展するのであります。競争が無かつたならば直ちに總てのものが停滯してしまふと、私思ふのであります。併しながら過去の銀行の競争を見まするに、或は程度を越えたことはないか、或は又銀行の制度でない事で酷く不當な競争をしたことはないか、といふやうな事が考へられるのでありまして、其の結果として競争者が非常な弊害を被り共倒れをする、社會全體に害毒を流すこともあつたのではないかと

いふやうな事も考へらるゝのであります。誰も銀行間の不當なる競争として挙げまするものは、預金の競争、高い利息を拂つて預金を掻集め、さうして預金が之れだけ殖えたと云つて世の中に誇り、又それによつて信用を買はうと致すのであります。併しながら斯かる事柄は、非常な弊害のあることは勿論申上げるまでもないことでありまして、高い資金を持つて居れば銀行の經營の上に更に餘裕が無い。私は、日本の銀行の經營には、總ての方面から考へまして、今少しく餘裕のあるやうに經營することが必要ではなからうかと考へて居るのであります。高い資金を持つて居れば直ちに貸出の方に焦らなければならぬといふやうな事が出て參ります。多數の休業銀行の中を見まするに、實に高い預金を澤山預つて居ります。一方から申しますると、高い利子を貪る爲めに、弱い銀行につけ込んで金を預けたといふやうな形跡が澤山あります。併し一方から申しますと、其の銀行は高利の金を預からざるを得ない、如何に高くとも預からざるを得ない事情もあつたのであります。今日の休業銀行の預金の表を見ますと、高利を貪る爲め弱い銀行につけ込んで預金をして居つたといふやうなのを澤山に認めるのであります。

其の結果が、處々方々に悪い形跡を現して居るのであります。之れは昔から澤山日本にある議論であります。吾々は斯くの如く高く金を廻はすことが出来るのであるから、高く預金を預かつてもちつとも差支へ無いではないか、それが銀行の腕前である、銀行は預金者に向つて高く利殖してやれば結構ぢやないか、何ぞ預金を安く預かり預金の協定などをする必要があらうぞ、といふことを頻りに唱へた人もあり、又さういふ時代もあつたのであります。斯ういふ意見は今日は段々無くなつたやうであります。若し銀行を單に預金者の預金を利殖してやる機關とばかり考へたならば、高い預金を預かつてそれをどうか斯うか廻はして行くことも一案でありませうけれども、さう考へることは所謂盡した考へとは云はれぬのであります。銀行の爲すべき任務は實に澤山ある。高い利息を拂つてやるよりも寧ろ預かつた金を安全に保管し、之れを確實なる處に放資するといふことが、銀行の主たる任務であらうと考へるのであります。銀行は寧ろサーヴィスを提供するものである。銀行は唯單に金を利殖するといふものでなしに、寧ろ得意先に向ひ一般社會に向つてサーヴィスを提供するものが銀行家の本務ではないか。一

般社會に向ひましては銀行家は、産業資金の供給、或は生活の關係に於て、或は物價の關係に於て、廣く社會民衆の生活に非常な重大なる關係を持つて居りまして、其の意味に於てこそ此の銀行といふものは寧ろ公益機關の本領があるのであります。さう考へますといふと、私は預金の競争——既に預金協定もやつて居るのでありますけれども、尙預金の競争は絶えぬのであります。さういふ事は、之れは過去の出來事、過去の出來事の爲めに銀行に禍ひしたといふことの事實にしてしまつて、今後は決して再び預金競争を繰返して銀行を危機に瀕せしむることの無いやうに、私は切望して止まないであります。

尙次には貸出に就ての競争であります。これまで金融緩慢、金利低下の場合には何時でも貸出の競争があるのであります。世界戦争の間に俄に資金の増加したといふ事の爲めに放漫に貸出されて、若し今日の銀行の固定貸とか、或は不良貸といふものが多數の休業銀行をこしらへるやうになつたと考へるならば、恐らくはそれは世界戦争によりて一時に資金が殖えた時に原因して居ると考へるのであります。過去の經歷を見ますといふと、何時でも金融緩慢、金利低下の場合に禍

ひの因が出て來て居るのであります。今日も工業俱樂部の不當競争の會議に行つて見ましたが、事業家達は銀行貸出の競争の爲めに事業が破壊されたものが澤山あると云つて、多數の例を列擧して頻りに銀行業者を責めて居られました。此の村では私も貴方がたに斯やうな意見を申述べますが、一步他村に踏出ては憤慨に堪へぬのであります。銀行の過ちもあるかも知れないが、事業家の過ちも亦尠なからずといふことで、今日は抗議、抗辯を申込んで來たのであります。併しながら、左様な事實も必ずあつたらうと思ひます。競争の結果として不當な貸出をなし、自ら禍ひを招くと同時に、廣く經濟界を破壊するといふ事があつたのであります。それでありますから、此の事柄も之れは過去にあつた事實として、將來再び繰返したくないのであります。併しながら目下の此の金融界を顧みますと、一方には非常な不景氣があり、一方には未だ資金偏在といふことが片附いて居ない、元に還つて居ない爲めに、最近是非常に金利が低下して居る。若し之れが本當の意味に於ての金利の低下であるならば、大いに賀すべき事でありますが、只今委員長の云はれた如く、之れが變態的金利低下であり金融緩慢であるならば、此の際に於て

は大いにお互は慎まなければならぬ事ではないか、斯ういふ事を、私は感ずるのであります。過去に於きまして、今日と同様な時代がありました。其の時代に於て、吾々が非常な過ちをしたことは決して昔の事でないのであります。同一の事情に同一の過ちをしたといふことを深く顧みる必要があると、私は思ふのであります。最近再び無擔保コールの取引が段々盛になる、或は過日の新聞によりますと、單名手形が大いに歓迎されて、銀行者間に奪ひ合ひでもされて居るやうな事が書いてあるのであります。新聞必ずしも眞の事實を報じて居ると私は考へぬのであります。若し左様な事がありますならば、これは非常な重大なる出来事として、吾々は考へておかなければならぬことと思ふのであります。過去に於きまして、融通手形が殖えた、又單名手形が非常に殖えた、コールの取引が極端に盛になつた、或は社債の發行が非常に競争されたといふことは、餘り前でない年に經驗して、其の結果が昨年のやうになつて來て居ると考へると、之れは決して輕々に見ることは出来ぬ事と、私は考へて居るのであります。

尙金融緩慢の場合に、貸出の競争と共に常に行はれます事は社債の發行であり

ます。社債發行は金融緩慢、金利低下の場合に、何時でも酷く競争が始まるのであります。斯くの如き時代に、堅實なる社債の發行されることは大いに歓迎するのであります。併しながら斯くの如き時代には常に極端なる競争がありまして、其の發行の方法、形式を見ますと、擔保附になるべき筈のものも競争の結果遂に無擔保になつてしまひ、或は其の他の條件も斯くあるべきと思ふ事柄が競争の結果何時でも緩和されて、稍放慢の形になつて社債が發行されるといふ事が多いのであります。一昨年から昨年にかけては、社債の不渡の爲めに、財界の可なり表面及び裏面に於て苦しんで居たことがあるのであります。それでありまして、此の點に就ては私は大いに注意を要すべき事と考へるのであります。元來此の證券を發行する、即ち人に賣渡すセキュリティスをこしらへるといふ事に就ては、非常に重大なる責任を感じなければならぬのであります。自己の金を貸すに非ずして他人に之れを持たせるといふことは、寧ろ自己の金をそれに放資する以上に責任を感ずべき事と思ふのであります。金額も大きうございます、年限も五年、十年乃至十五年といふやうな長いといふ事に就きましては、殊更其の責任を重んじ

なければならぬ事と思ふのでありまして、此の點に就きましては、銀行者諸君、信託會社の方々、又證券會社の方々にも、決して不當な競争をされてあやふやなものをこしらへて世間に出さないやうに、切に私は希望する次第であります。金融の關係と云ひ、發行の形式と云ひ、其の方法と云ひ、其の事柄に就ては十分の注意を要することと考へるのであります。日本の現在に於きましては、手形割引市場も無し、又證券の取引も未だ完全に發達して居ないのでありますから、此の銀行の短期資金の放資といふことは、實に困難を感ずるのであります。併しながら此の事柄は、過去に於てお互に随分苦しい經驗をして居るのでありますから、只今委員長の云はれた通り、銀行の改善方法としては如何にして日本に有利に短期の資金を放資すべきかといふことは、確かに銀行改善の考究題目の重大な一つであらうと考へて居るので、今後機會に應じて卑見を述べ、又皆様のお考へも聽きたいと思ふのであります。短期資金の確實なる放資といふことに就きましては、餘程考へなければ、日本の金融界の健全を圖るのに缺點のあることと考へて居るのであります。尙私は繰返して、銀行經營に就て將來もう少しゆとりのあるやうに經營したいと

いふことを、切に希望するのであります。それに就きましては、只今申しました如く、餘り高い預金を集めることは今後銀行の基礎を鞏固にする上から行けば非常に考へなければならぬと思ふと同時に、配當も儲かる銀行が多く配當するのは何の差支へも無いと云はるゝ向もあります。銀行は他の經濟機關の基礎機關として何よりも重要なものであつて、此の機關が不確實でありますと、其の國の經濟界の健全を保つことが出来ぬといふ公益的の自分の地位に鑑みて、なるべく配當はコンサーヴァティヴにして戴きたいと思ふのであります。昨年上半期から一般に配當を減じ、今日までお互に銀行界の改善の爲めに盡して居りますことは、誠に斯界の爲めに喜ばしい事と考へて居るのであります。唯特種の銀行に於て、——事實は承知致しませぬが——配當を殖やすといふやうな計畫があるやうに聞きますが、唯半年配當を減じたとして何の意味をなすか、其のやうな事を考へますと、吾には理解が出来ぬのであります。政府が許可すればそれで宜しいといふことは、何人にも考へられなからうと思ふ。銀行は自ら責任を以て經營する銀行であるといふことを考へますと、吾々には殆ど理解の出来ぬ事であります。之れは又

特種の事情があるのでありませうから止むを得ぬのでありませうが、只今此の銀行界に處してお互に此の金融界の改善を圖るには、どうか私の申す事にも耳を傾けてお聽きを願つておきたいのであります。

段々此の銀行も、去年の経験によつて、又新銀行も出來ました爲めに、餘程銀行も整理されて數も減ります。従て資本金も殖えます、預金も非常に殖えますので、今後は私が申しますやうに、銀行の經營の上に於きましても必ずゆとりのあるやうな經營振事も確かに出來るであらう、即ちやれば必ず出來るであらうと私は考へるのであります。外國の銀行必ずしも堅實でないのであります。外國の銀行と比較して考へて見ますと、何となく日本の銀行には焦つてゆとりの無かつたといふ事實が認められてどうもならなかつたのであります。金融緩慢、金利が非常に安いかと思へば直ちに金利が突飛に高くなる、斯くの如き事も決して金融界の爲めに賀すべき事でないであります。産業資金は寧ろ餘り急激なる變化の無いことをこそ希望するのであります。寧ろ競争して金利を下げて、それが又事變が來れば直ちに突飛に上るといふやうな事は、私は全體の經濟界一般に互る影響に

就て、銀行者の大いに顧みるべき事と考へるのでございます。さういふ事を考へて居りました爲め、今晚は心安立に自分の勝手な希望を申し上げました譯で、甚だ相濟みませぬ。

經濟知識の涵養

(昭和三年五月十一日
於甲南高等學校)

吾々が一個人として日常生活をなして行く上に於ても、又日本の國民として國運の隆盛を期して行く上に於ても最も必要でありながら、兎角我國民に缺乏して居るものは經濟上の知識であると思ふ。今日世界の形勢は、御存じの通り富國は即ち強國であり、貧乏國は即ち弱國であるといふ状態である。それ故に各國共、自國の經濟的發展の爲めには極力努めて居るのであつて、世界大戦争は十年前に終息を告げたが、其の後に於ける列國間の經濟戰は殊に熾烈を極めて居り、各國共自國の産業發達の爲めには、政府を首め國民一般に至るまで、全力を擧げて之れが振興に努めて居るのであつて、近時産業の合理化、通商の自由等の問題の喧しく論ぜらるゝのは、其の一端を示すものである。

斯かる國際的經濟戰の盛である時代に於て國際經濟競争場裡の優勝者となる

には、直接實業に當る者は勿論、其の他の一般國民も亦經濟的知識を十分に持つて居て、國の經濟的發展に有益になるやうに行動しなければ其の目的を達成することとはむづかしいのである。例を以て云へば、國の産業の隆盛を圖る上に於て最も重要なものは産業資金の潤澤なることであるが、此の一國の産業資金といふものは、實に國民の貯蓄が金融機關に蓄積されたものより成るものであるから、國民が其の收入の殆ど全部を消費するやうな習慣がある場合には、國富の蓄積が十分でなく、産業上の資金も潤澤となるを得ぬであらう。又國民が必要以上の消費をなす場合には、一般に物價は騰貴し、外國からの輸入が盛となり、國際間の貸借は不利となつて行くのである。又一個人の經濟を營んで行くに就ても、其の財産を利殖して行く上に於て經濟上の知識が相當に無い時は、投資の方法を誤り、之れを失ふに至るのであつて、近頃のやうに世の中が複雑になつて、財産の形式が單純でなく、相當の注意を拂はなければ不測の損失を被る虞れのある時代に於ては、此の方面から云つても、經濟上の知識は何人にも必要なのである。

然るに我國民には、一般に經濟的知識が缺乏して居るのである。其の適例は大

正九年に起つた財界の反動と、昨年金融界の大動搖の場合に多數存するのである。大正九年には御承知の通り、世界戦争當時並に其の直後我國の財界が未曾有の好況を呈した大反動が來て、多數の事業會社が倒れたのである。當時の事情を顧みるに、世界戦争によつて我國は國際經濟上極めて有利の地位に立ち、從來嘗て經驗しなかつた程貿易上の出超國となり、又貿易外の受取勘定も異常の増加を來し、大凡そ四十億圓といふ巨額の資金を海外より獲得することが出來た爲め、我國の經濟界は劃期的の一大發展を遂げ、面目を一新し、内地の經濟界は未曾有の好況を呈し、物價は非常の騰貴をなし、各人何れも非常の利益を得たのであつて、當時は品物さへ買つておけば利益があるといふ状態となつたので、茲に一般人の間に投機心が勃興し、思惑が極度に行はれ、國を擧げて投機に走つたと云ふも過言でない程であつた。之れが爲め物價は更に昂騰し、財界は更に好景氣となるといふやうな勢ひで、其の間に國民の奢侈、贅澤も非常に増長したのである。然るに大正九年三月に此の好況に對する大反動が一時に襲來したので、物價は急轉直下の勢ひを以て暴落するに至つたのであるから、各事業會社等は忽ち莫大なる損害を被るこ

ととなつて、破綻を暴露するものが續出するに至つたのである。尙此の間の事情を少しく詳言すれば、從來或二三の商品の販賣を主たる業として居た者が、手を擴げて殆ど有らゆる商品を思惑するやうになり、又所謂商會社なるものが雨後の筍のやうに簇出し、他方取引の方法も頗る不健全となり、同一の商品が實際の需要に基かず、單に投機の目的のみを以て幾回も轉々賣買せられ、空景氣が愈々盛となつたのであつた。併しながら識者は、好況時の後には必ず不況が來り、其の好況の程度が大なれば大なる程之れによつて來るべき不況の程度も深刻であるといふ經濟上の原則から見て、激しき反動の來ることを恐れたのであるが、大多數の事業經營者は經濟界の實際上の知識に乏しく、此の點を了解せず、又偶々之れを了解して居つても目前の利益を追ふに急であつて、不況時に對する對策を忽せにしたものも尠なくなつた。其の爲め反動の影響は一層激甚であつたので、幾多の事業會社は倒産し、然らざるものも業績不良となり、引續き今日に至るまで整理を要するの狀態となつたのである。

今此の財界反動の程度を少しく數字をあげて説明して見ると、大正三年七月の

東京卸賣物價を一〇〇とすれば、大正九年三月の指數は三三八といふ騰貴を示したが、反動後の同年六月には二六〇見當となり、其の後漸落して、今日に於ては一七八といふ所に下落し、之れを主要商品の價格に就て見れば、生絲は大正九年一月の相場百斤四千餘圓といふ最高相場より、反動後の八月には千百圓臺に落ち、其の後高低はあつたが二千圓を超ゆることは稀であつて、今日に於ては千三百圓臺に下落して居り、又綿絲は大正八年十一月一捆七百二十圓といふ高値を見たが、反動後の九年五月には三百圓臺に奔落し、更に大正十年には一時百六十圓といふ安値となり、其の後二、三百圓臺を維持し、今日に於ては二百三十圓臺を稱へて居る。又株式の價格は大正三年七月を一〇〇として、大正九年一月には二五〇見當であつたのが、反動後の六月には一一三見當に激落し、其の後は九二から一三〇見當の間を往復して、現今は一〇六を示して居るのである。

次に昨年の金融界の大動搖に就て述べて見ると、右に述べた如く一般物價、株價等が斯く下落すれば、總て財産を所有する者は打撃を被るのは當然であつて、之れが爲めに幾多の事業會社は破産し、又經營難に陥つたのであつて、銀行は此れ等の

事業會社に資金の融通をなして居つたのであるから、銀行も亦之れが爲めに打撃を被るに至るのは是れ亦當然のことで、貸金の回収は困難となり、又貸金の擔保たる物品並に有價證券等の價格も激落したのであるから、銀行の内容は非常に悪くなつたのである。斯かる場合に於ても、銀行の經營者が平常から慎重な經營振りをなして居たものは損失を被る程度も比較的少なく、又資力の大なる銀行は多少の打撃には耐へ得たのであるが、經營者に實際的知識が乏しく經營振りの放漫であつたもの、又は然らずとも銀行當事者に徳義心が足らず私利や情實の爲めに他人に向つて放漫な貸出をなし又は自身銀行の資金を流用して居つたやうな銀行は、多額の不良貸、固定貸を生ずるに至つたのである。斯かる場合に於ては、銀行は速かに根本的整理を斷行して内容の改善を圖るべきであるが、大正十年、十一年頃に於ては財界の將來に對する見込が立ち兼ねたので、整理は日一日と繰延べられて居たのである。然るに大正十二年に偶、關東大震災が起つて、我事業會社並に銀行等は再び大打撃を被つたので、事業會社中、將來營業を繼續し得るものと然らざるものとの區別が截然と別るゝに至つたのであつて、銀行に於ても貸出中、缺損と

然らざるものとの別が判然するに至つたのである。それ故に此の時期に於て一大整理を實行すべきであつたが、此の時も亦信用を生命とする銀行のことであるから、減資、減配等を行ふ時は世上の信用を失墜して預金の引出に遇ひ、經營難に陥ることとなる虞れがあるので躊躇して居るうちに、昨年春期に至り偶、五十二議會に於て震災手形關係法案が審議せらるゝに當り、二三の銀行の内情が世上に暴露せられた爲めに、預金者に危懼の念を興へ、終に我國未曾有の銀行取付騒ぎを惹起し、多數の銀行が休業せざるを得ざるに至つたのである。而して其の後政府並に日本銀行は種々なる方法を講じて來たので、過去一年間に於て、休業銀行を首め其の他内容不良の銀行の重なるものの整理は殆ど總て片附いたのであつて、大正九年以來我國財界の禍因であつた不良銀行の整理は茲に一段落を告ぐるに至つたのである。

大正九年の財界反動並に昨春の金融界の大動搖により、多數事業會社、銀行が破綻するに至つた事情の大體は右に述べた通りであつて、我事業會社並に銀行等の破綻の主なる原因は、其の經營者に經濟上の實際的知識が缺乏して居ることに存

するのである。此の點に關して茲に一つ其の最も代表的な實例をあげて見ると、それは或商事會社であつて、從來非常に手堅い或種の商賣をして居たのであるが、大正六、七年頃から我國の貿易が非常に盛で利益のあるのに誘引せられて、從來經驗の無い貿易業を開始したのであつた。然るに從來の商賣では大いに成功したのであつたが、新しく始めた商賣に新しい人を使つた爲め、無經驗の結果非常な失敗をして多大の損失を被り、終に破産の運命に陥つたのである。此れ等は失敗の原因が人にあるといふ好適例であつて、全く急激に膨脹した貿易業を經營するに足る知識と經驗とを有する人が無かつたといふことに歸著するのである。其の他當時破綻した事業會社中には、立派な教育を受けて居るが實際的知識と經驗との足りない人によつて經營されたものが可なり多かつたのである。又昨春の金融界動搖により窮狀を暴露した銀行の破綻の原因を見ても、例へば銀行の經營者が、銀行業務に就て趣味も無く又實際的知識も無いに拘らず、漫然銀行の經營に當つて居つたが爲めに營業振り放漫に流れ、自己又は銀行關係者の事業に多額の融通をなして、銀行を窮地に陥らしめたものが尠なくないのである。併し又他方

には、銀行經營上の實際的知識と經驗とは持つて居るのであるが、徳義心が薄い爲めに情實に驅られ、又は私利のみを追つて、自己關係事業に銀行の多額の資金を使用し、又は資産信用不確實なるものに對し融通を敢てして、銀行の内容を不良ならしめたものもあるのである。之れを要するに、我國に於て從來銀行、會社の經營が巧く行かず破綻するもの多いは、其の經營者が實際上の知識に乏しく、徳義心に於ても缺くる所があつた爲めと云つて差支へないが、之れと同時に、一般國民に經濟上の知識が缺乏して居ることも亦副因をなして居る。即ち一般國民も好況時には無謀な投機に走り、又は奢侈に耽り、其の結果之れによつて來る反動の程度を深刻ならしめ、又銀行業に對しても理解が足りない爲めに銀行を單なる利殖機關と考へ、預金利子の高率なることのみを目的として預金をなし、其の結果は銀行の經營を不健全ならしめ、自己も亦結局非常な損害を被つたのである。

斯ういふ風に我國の銀行、會社の經營者を首め、國民一般に經濟上の實際的知識の缺乏して居つたのは、明治維新以來我國に於ては政治的方面の革新が急であつて、且つ之れが華々しかつた爲め、青年の思想も自然時代思潮に動かされて空理、空

論を喜び、實務を輕んずるやうの風があつた爲めである。然るに日露戦争を一期として我國は急激に近代的の經濟發展を遂げたが、それは主として外國に於ける近代的の諸施設の外形のみを模倣したのであつて、經營者に於ても未だ近代的企業の經營に缺くべからざる實際上の知識並に徳義心に足らざる所があり、又一般國民に於ても斯かる近代的經濟社會に處する知識に於て缺くる所があつたから、其の結果銀行、會社の經營上蹉跌を生ずるものも多く、經濟界の健全なる發達も妨げられ勝ちであつたのである。故に我國の經濟的發展を圖る上に於て最も必要な事は、將來實業に従事せんとする青年は勿論、一般青年に於ても經濟に關する知識を涵養して行くことにあると信ずるのである。

第二十回 全國手形交換所聯合會演說

(昭和三年五月十五日)
大阪中央公會堂

昨年三月及び四月に起つた金融界動搖の鎮定並に其の善後處置と致しまして、日本銀行特別融通並に損失補償法及び臺灣の金融機關に對する資金融通に關する法律が制定せられました。此の兩法律による貸出の期間は去る五月八日を以て満了となりました。之れによつて日本銀行が貸出を致しました金額は、其の最終期たる同日の残高に於きまして、前者による分は六億八千七百萬圓、後者による分は一億九千百萬圓、總額八億七千九百萬圓に達したのであります。此の融通によりまして、休業銀行の整理は固より、其の他資金を固定して居つた銀行の整理も著しく進捗致したのであります。一方には預金者に對する預金の支拂に便宜を與へ、又他方には我國の銀行界も著しく改善せらるゝに至つたのであります。今右の二法律によつて日本銀行が融通を致しました事情を少しく具體的に申

述べて見ますと、臺灣の金融機關に對しましては、法律の規定の如く大藏大臣の命令によりまして臺灣銀行外二行に融通を與へたのであります。又日本銀行特別融通並に損失補償法に就きまして日本銀行が採りました方針は、先づ休業銀行中の資本金の減少、積立金の取崩し、若くは未拂込株金の徵收、其の他重役の私財提供等によつて内容の整理をなし、將來營業繼續をなし得る見込のあるものに對しては之れが整理を完了せしめて補償法による融通を與へ、以て單獨開業をなさしむることとしたのであります。今治商業、鞍手等の銀行は此の種の方法によつて開業するに至つたのであります。又資本金の減少、積立金の取崩し、未拂込株金の徵收、又は重役の私財提供等を行つても到底單獨開業の見込の無いものは別に新設したる昭和銀行又は其の他の適當なる銀行に資産、負債を讓渡せしめたる上、其の讓渡を受けた銀行に補償法による融通を與へて預金の拂戻を容易ならしむることとしたのであります。左右田、村井、中井、中澤、八十四、近江、徳島等の諸銀行は此の方法によつて整理せられたのであります。次に資金の固定を來した銀行に就きまして、或は單獨整理、或は合併整理、若くは業務の縮小等適當の方法を講ぜしめ

て補償法による融通を興へ、以て其の整理を容易ならしめたのであります。

斯くして昨年の恐慌以來一箇年の間に於きまして、休業銀行の主なるもの整理は勿論、其の他の銀行の整理も先づ一段落を告げ、金融界の不安は除去せらるゝこととなつたのであります。大正九年の財界反動並に大正十二年の震災によつて頗る不安を感じられて居つた我銀行界は茲に一大整理を遂げ、從來金融機關の不安より壓迫を感じて居りました我財界は此の壓迫より免るゝことを得るに至つたのであります。回顧しますれば、昨年の春金融界に恐慌の起りましたことは我財界にとつて洵に悲しむべき事ではありましたが、之れが端緒となつて却て銀行界の整理は行はれ、從來甚だ陰鬱であつた財界の気分は茲に頗る輕快を覺ゆることとなつたのであります。

銀行界は右に述べたやうに著しく改善を見ることとなつたのであります。補償法により巨額の資金が放出せられた爲めに、金融界は引續き異常の變態的緩慢状態を呈し、又資金の偏在をも來したのであります。即ち補償法によつて放出された資金は休業銀行其の他の銀行の固定貸を流動化せしめたもので、之れが預金

者に拂戻され、其の拂戻された資金は大銀行、信託會社等への預金となり、又は郵便貯金となつたのであります。恐慌前に比し、大銀行の預金は六億圓以上を、信託會社の金銭信託は約三億三千萬圓を、郵便貯金は約四億二千萬圓をそれゝ増加して居るのであります。恐慌によつて起つた資金の偏在並に金融緩慢の現象は、補償法による特別融通によつて一層其の度を高めたのであります。されば日本銀行の民間預金並に政府預金は、恐慌前に比し著しく増加を示して居ります。元來補償法によつて貸出されたる資金は經濟界の實際の需要に基いて放出せられたものではないのでありますから、動もすれば通貨の膨脹を來さんとするの虞れがあるのであります。

それ故に政府並に日本銀行は此の事柄に鑑み、金融緩慢並に資金の偏在をなるべく緩和することに努めたのであります。政府は新規國債の市場公募等を實行せられ、日本銀行は其の所有國債の賣却を行つて來たのであります。而して恐慌以來、日本銀行の賣却致しました國債の高は約三億圓に達して居ります。此れ等の關係と日本銀行民間預金並に政府預金の増加とによりまして、今日までのとこ

ろは、補償法による貸出が巨額に上つて居るに拘らず、未だ兌換券の増發といふ事實を來さず、從て又通貨の膨脹より生ずる弊害も認めぬのであります。即ち一般物價は引續き大體に於て保合状態を維持し、對外貿易も亦漸次改善の跡を示しつつあるのでありますして、恐慌後に於ける我財界は先づ順調なる経過をなして居ると申して宜しいのであります。

併しながら現在に於ける我國の通貨の状態を見ますと、大いに考慮を要するものがあるのであります。即ち日本銀行の貸出高は、去る五月八日の残高に於て十億五千七百萬圓といふ巨額に上つて居ります。而してそれにも拘らず、兌換券發行高が恐慌前に比し大差無き状態にあります所以は、上述の如く主として民間預金並に政府當座預金の増加によるものでありますして、恐慌前たる昨年二月末の數字と本年五月八日の數字とを比較して見ますと、民間預金は四億六千六百萬圓、政府當座預金は一億七千三百萬圓の増加になつて居ります。元來日本銀行が通貨を調節し得る力は主として其の貸出の方面にあるのでありますして、預金の方面には全然無いのであります。然るに日本銀行の貸出の大部分は補償法による貸

出でありまして、此の貸出は金利政策によつては之れを調節することが出來ぬものであります。而して右に述べました民間預金並に政府預金は何時でも引出されべき性質のものでありますして、今後其の引出しがあればそれだけ日本銀行の兌換券は増發となる關係にあるのでありますして、此の點より見ますれば、日本銀行の有する通貨の調節力には多少缺くる所があるのであります。從て我國の財界は、今後兌換券の増發が容易であるといふ事情にあるのであります。斯くの如き狀況に永く我財界を置きますことは最も好ましからざる事でありまして、常に多大の注意を要することと考へるのであります。

此の事情に對する方策と致しましては、今後とも政府は更に新規國債の市場公募をなさるゝとか、又日本銀行は更に所有國債の賣却をなし、又補償法による貸出の回収に努力するとか、種々の手段が講ぜらるゝのでありませうが、今後も我財界をして通貨の膨脹を來さず引續き順調なる経過をなさしめんとするには、政府並に日本銀行の力のみを以ては困難なる事でありまして、完全に其の目的を達せんが爲めには、我國の總ての金融機關の協力に俟たねばならぬのであります。從て私

は茲に銀行家諸君の此の點に關する御援助を切に希望する次第でありまして、銀行家諸君も之れに就き其の責任の一半を負はれたのであります。換言しますれば、今後諸君が各自其の銀行の貸出に就て一層の注意を加へられ、通貨膨脹の弊害の起らぬやう、政府並に中央銀行の政策に御協力あらんことを切にお願ひする次第であります。而して從來の經驗に徴しますると、一般銀行の内容の悪くなる原因は金融緩慢の時代に胚胎することが最も多いのでありますから、銀行自體の自衛上より云ふも、今日の如き金融緩慢の時期に於きましては、各銀行共特に其の貸出に注意を加へらるゝことが最も必要なる事であると信ずるのであります。斯くして諸君が政府並に中央銀行の政策に協力せられ、援助を與へられますならば、我財界は餘り久しからずして恢復の域に向ふことを信じて疑はぬのであります。又日本銀行の補償法による貸出が順調に結末を告げますならば、今日の變態的財界も漸次整理せられて常態に復歸するのであります。

次に對外爲替の状態を見まするに、昨年三月には正金建値對米四十九弗を示しまして殆ど法定平價に接近したのであります。但其の後金融界の恐慌によつて爲

替は再び逆轉しまして暴落を示し、昨年五月には四十六弗四分の一となりました。其の後多少の高低はありましたが、昨年中は終に恢復の氣運に向はないで、十一月中には却て一時四十五弗八分の五を出現したことがあります。然るに本年に入りましては多少向上の氣勢を示しまして、殊に三月下旬には俄に昂騰して、二十三日には四十七弗、二十八日には四十八弗となりました。而して其の後は概して四十七弗見當を維持して居りましたが、本月に入りましては、對支出兵等の影響によりまして一時復た暴落を見ました。併し最近は四十六弗八分の五見當に恢復しました。又對外貿易の状態を見ますると、昨年の輸入超過は二億九千三百萬圓で、一昨年比し一億五千萬圓以上の減退を示して居ります。又本年に入りましては、一月以降四月までの輸入超過は一億七千萬圓でありまして、前年同期に比し八千三百萬圓の減退に當つて居ります。即ち昨年來我國の國際貸借は漸次改善せられつゝあるのであります。

以上の如き爲替並に國際貸借の推移に就きまして此の兩者を綜合して考へて見ますると、本年に入りましてから爲替が多少づゝ恢復するに至りましたのは國

際貸借の改善に原因する所が少なくないのでありますが併しながら本年三月下旬に於て爲替が俄に騰貴を示しました其の最も有力なる原因は、主として東京電燈の外債成立氣構へに存するのでありまして、當時の急騰は全く一時的の現象と見るべきものであります。従て對外爲替の改善に就ては、尙一層の努力を要するのであります。

翻つて内地一般財界の實情を考へまするに、一昨年の下期より昨年の初めにかけて金輸出解禁實行の氣分は一般に頗る濃厚となりまして、當時政府は之れが實行をなすには先づ金融機關たる銀行の整理をなすことを急務とせられたやうであります。然るに三月及び四月にあの恐慌が起りましたして、金輸出解禁問題は茲に一頓挫を來したのであります。併しながら爾來一箇年の間に、金融機關たる銀行の整理は前に述べましたる如く最早一段落を告げたのでありますから、金輸出解禁の實行上に於ける一障礙は段段除去せられつゝあるものと云つても敢て差支へは無いと思ひます。故に他の事情にして機が熟しますならば、金の輸出解禁は之れを實行しても差支へ無いと

云ふことが出来るのであります。

然るに昨年の恐慌以來、我國の金融並に通貨の状態は一大變化を來したのであります。今日の状態は決して平時の状態とは同一視することが出来ぬのであります。目下の金融界は、前にも申述べましたる如く、異常の變態的現象を現出して居ります。又通貨の膨脹が容易であるといふ事情にあるのであります。加之、之れに對する日本銀行の通貨の調節力には缺くる所があるといふ状態にあるのであります。斯かる状態の下に於きまして俄に金の輸出解禁を實行致しますことは、其の結果を考へますと懸念無きを得ないのであります。申すまでもなく、金の輸出禁止の如きは全く變態的の臨機の處置でありまして、財界の全般の根本的整理を遂げて一日も速かに輸出解禁を實行し得るやう努力せねばなりません。之れに就ては先づ以て通貨の状態を改善することに努むることが最も必要であります。之れには今日の状態を惹起しました其の根本原因たる補償法による日本銀行の固定貸を、財界に急激なる變動を與へずして回収することに努力するのが、最も適當なる方策であると思ふのであります。而して金の輸出解禁は、右の固

定貨の回収が相當程度まで實行を見たる上に於てなすべきものであると信ずる次第であります。

尙去年の金融界の恐慌は實に未曾有の不祥事でありまして、吾々金融業者は今後最も慎重なる態度を以て銀行業務の經營に當り、斯かる不祥事の再發は斷じて之れ無きやう、常に戒心することが最も必要であると信ずるのであります。私は恐慌以來銀行界整理の局に當りました結果、銀行の經營方法に就き改善を要することの頗る多きを痛感して居る者であります。其の中の或ものに就きましては、既に二、三の機會に於て申述べたことがあります。今日此の機會に於て、これまで餘り申述べなかつた一、二の事柄に就いて一言致したいと思ひます。

それは先づ第一は、銀行が大なる固定貨をなすに至る事情に就てであります。昨年休業しました銀行には、一、二の方面に莫大なる固定貨を生じて、之れが銀行の致命傷ともなつたものがあります。此の種の銀行と雖も、決して當初より一、二得意先に斯かる巨額の固定貨をなすことを意識して居つたものではありませぬ。最初は相當の貸出であつたのであります。其の後其の得意先の事業が思はしか

らざるやうになつたが爲めに、之れを恢復せしめんとして更に貸増を行ひ、斯かることを二、三度繰返して居るうちに何時か貸出は巨額のものとなつて、俄に之れが回収をなさんとすれば其の事業は倒れ、銀行は忽ち莫大なる損害を被るといふやうになり、又斯かる事情が世間に洩るゝときは銀行の信用を傷くるが故に、終には間違つた事とは知りながら更に貸増を敢てせざるを得ぬといふやうな羽目に陥り、終に銀行の死命を制せらるゝやうな事となつたのであります。それ故に銀行の經營者は其の貸出に就ては常に注意をせられ、事件の重大とならぬうちに早く一大決心をなさるゝことが、最も必要であると思ふのであります。

次は銀行と政黨との關係であります。我國に於きましては從來銀行の經營者が政黨派に關係し、其の爲めに銀行の内容を直接、間接に不良ならしめた例が頗る多いのであります。今回更に其の弊害の大なることを痛感したのであります。之れに就き少しく具體的に申述べて見ますと、銀行の經營者が政黨派に關係して、其の結果自然其の便宜の爲めに銀行の資金を濫用するに至つたものもあります。又自己と同一の政黨派に屬するが爲めに其の者に對して、擔保の有無種類

等を問はず、不當の貸出をなしたものもあります。銀行の經營者に政黨的色彩が餘り濃厚である爲めに、自然反對の政黨に屬する銀行が互に相對立して無用の競争をなし、其の結果何れも經營難に陥り、或は互に中傷して時には取付を生じ、地方の金融界に動搖を惹起したこともあります。銀行の經營者が政黨、政派に深き關係を有したが爲めに、政黨、政派以外の第三者より利用せられた場合もあります。重要な政治問題は、今後は益、經濟問題となる傾向があるのでありますから、銀行家と雖も政治問題に關する知識を涵養することは相當必要であります。併し銀行の經營者が政黨、政派に深き關係を持つことは以上の如き幾多の弊害を齎すものでありますから、銀行家は之れに就き常に戒心を要する所でありまして、銀行業務の性質上、銀行家は常に政黨、政派に對して獨立自由の態度を持つことが必要であります。

其の次は都會銀行と地方銀行との連絡の十分ならざることであり、例へば、地方銀行が遊資を擁して其の地方には最早適當の放資口が無く、之れが爲めに困難を感じて居るやうな場合に、平常密接の關係無き都會の銀行等に勧誘せられ

て容易に之れに應じ、若くは事情の判明せざる都會の事業等に、若くは投機的株式等に放資をなして損害を被るに至つた例も少なくないのであります。斯くの如きは固より地方銀行の經營が宜しからざることに原因して居るのであります。之れは我國の金融制度に於て都會銀行と地方銀行との連絡關係が十分でないことを物語つて居るものであります。若し都會銀行と地方銀行との連絡關係が十分出來て居りますならば、雙方の銀行の經營上に便宜を得ることが頗る多いのでありますから、今後は都會銀行、地方銀行の雙方に於て、此の點に就き適當の考慮を拂はれんことを希望致します。

昨年以來銀行界の整理に當りまして痛感致しました事であり、又今後再び昨年の如き不祥事が起りましたは我財界の爲め一大事でありますから、此の機會に於て一言添へて申述べました次第であります。

閑居時代(第二次)の演説、講演

井上準之助氏が昭和三年六月より同四年七月に至る閑居時代の演説講演として三篇を載録したり。南洋視察に關するものは、此處に掲げたる「南遊所感」の外二、三あるも、其の内容は何れも之れと大同小異なり。

日本人の放資

最近、二千萬圓賣拂ハレ今ハ六千萬圓位ノ評價存ノモノアリ日本ノモノハ此ノ難後好景氣時代ノ産物ニシテ事業共ノモノニ付テハ主ナル目的ニアルモノ多クモ放資ノ指眼及其ノ若園ノ進出者ニ此後ニアルリ

現在ノ若園ハ各種重要産物ノ並行主義ニシテ以テ如リノ業一ノモノハ利益少クハガム、茶、珈琲、油椰子等ノ各種ノ若園者共ノ意者ノ反別所持アリ則リ利益ノ平均ヲ謀

南遊所感

(昭和三年十月二十五日講演會)
於南洋協會第八十五回講演會

今夕御會合になつて居らるゝ方は皆南洋協會の方々でありますから、南洋の事は恐らく私より皆さんの方が遙かにお詳しいことと思ひますが、唯私が最近見たといふことだけの相違を以て、聊か自分の感じた所を飛びくりに一つお話致して見ようと思ひます。實は今夕は井坂君が貿易方面の事を、加納君が金融方面の事を、それくゝお話になるといふやうに承つて居りましたので、私は極く短くお話すればそれで濟むと思つて居りましたが、不幸にして私が先にやらねばならなくなりまして、甚だ工合が悪いのでございますけれども、之れも致方ありませぬ。只今申したやうに飛びくりにお話申上げます。

實は私等三人の旅行は、全く楽しみの旅行の積りであつたのであります。御承知の如く、三人とも同學の者で、同じ寄宿舎の部屋に居り、喧嘩もすれば、議論もし、樂

しみもしたものでありますが、六十近くになつた今日、一つ南洋を見ようではないかといふ譯で、大いに奮發して一緒に出かけたのであります。旅行が済みましたあとで、三人とも一生涯に復たと斯ういふ愉快な事はなからう、世間にも餘り例が無い事であらう、よかつたぢやないかといふ譯で、三人とも非常に喜んだのであります。斯ういつたやうな工合で、別に調査員を連れて行くとかいふこともせず、唯目で見、耳に這入つた事、特に感じた事だけをお話するのでありますから、どうぞ其のお積りでお聽きを願ひたうございます。

實は此の度の旅行を私に勸めて下さつた方は澤山ありましたが、中島前新嘉坡總領事が其の最も有力なる一人でありまして、中島君の非常な御好意によりまして總ての用意が出来たのであります。又蘭領東印度に行つて見ると、總督のデグリーフ氏は先年丁度駐日和蘭公使をして居つたので、私個人としても非常な懇意でありました爲めに非常に盡力をしてくれましたので、外國人として見られるものは悉く見ることが出来ました。政廳の官憲も亦親切を盡して吾々を大いに待遇してくれました。さういふ關係でありまして、何等不愉快を感ずるやうな事

も無く見ることの出来るものは何も彼も見て参りました。唯専門的の知識が無い爲めに結果は洵に不十分でありましたが、さういふ意味に於て私は蘭領東印度のうちの爪哇とスマトラとを見たのでございます。それから馬來半島の事を多少見たり聞いたり致しましたので、今晚は蘭領東印度に馬來半島を結びつけたといふ意味合に於て、お話申上げたいと思ひます。

私の總體の感じから申しますと、蘭領東印度に馬來半島を加へたあの場所一帯は、今後十年、十五箇年を過ぎましたら、世界の中で非常な多くの物を拵へる有名な場所になるだらうと思はれるのであります。只今丁度蘭領東印度が少ない時で十五億、多い時になると十七、八億の品物を輸出して居りますが、此のうち三億近くが石油と錫で、あとは悉く農産物であります。馬來半島は、自分で拵へた農産物を出しますものが護謨其の他を合せますと七、八億のものとなりませんが、總體では十億以上の輸出をして居ります。其の理由は、蘭領東印度から來てそれを再び輸出するものが多いのでありまして、假に馬來半島から出す農産物を七億と致しますと、蘭領東印度から輸入した二、三億のものがあの地方から再輸出されることにな

るのであります。それをずつと世界の各セクションに較べて見ると、可なり大きな數字となるのであります。さうして今までの農産物の増加率をずつと見て、今後十年、十五箇年の事を考へますと、中々有力な場所になるといふことが信ぜらるるのであります。誰でしたか人は忘れましたが、亞米利加の人でしたかが、今後國家が世界に雄飛するのにはどうしても熱帯地方をコントロールしなければならぬといふことを云つたと思ひます。丁度其の事實が現れて歐羅巴人があの熱帯地方の農産物をコントロールして居るといふことが、非常に有力な位置になつて居るのであります。假に例をとりますと、今日若し蘭領東印度といふものが無かつたならば、和蘭はどうなるかといふことを考へて見ますと、恐らく歐羅巴で今の位置は到底維持が出来ぬであらうと考へるのであります。さういふことを考へて來ますと、あの位置は非常に有力なる場所であることが分ると思ふのであります。今日に於きましても、スマトラの如きは幾らでも自由に土地が得られるのであります。併し良い土地になると、相當な金を出さなければ取れぬ處もあります。併しながら中部の方のシア河の兩岸をずつと數日かゝつて見ましたが全く

ジャングルばかり、それに極く僅かの農園が河の縁にあるだけですが、幾らでも手軽く之れを得られます。又それだけではない、之れに要する労働者といふものが、私の説明するまでもなく爪哇人でありますが、爪哇人といふものは世界中で恐らくは理想の労働者であらうと、私は思ひます。亞米利加が獨立後、其の勢力範圍が未だミシシッピー河位で區域をされて居つた時代と、其の開發された時代の事を書いてある書物を見て、スマトラと非常に似通つた點があると思ひ、大いに感じた次第であります。即ち其の書物を讀んで見ますと、スマトラの今日の状態が、丁度亞米利加の開けて行つた状態とちつとも變らぬのであります。唯多少の相違があるのであります。今日どういふ點が違ふかと申しますと、亞米利加の開けた時には歐羅巴から白人が來た、併しながら労働者が無い、あの熱帯に居るやうな労働者が無い爲めに、止むを得ず阿弗利加から黒人を輸入したのであります。ところが其の輸入した黒人の問題で、亞米利加の南北戦争が起るやうな事になり、其處に非常な面倒を残したのであります。今日亞米利加に黒人が居なかつたならば、亞米利加は安泰の國であらうと云はれて居り、非常に迷惑を受けて居るので

ありますが、スマトラ方面の事を考へて見ますと、更にさういふ事は無いのであります。

スマトラに働いて居る爪哇人が幾らの賃銀を受けるかと云ふと、今日契約移民の労働者の賃銀が一日平均四十五仙でありまして、最初が四十仙、それから四十五仙、五十仙といふ程度であります。蘭貨の四十五仙でありますから、日本の金の八割にしか當らぬのであります。なるほど彼等は働くことがいやな人間で、餘り熱心には働きませぬ。それに就ては斯ういふ例を私は承知して居りますが、餘程好い最近の例であると思ひます。我琉球の漁夫がバタヴィア方面に於きまして非常な漁をして居りますが、初めそれが餘り爪哇人の仕事を奪ふ爲めに評判が好くなかつたのでありましたが、結局漁にかけては日本人が偉い、爪哇人が日本人と一緒にやつて御覽なさい、到底出來ないから試験して見た方がよいといふので、それを實驗する爲めに爪哇人と琉球人とと一緒に舟に乗せて漁に出かけたさうであります。ところが唯一遍の経験で、爪哇人はあんな事はいやだ、よる夜中など舟に乗ることはいやだ、舟の中に長い時間居るやうな労働は出來ないといふことを云つ

たので、日本人は結局偉いといふことになつたので、琉球人は餘り此の頃では迫害を受けずに結構漁をすることが出来るやうになつたのであります。之れを見ましても、日本人のやうに非常な無理な労働は爪哇人には出來ぬことが分ります。併しながら、何しろ一日平均四十五仙位の労働賃銀でありますから、工場には不適當ではあります、農園の労働者としては昔から最も理想的のものとなつて居るといふことを云はれて居ります。蘭領東印度の人口は五千萬人でありますが、そのうち爪哇人は爪哇本國だけでも三千五百萬人も居り、恐らく蘭領東印度全體に行渡つて居るのであります。斯くの如き事情でありまして、土地は廣いし、人は非常に安く得られるのでありますから、どの點から考へましても今後スマトラの開発といふものは非常に盛になるといふ結論をつけてよいだらうと思ふのであります。其の結果あの地方が世界でも有名な處になると、斯う私は考へて居るのであります。

皆様は御承知でありますから今更申上げる必要も無いのですが、話をする順序として必要と思ひますから申上げますが、どんな産物が一體蘭領東印度に出來る

かと申しますと、一九二六、七年には護謨の値段が高かつたり安かつたりして居りますから、大分數字は違ひますけれども、私の頭に此の位の程度で覺えて宜しいといふ程度で覺えて居るのを申し上げますと、護謨が五億ギルダ、砂糖が二億五、六千萬ギルダ、其の次には石油が二億ギルダ、近く出ます。それからあとのものは七、八千萬ギルダから一億ギルダ、近くのものであります。それはどういふものがあるかと申しますと、御承知の如くコブラ、それから珈琲、茶、煙草、さういふものであります。それに錫も七、八千萬ギルダのものであります。而して其の農産物に就て一つ／＼申しますと、護謨が今日は非常に安くなつて居りまして、一封度當り九片半といふやうな値段であります。御承知の如く六、七志もして居つた時代もあるのであります。今日は非常な混亂をして居る状況であります。併しながら今日の改善されたる方法によつて經營をすれば、一封度九片半といふ賣値であるならば十分の利益があるといふことを、皆申して居ります。尤も過去に於て利益のあるだけを悉く配當した處はさうは行きませぬが、併しながら昔儲かつた時に相當な積立金をして安心な方法を講じた處か、或は今後改善された方

法によつて新たに經營するのならば、一封度九片半といふ値段でも結構利益があるといふことは、和蘭人や英吉利人に聞いて見ても、皆異口同音にさう申して居ります。私もさう信じて居るのであります。さういふ風で私自身の感じから申しますと、現在護謨栽培業は頗る悲觀すべき状態になつては居りますが、どんな農作物を見ましても今後皆大なる發達をする趨勢にあると、斯ういふことが思はれるのであります。殊に最近珈琲栽培が非常に殖えて參り、之れが一番新たなる栽培物として發達しつゝあるやうに考へらるゝのであります。

日本の投資の事を考へて見ますと、御承知の如く最近に於て有名なる護謨園を大分賣られた方があるのであります。時をはつきり限らずに申すことは頗る空漠として居りますけれども、二千萬圓位の價値のものを賣つてしまつたのであります。之れはあの地方では事情がよく分りませぬので非常に日本の方を非難して居ります。折角投資をしてそれを賣拂つてしまふ、賣拂ふことは差支へ無いが、賣拂つた金を新たな方面に投資すべきではないかといふことを云つて居りますが、之れは無理な註文であります。金を必要とするから賣つたのであります、之

れは止むを得ぬ事情であります。残りの日本の放資がどの位あるかは吾々にもよく分りませぬが、先づ六千萬圓から七千萬圓位あるだらうと斯う稱して居りますが、之れもまあ人に段々聞いて見ますと、其の人の評價によつて多少違ひますけれども、大體斯ういふ事が正しいことと思ひます。先づ六、七千萬圓の我國の投資があると、斯う御承知になつてよからうと思ひます。

それで私は日本人の農園を批評する智慧は無いのでありますが、併しながら斯ういふ事を申して差支へ無いのではないかと考へますのは、日本人の農園は殆ど悉くと云つてよいと思ひますが、二、三のものを除く外、即ちずつと以前から非常な適當な地所を選定して、非常な完全な方法で經營して居るのがありますが、此れ等以外先づ大部分は、日本自體から申しますと、戰爭中非常に金の樂に得られ、非常に樂に儲かつた時代に先づ南洋に護謨栽培事業なるうまい放資地があるさうだ、儲かる仕事があるさうだから其處に一つ金を放資してちかうといふやうな、斯ういふ意味で放資されたのではないかと思ひます。

之れを反對に申しますと、金の有無に拘らず、仕事そのものを研究して、斯ういふ

仕事を海外に行つてやり、大いに日本人の企業的手腕を世界に示してやらうといふやうな考へで、農園を拵へて見ようといふ研究から出て來た農園でないのではありません、寧ろ金が樂に得られるから一つ放資をして見ようと、斯ういふやうな意味で出られた方が非常に多いのではなからうかと思ふのであります。従て爪哇、スマトラに於ける砂糖を見ても茶を見ても、煙草を見ても珈琲を見ても、どの農園を見ましても、西洋人のやつて居るのは實に基礎が固くて、正々堂々として如何にも心持の好い農園が澤山あるに拘らず、日本人のは一二を除きましては經濟的にも仕事そのものから見ましても、そんな立派なものはいないのであります。併しながら之れは今云ふやうな事から出て來たのでありまして、止むを得ない、無理の無いことと思ふのであります。今後放資をする場合は色々研究して、今後は斯ういふ方法で、此の調子で行かなければならぬといふことを、念頭に置かねばならぬと思ひます。要するにこれから先の問題を考ふべきで、過去を餘りかれこれ云ふ必要は無いと思ふのであります。

日本の今後に於ける南洋に對する放資に就きまして私自身が感じた二、三の點

を申し上げますと、今日までやつて来た農園を見ますと、其の大部分と申してよからうと思ひますが、大規模のものは大概一種類のもの、即ち單一栽培をやつて居るのであります。護謨なら護謨一點張りてやつて居るやうですが、亞米利加のタイヤー・ケーシングといふ大きなダンロップに使ふタイヤーを拵へる處がありますが、これはタイヤーを拵へる會社の經營でありますから護謨だけでよいかも知れませぬが、併しながら農園を經營して行かう、即ち仕事そのものからスタートして行かうといふ場合には、護謨ばかりをやつて居ては駄目であると思ひます。護謨もやれば茶もやる、珈琲もやれば油椰子もやる、といふやうにしなければならぬと思ふのであります。例へば護謨を三千エーカーか五千エーカー、茶を三、四千エーカーといふやうに複栽培をやつて居りますが、之は誠に良い方法で、今後必ず此の方法が盛に行はれることと考へて居ります。何故かと申しますと、今日の狀態から割出しましても、護謨の市價が悪くなつた場合でも、煙草の如きは殆ど以前と變つて居らず、珈琲と茶とが少し下つて居る實情であります。ところが油椰子の如きは此の頃は非常に宜しいといふやうな工合でありますから、經濟的に平均をと

り互に埋合せをつけて行くことが出来るからであります。御承知の如く護謨園、殊に煙草の如きは非常に古くからある農園でありますが、最近には茶、それから極く最近には油椰子の栽培が盛になつて来て居り、非常に注目されて居るやうであります。之は段々理想的の土地が得られない爲めかも知れませぬが、素人感じから申しますと、煙草の如きは栽培方法がむづかしいが、油椰子は容易いといふやうな所からも盛になつて来て居ると、私等は感じて來ましたのであります。斯くの如くして油椰子は將來非常に大きな産額を持來すであらうと考へて居ります。尙日本の放資の方法と外國人の放資の方法とは、斯ういふ點に於て相違があるのであらうと思ひました。即ち多く私は和蘭人の農園を見て感じたのであります。勿論之れは私が説明する限りではないと思ひますが、和蘭人の農園に居る者は大概支配人であります。重役でない支配人が多いのであります。其の支配人の選定には非常に骨を折るやうであります。一旦選定した支配人には全權を委ね、非常に高い給料を拂つて萬事を任して居るといふことが、普通の狀態のやうになつて居るのであります。といふのは、斯ういふ事になるのであります。即ち重

役で餘り全權を振ひ從て収入の多いやうな人は本國そのものには居ない、本國に居るものは株主か、株主を代表して世話をする重役のみであつて、而も之れは殆ど資本家として存在して居るのでありまして、其の仕事の大部分は經費に注意する位であります。それには面白い例があります。御承知の如く、此の頃石油業は誰にでも經營を許すといふことになつて居りませぬ。石油の権利が出来る時、政府がそれを取つて多くはパタフシエ會社に全權を任せてやらして居ります。而して此の會社には政府の選定した重役が半數居り、後の半數は民間の者が重役になつて居ますが、此の石油會社の支配人に、私は斯ういふ問題を出しました。之れは可なり幼稚な問題でありましたが、併しながら私は特に其の必要を感じたから出したのであります。即ち日本の特殊會社などでは時々官選の重役と民選の重役とが意思が合はないのみならず、政府から選定されたものは其の時の政府の方針を支持せんことを主張するので餘り調子よく行かないことがあるが、此處の會社ではさういふ日本の會社と同じ組織で經營がうまく行きますかと聞いたところが、先生達は餘りさういふ經驗が無いから、そんな事はといふやうな譯で、直ぐ吞込

めませぬやうでしたが、長い間話をした結果、さういふ事はあり得ない、私が此處の支配人をして居る以上、總ての仕事、總ての事柄は此の私が全權を持つて居るのである、本國に居る重役は此の會社の常務には一切立入らぬのです、其の人達は本國に居る方々に對しては餘り關係は無いのだと、斯ういふやうな事を云つて説明して居りました所を以て見ましても、私が茲に説明します如く、其の選定せられた支配人が全權を以てそれに全力を注いで居る、其の現場に居る人に非常に尊重されて居つて、奥の院に居らるゝ方は先づそれに任せておくといふことになつて居るのであるといふことが分るのであります。此の方法は、私は植民地、殊に熱帶地方——私は臺灣を取除かないでよいと思ひますが——に近い臺灣等に於て砂糖とか何とか農園を經營致しますに就ても、此の考へは非常によいではないかと思ふのであります。さういふ考へが若し和蘭なり英吉利等の農園に於ける今日の成功を見た原因であるとするならば、それは餘程考へなければならぬ事であると思ふのであります。又一方から云ひますと、農園に行つて働いて居る人に對し非常に同情すべき所があると思ふのであります。馬來半島にしても、スマトラにして

も、爪哇にしても、農園を見て此處は良いとか悪いとか云ひますけれども、非常な遠隔の地に行つてそれだけの努力をする者に就て考へて見たときには、仕事本位から行くときには其の選定は嚴重にせねばならぬが、選定した以上は其の人に任してやらせ、大いに優遇せねばならぬ。又其の方が寧ろ經濟的であつて、成功するのではなからうかといふことを、深く感じて歸りました。

それから前に申上げました通り、井坂君から貿易方面のお話がある筈でありますから、此の方面の事は茲では省略することと致します。

偕て金融の問題に就て申上げるのでありますが、先年南洋貿易會議が外務大臣主催の下に東京に開かれました時にも金融の話が盛に出たのであります。それから引續き現在に於ても之れをどうするかといふ問題が盛に論ぜられて居るのであります。斯ういふやうな事情でありますので、此の度の旅行を幸ひ、私は金融が果して必要であるや否や、それから金融をするのに安心して出来るものであるや否やといふことを考へて見たのであります。商賣上の金融はどうなつて居るかといふと、御承知の如く新嘉坡、爪哇に於ては至れり盡せりと云つてよいのであ

ります。即ち銀行の數から云ひましても、日本の銀行の支店が爪哇だけで七つか八つあります。新嘉坡には日本の銀行の支店が二つあり、其の以外に獨立の銀行が一つあるといふやうな工合で、決して金融機關は少ないとは思ひませぬ。併しながら南洋全體で一億一千万圓もの放資があり、護謨にだけでも六千万圓も投下せられて居りながら、それにどれだけの金融の便利があるかと斯ういふと、何處となく缺けて居る所があるやうな氣がせぬでもないのであります。然らば日本に來て護謨園の株式を以つて金融が出来るかといふと、出來ないと申してよからうと思ひます。以前臺灣は勿論南洋諸地方でも臺灣銀行から皆が非常に便宜を得て居りましたが、最近臺灣銀行は放資に對する金融は一切して居りませぬ。從て今日は金融の道は開けて居ないと、斯ういふ事になるのであります。そこでどうしても金融の道を開く方が適當であるやうに考へますが、併しながら一億一千万圓もの放資がありますけれども、金融を必要とするものは非常に僅かでありませぬ。故に私は極く僅かな金でよいと考へて居ります。即ちそれは二つの道から考へます。例へば護謨に就て考へれば、護謨園が株式會社なら株を持つて金融を

受けるのと、それから護謨園そのものを提供して金融を受けるものは、六千萬圓といふ總高から比較して見ると、少なくてよいのであります。又金融の出來得るもので考へて見ても、左程大きな高でなからうと思ひます。併しながら金融はあつた方がよからうと考へます。それなら金融をするのに安全かどうかといふと、先刻井上雅二君の話もありましたが、支那よりも何處よりも、蘭領東印度なり馬來半島なりは、権利の點から行きますと最も確實であります。即ち土地の権利から云ひますと、租借に致しましても、所有にしても、頗る確實であります。其の點に就て間違ひは無いのであります。然らば農園そのものはどうか、即ち農園そのものに金を貸してそれがどうなるであらうか、斯う云ひますと、過去の歴史を見ますと、可なり危険が伴ふのであります。何故かならば、護謨園は過去に於ては二割五分或は三割の配當をしましたが、今日は無配當であります。のみならず、株で申しますと、一株百五十圓もして居つたものが、今日は三十圓位しかして居ないといふやうなもの、澤山あります。それでありますから、株そのものを擔保に取つても、農園そのものを擔保にしても、中々危険があります。それでありますから、金融は必要

であります。金融をするのに、権利上は頗る確實であります、併しながら農園そのものを擔保に取り、株を擔保に取るのは、餘程危険の負擔と費用とを要します。斯うした金融は、決して遠隔の日本から出來るものではないのであります。それから又唯單に銀行だけの立場から見ると、金融をしようと思つても、恐らくは之れは出來ぬ事であります。例へば護謨の値段をとつて見ますと、非常な激しい變動のあることを歴史的に考へて見ますれば、それは中々困難であることが分るのであります。茲に於てか私は、爪哇に本店がある彼のネーデルランド・インディッシュ・ハンデルス・バンクのやり方を思ひ出すのであります。即ち銀行の營業を二つに分け、一方に於ては農園を經營し、他方に於ては金を貸付けて居ります。而も此の方法を長年月やりまして、今日は非常に大きな立派な銀行として立つて居るのであります。御承知の如く、あれは獨逸に於けるクルツール・バンクの一種の式であります、銀行そのものが事業に關係する、即ち茲に或事業を發起すれば、よい事業なら自分が株を持つ、さうしてこれが相當な程度に行くならば、株そのものでも、農園そのものでも人手に賣るといふことを致すと同時に、此の仕事に知識、經驗

を得るから、同種類の仕事には安心して金を貸すことが出来るやうになつて参ります譯でありまして、これまで金を貸しても至極安全に行つて非常に好くやつて来て居るのであります。資金そのものは爪哇の中央銀行から仰ぐことがあるやうであります。非常によく行つて居るのであります。勿論過去に於て可なり過ぎをしたことも無きにしもあらずでありますけれども、今日の状態から云ふとよく行つて居ると申さねばなりません。日本でも金融をするならば、まあさういふ形に於てやつたならば成功しはせぬか、或は其の形がよくはないかと思ふのであります。併しながら之れをやるには誰が引受ける、新しい金融機關をこしらへて誰がやるかといふことになる、非常にむづかしい問題となるのであります。併しながら何れにしても之れを實現する方針で、一層研究して見るより外ありません。すまい、どうしてもさうしなければならぬだらうと思ひます。之れに關聯して時時東洋拓殖會社の名前が世間に出ますが、東洋拓殖會社で今直ぐ金融をやるといふことは、頗る危険であるのであらうと思ひます。即ち先づ第一に自ら農園を持つか、或は自ら出て行つてプランターの實際を知り、彼等に對する同情を持つやう

になつてからでなければ出来得るものでない、其の方の知識が立派に出来てからでなければ到底出来得る仕事ではないと、私は考へて居ります。

それからもう一つの問題は、——先刻申遅れましたが——放資をすることは結構、金融機關を設けることも誠に結構であるが、よく方々から日本の労働者を向ふに移すことはどうだといふやうな話を持ちかけられますが、蘭領東印度に行つて見ますと中々此の問題はデリケートな問題となつて居るのであります。私が彼地に行きましたところ、新聞記者が澤山やつて來まして、日本は毎年八十萬人の人口が殖える、今では日本内地に有り餘つて咽せ返つて居つて食物さへ十分ではなからう、さうであるから日本は此の有り餘る人口を何處かに持つて行つて植付けなければ國內の平和の維持が出来ないであらうから、必ずさういふ策に出づるであらうが、さういふ問題にはどういふ意見を持つて居るかといふやうな話が非常に盛でありました。併しながら私は其の時も答へましたが、日本の労働者を、馬來半島へでも、或は蘭領東印度へでも兎に角移住させるといふことは、絶対に出来ぬと信ずるのであります。何故出来ぬかと云ふと、氣候、風土の關係も勿論あるでは

ありませうが併しながらそんな事は論外に置いて、第一賃銀だけの事を考へて見ましても十分此の理由がつくと思ふのであります。即ち爪哇人は爪哇に於てもスマトラに於ても一日平均四十五仙、高くなつても五十仙位の賃銀を得て居るのであります。馬來半島に於ける馬來人が其の通り、それから印度人が殆ど同じやうなもので、五仙或は十仙高い位の所で、非常に良い労働者と稱して居る支那人であつても、一日に七十仙(海峽弗)から、高い者で一弗位であります。爪哇なり馬來半島なりに於てどうしてそんなに安い賃銀で働けるかといふことになりませんが、之れは冗談ではない、本當の話でありまして、書物に書いてある所によりますといふと、之れは又少し極端でありますが、爪哇人といふものは一年に五日働けば飯が食べられる、あとは寢て暮すことが出来るといふことを書いて説明してあります。屋敷の内に何十本かのバナ、を植ゑるか、何十本かの椰子を植ゑて、バナ、がどれだけ経てばどうなる、椰子が幾年経てばどうなる、とちやんと其の勘定をして見ると、五日働いてさへ居ればあとの三百六十日は寢て食べられるといふ譯であります。恐らくそれは嘘であらうが、さういふ傾きのあるのは、如何に生活がし易いか

といふことを物語るものであると思ふのであります。此の頃總領事の詳しい報告をして居る所によると、九ギルダーが毎月の生活費、それより以上は要らない、さうすると日本の七錢そこらあれば一日飯が食へることになります。それでありますから、一日四十五仙取つても結構に行けるといふ理窟になります。又スマトラに行つて日本の農園の方々聞いて見ると、四十五仙取つて生活費に幾ら要るかと言ふと、先づ十仙あれば結構ですと云ふ。それ程安い生活費、それ程安い給金であるに拘らず、農園の労働者としては相當立派なもの、非常に柔順なものであります。さういふ事を考へて見ると、其處にどうして日本の労働者の行く餘地があるかといふことになるのであります。日本人も向ふに行つたら生活費は安くあるでせうが、とても支那人や爪哇人の生活の眞似は出来ない、どんなことをしても出来るものではありません。さういふ事を考へて見ると、日本人は四十五仙の倍或は三倍、或は四倍貰はなければならぬこととなります。一方、爪哇人は短時間働くならばよいが、長時間はいやだと云つても、日本人一人に四倍もやることを考へれば、結局其の方が經濟的に行くのであります。唯日本人の最も長所とする小

規模の土地に於ける野菜の栽培といふやうなものになりますと、労働をする時間とか何とかいふ問題でない、技術を要するのでありますから、これで行きますれば、當然日本人の働く餘地は十分あると思ひます。併しながら非常な大きな土地に非常な大きな農作物を栽培する場合、即ち甘蔗にしても、護謨にしても、椰子にしても、さういふ耕作をやる場合には、日本人が如何に智慧があり、よく労働能率をあげ得るとしても、とても向かないのであります。日本人が彼處に若し行きましたならば、支那人と大凡そ同じやうな處に使はれるだらうと思ふのは、實例をあげて申しますと、蘭領東印度政府のやつて居る阿片の製造所がありますが、其處に行きますと土人が此の阿片を拵へる處に使はれて居りますが、マシーン・シヨップだけには特に支那人を使つて居ります。それは、支那人を外の所に使ふと阿片を盗むからだと云つて居るが、恐らくは爪哇人は機械場には不適當な労働者であるといふ意味に於きまして、使はないのであらうと思ひます。日本人は多分さういふ労働者になつて、支那人の代りをする事が出来るだらうと思ひますが、それ以外には、日本の労働者を持つて行つて使ふよりも向ふの人間を使ふ方が、どれだけ生産

費が安くあがるか知れぬのであります。此の點から行きましても、日本の労働者は向ふに行ける氣遣ひは無いと、吾々は考へて居るのであります。

それからお話が飛び／＼になりますけれども、最近向ふの人達が非常に議論をして居ることでありますが、今後日本人が農園を經營するならスマトラがよいか馬來半島がよいか、といふ二つの議論であります。此の二地方中どちらが一體最も適當な場所であるでありませうか。御承知の如く今日は未だ護謨の生産制限をして居るのでありますから、馬來半島では護謨園の開拓は直接には許しませぬ。併しながら他の農作物の栽培に對しては、馬來半島に於ては非常に喜んで許して居るのであります。スマトラは、先刻私が申し上げました如く、未だ十分に土地を租借して居りませぬ。どちらが總ての條件に於て宜しいかといふ問題になると、第一は地味の問題、之れは非常に議論が兩者の農園に居る者の間に盛であつて、一方は馬來半島が適すると云ひ、一方はスマトラが適すると云ひ、結局どちらの議論が正しいものか分りませぬが、私は其の點に就ては大した差は無いであらうと思ふのであります。其の次に出て來ます問題は、農園に對する租税はどちらが高く取

られるかといふことであります。蘭領東印度が高く取られるか、馬來半島が餘計取られるかと云ふと、馬來半島の方には御承知の如く所得税がありませぬが、蘭領東印度には可なり高い所得税があります。併しながら地代の方から云ふと、馬來の方が高いのでありますから、段々計算をして見ると、馬來半島とスマトラとは、公課の點に於ては大した差は無いといふことが判然するのであります。次に起つて來ます問題は、兩者の勞働者はどちらが宜しいかといふことであります。御承知の如くスマトラは契約移民でありますが、從來は支那人が多く契約移民でありましたが、只今では爪哇人を契約移民として居るのであります。然るに馬來半島方面は自由でありまして、印度人を或形の契約移民のやうにして連れては行きませけれども、それは自由勞働者であります。契約移民を使ふといふことになりますと、やれ米を買つてあてがはなければならぬとか、或は住宅はどうである、或は衛生はどうであるといふやうな譯で、中々むづかしい問題が出て來るのであります。事實契約をして居るのでありますから、働かなくても幾らか宛は給金をやらねばならぬ、歸る時には又幾らかの旅費をくれなければならぬといふ譯であります。

すから、案外契約移民には苦情の出所が多いのであります。此の頃契約移民が日本人を殺したといふやうな例を澤山聞いて居ります。又和蘭人の間にも紛争のあることを始終聞きますが、其の代り一方に於ては、兎に角相當な勞働者が得らるといふ長所があるのであります。然るに馬來半島の方に行くと、或程度の旅費を出して印度人を雇つては來るが、自由勞働者であるから來るには來ても、或程度までは逃げ歸つてしまふのであります。歐洲大戦中、勞働賃銀が非常に高かつた時に何處が一番困つたかと云ふと、馬來半島であつたのであります。然るにスマトラの方は契約移民でありますから、さういふ際には少しも困らなかつたのであります。而もそれによつて莫大な利益を得て居るのであります。さういふ事を考へて見ると、地味の良し惡しの問題でなくして、どちらの勞働者が一番農園に適するか、プランターの立場からどちらが適當かといふことの議論になるのであります。若し諸君のうちで農園を始めらるゝ方があるならば、先づ此の兩者を餘程慎重に比較して見ないといかぬと思ふのであります。物によつても違ふだらうと思ひますが、此の點は餘程研究を必要とする問題であります。

それから一つボイコットの話に就てお聞きを願ひたいのでありますが、之れに就て私が特に研究したといふ譯ではない、研究をさせられたのであります。つまり南洋在留の邦人から諸君に傳へてくれと頼まれたのでありますから、それをつまづお聞きを願ひたいのであります。ボイコットは御承知の如く中々盛であります。私共が上海に這入つたのは八月の十四、五日であります。勿論彼處でもボイコットが盛で、平素よりも停滯してゐる商品が、日本の金にして二千五百萬圓位はあるといふことであります。併しながらそれには不景氣といふことも大分與つて力あるものと考へられ、果してボイコットの爲めにどれだけ停滯して居るかよく分りませぬ。それから香港に行つて見ますと非常にひどくなり、必要品でも石炭は往きには少しも減らぬと申して居りましたが、復りには段々印度の石炭が日本の石炭の代りに這入つて來たやうであります。日清汽船會社の如きは一個の荷物もありませぬ、殆ど弱り抜いて居りました。新嘉坡に行つてボイコットの状態を視て見ますと、更に同情すべき點が多いことを發見したのであります。過般關西の商工會議所でボイコット對策に就き決議か何かされたことがありまし

たが、之れは多少新嘉坡に於けるボイコットの事情を誤解されて居るやうであるから、よく辯明してくれと云うて居りました。新嘉坡は斯ういふ事情でありました。御承知の通り、馬來半島は全體の人口が幾らと云つてよいか最近のセンサスが無いから分りませぬが、數年前の總人口が三百三、四十萬でありますから、今日は四百萬と云つてよからうと思ひます。其の中、支那人が百五十萬人は少なくも居ります。新嘉坡はどうかと云へば、五十萬の人口の中で、四十萬は支那人であります。さういふ状態に於てボイコットをやつて居るのでありますから、他の地方に比較して猛烈であることは勿論でありまして、結局二つの方面、即ち日本商品の消費者の大部分が支那人であるといふことと、日本商品の大部分を取扱つて居る者が支那商人、即ち華僑であるといふことの爲めに、非常な打撃を被つて居るのであります。御承知の如く、新嘉坡へは日本の商品が大概年に三千萬圓から這入つて行くのであります。月には二百五十萬圓から三百萬圓行く譯であります。それが丁度八月の月には、新嘉坡の人達は極端な事實と申して居りましたが、約十萬圓に減つてしまつたといふことです。それ程ボイコットの爲めに日本の商品が捌

けぬのであります。然らば此のボイコットはどうして起つたかと申しますと、これは自分が考へたり、又人に聞いた説ですが、斯ういふ事であらうと思ひます。諸君は、新嘉坡あたりに於て三代も四代も續いて住んで居る支那人が、本國人と一緒になつて日本品にボイコットを起すやうなことはあるまいといふ疑問を起すであらうと思ひます。全くナショナルリテイアの觀念なしに、三代も四代も経過して母國語たる支那語も録に分らぬやうな支那人が支那本國に同情して、それ程の強いボイコットを起すやうな敵愾心があるや否やの疑問を起さざるを得ないのであります。それが、それは斯ういふ事に結論を下したらよからうと思ふのであります。南方の國民黨の連中が金を非常に必要として居り、現に蒋介石が上海で金をこしらへて居りますが、中々出来ませぬ。廣東方面に於ても永い間南軍を維持せねばならぬのですから、可なり金が要るのであります。御承知の通り、當り前の租税は一つも取つて居りませぬから、北伐軍の維持をするには中々少なからざる金が要るので、それで人を派して金を集めさせて居るので所謂國民黨と稱する者が新嘉坡あたりには可なり行つて居る譯なのであります。之れは銀行方面からよく分

るのであります。苟も新嘉坡で相當金のあるやうな人は幾ら宛か、此れ等の人から寄附金を取られて居るのであります。日本の總選舉の時に非常に金を取られるといふやうな金高では勿論ないのであります。殆ど強制的に皆取られて居り、僅かな金を持つて居ると思はれる支那人でも幾ら宛か取られて居るのであります。それが果して南軍の手に入るか、途中で飲み食ひされるか分りませぬが、兎に角さういふ事で金を集めて居るのであります。それにしても何かうまい口實がなければ、さう年がら年中金の集まらう筈がありません。ところが國民黨が日本に對して敵愾心を持つて居るからであるといふより外なからうと思ひます。「日本品を扱ふとはお前は怪しからぬ奴だ。」といふやうなことから、二言目には金を出せといふことになります。それで新嘉坡の丁度南洋協會の商品陳列所の横に支那街がありまして、其處に數軒の日本品ばかり取扱つて居る店がありますが、其れ等はまるで火の消えたやうな有様で、商品は何もありません。そんな風で、今日では日本人よりも却つて支那人そのものが取扱ふべき日本品が無くて困つて居りますけれども、今云ふ如く國民黨の連中が頑張つてやらせないで、何とも致し方

が無いのであります。日本人が此の結果どういふ状態に在るか云ふと、新嘉坡で代表的の商人とされて居る六、七人の邦人に私は親しく會つて見ましたが、日本品が今の如く店にあるものは皆賣れず、之れを買ひに支那人が行けば後をつけられるといふやうな譯で賣れませぬ。それから御承知の如く、今新嘉坡を中心につと地方の農園等から村、町等に居る支那人に皆金を貸付けて居りますが、其の貸付けて居るものの取立がポイコットの爲め出来ぬので、取立を無理にしたらばどうかと思ふけれども、ポイコットはこれまで六、七遍の経験によると遠からず止むであらう、止めば元の金は返してくれるから、餘り無理に取立てたくないといふ事情で、貸付けた儘になつて居ります。それから御承知の通り、新嘉坡と村との間には銀行の送金などは無しに、昔の日本の驛傳のやうなもので、金を持つて行つたり來たりするやうなものがありませんが、そんな機關も日本のものは取扱はなくなつて居るので、店にあるものは賣れない、取立ても出来ない、斯ういふ譯であります。従て銀行の方も非常にそれには同情を表して、手形の期限を延ばしてやるとかいふやうなことをして、どうにか其の辻褄は合はして居りますが、併し之れには如何

ともすることが出来ないのであります。今の如く國民黨の連中に頑張られて居つて、肝腎な消費をする者がポイコットを起し、中間に居る者がポイコットを起しては、どんなに考へても之れを救済する途は一寸つかないのであります。さうかと云つて、新嘉坡で困つて居る者は一般の邦商ばかりかと云へば、決してさうでない、寫眞屋や賣藥業者までが困つて居るのであるから何とかせねばいかぬのであります。今申します如く、どうも吾々の凡骨では名案も考へ出せませぬ。併し銀行は取立はせぬ、なるべく期限を延ばさうといふやうな譯で、非常に同情を表してくれては居ります。

併しながら斯ういふ事を段々研究した結果、今申します如く四百萬の人間のうちで百五十萬人が支那人、さうして其の人間がポイコットを起して居り、あとの二百五十萬人が土人と、斯うなつて居りますが、併しながら之れは支那人が仲介をして、其れ等の土人に品物を賣つて居るのでありますから、此の際日本人の最もやるべき事は、今まで支那人が土人に賣つて居つた品物を日本人が直接土人に賣るやうに努力すべきことであります。ところがそれをやらうとすれば、これまで支那

人の手を経て支那人が賣つて居るものと大變物の違ふ品物が來たり、日本から來ては居ても全く種類の違ふもので、大阪に居る支那人が新嘉坡の支那人の手を経てやつて居るといふやうな工合で、日本人がそれをやつて見ようとする、銀行から見ると全くこれまでと違ふ輸出業者が居る、荷受をするのは同じだが、其の荷を送る者は違ふといふので、銀行としては新しい得意先であるから其處にも困難が起る譯であります。併しながら新嘉坡に於ける邦商は、大いに組合をこしらへてやつて見ようといふことも考へて居るのであります。護謨の値段が今日非常に下り、不景氣で困つて居る際に此の事が起りましたので、餘計に皆が困つて居るのであります。どうか、何か好い方法があつたら皆様も考へて戴きたいのであります。併しながらあゝいふ事は、私は反對であります。過般京阪神地方の商工會議所が在留邦商が困つて居るなら、日本から行つて一つデパートメントストアでも拵へて大いにやつて見たらどうだといふ意見を發表致して居つたやうですが、若し向ふに行つてさういふ事をやられては、此の困つて居る者は苦もなく潰れてしまふといふ譯になるのであります。あの計畫は新嘉坡の邦商の實情を知らぬ者

のいふことであるといふやうな嘆聲を發して居りましたが、全く其の通りで、此の商工會議所の意見にはどうしても賛成出來ないのであります。

同じボイコットでも爪哇に行くと新嘉坡とは非常に違ふ所があるのであります。支那人は僅か八、九十萬人、百萬人足らず居つて、それが中間の取次業をして居りますが、馬來半島と違つて消費者そのものが爪哇人ですから、其の點は非常に狭いのであります。同時に新嘉坡は御承知の通り、英吉利人といふものは非常に少ない、殆ど支那の國であるかのやうに感ぜらるゝ處で、非常に自由な政治が布かれて居つて、此の度のボイコットに對しても寧ろ官憲は干渉しない態度をとつて居るのであります。然るに蘭領東印度は、御承知の如くさうでないやうな状態でありますから、官憲のボイコットに對する態度も非常に違ふのであると思ひます。蘭領東印度に於きましてはスマトラ等が官憲の取締りが可なり厳しく、此の度のボイコットに對しても之れを取締つて止めさせるといふ態度をとつて居るのであります。新嘉坡では殆どさういふことは聞きませぬ。斯くの如き状態でありますから、爪哇のボイコットと新嘉坡のボイコットとは程度に於きましても非常

に違ひがあるのでありまして、爪哇のボイコットによつて陥れる邦商の苦境に對しては救済の途も相當考へつきまされども、新嘉坡の方は中々困難な問題であります。

これで七遍目かの日本品に對するボイコットでありまして、其のやり方は洵に卑劣極まるものであります。正しい談判をする政府もなし、正しい事を云ふことも出來ず、何も罪のない、直接に何等の關係も無い商賣人に對して斯やうな事を企てる、これ程無法な卑怯な事は無いのでありまして、遺憾ながら私は申し上げますが、此のボイコットといふものは今後、日支の間に横たはる問題のことを考へますと、中々容易に片附きませぬ。ボイコットが直ぐ息まうとは思ひませぬ、何時でも直ぐ起つて來るやうに思はれるのであります。況や支那本國の政府によつて金をこしらへる口實に使はれる以上は、此のボイコットは中々容易に息まぬことと思ひます。而して之れが息まなければ息まないだけ、在留邦商は非常に困るのでありますから、餘程將來に對する商賣のやり方を考へねばならぬ、又現在の護謨市場に對しても將來の改善策を考究しなければならぬといふことを、皆に勧誘して參

つたのであります。此の點に就きましては、どうぞ最近の事情として皆様方からの御同情を受けたいと思ふのであります。

それから最近最もやかましくなつて居る問題を簡單にもう一つ、二つ申し上げます。今スマトラ東海岸のメダンの外港ベラワンには各國の汽船が寄つて居りますが日本の船は寄つて居りませぬ。其の結果商品は一度新嘉坡で積換を行ひ、更に又向ふに送るのであります。御承知の通りK.P.Mは非常に高い運賃を取つて居るのであります。新嘉坡からベラワンまで二十四時間しかかゝらぬのに八十圓の運賃を取つて居るのであります。日本から新嘉坡まで行くのに二百何十圓、それなのに今朝乗つて翌朝早く著くといふのに七十幾ギルダを取つて居るのでありますから、随分高い譯なのであります。それと同じことで、日本品に對しても非常に高い運賃を課して居りますから、此處に直接日本からの船を寄せて貰ふやうにしたいといふ、私はさういふ在留邦人の希望を持つて來て居ります。多分郵船會社か大阪商船會社かに事情を述べましたら、直接行きがけに船を寄せてくれるだらうと思つて居ります。それには南米航路の船を寄せればよからうかと

も思ひます。品物が彼處に出入する總量の統計も正確のものを持つて來ましたが、物によれば相當な運賃も取れて、餘り迷惑もかけずに寄せて貰へるだらうと思ひます。

もう一つは小學校の事であります。之れは皆様にどうして戴きたいといふことはありませぬが、小學校の教育に就ては何かの折に觸れては、在留邦人が斯くの如く小學教育に困つて居るといふことを頭の中に入れて戴きたいと思ふのであります。現在爪哇にはバタヴィア、スラバヤの兩市に、又近くスマランにも出來るし、スマトラのメダン、新嘉坡、比律賓のマニラ、ダバオ兩市にも小學校があつて、生徒が少ない處で三十人、多い處で五十人も居りますが、熱帶地方ですから子供の殖える率は多いのでせうから、益、兒童の收容に苦しむのであります。斯くの如くにして子供の教育、どうして子供に教育を施さうかといふことが、あゝいふ處に行つて見ますと、親の最も苦痛を感じずる所となるのであります。而も大部分の經費は在留邦人が負擔して、僅かに外務省から保護を得て居る位であります。斯うして親達は少なからざる金を子供の爲めに出し、何處の小學校でも先生を内地から招聘

して、非常な高い金を出してやつて居りますが、併し現在の成績は非常に好いのであります。殊に新嘉坡の如き、スマトラ、爪哇あたりから來る生徒まで引受け、大きな家を持つて其處に小さな八つ、九つ位からの兒童を寄宿させて居ります。即ち田舎の農園に居る子供は教育を受けられませぬから、其の子供を連れて來て寄宿をさせ、その世話をして小學校の經營をして居るのであります。此の經營には中々金がかかるのですが、一番困ることは小學校の生徒は、ずん／＼殖える、然るに在留邦人の懐はそれに比して殖えないのですから、殖える生徒を收容することが段々出來ぬこととなり、困つて居るのであります。海外發展を期しようとすれば、どうしても國家的補助をせねばならぬのであります。斯ういふ小學校方面には、どんなにしても多少宛でも援助をしてやらなければならぬだらうと、實は到る處の小學校を見まして感じたのであります。

もう一つは出來ない相談であります。困つて居る問題であります。それは醫者の問題であります。蘭領印度では日本人で醫者を開業することは許しませぬ。スラバヤか何處かに一人居りますが、之れは非常な除外例で、一人許されたさうで

すが、後は蘭印政廳の免許を得なければ許されませぬ。ところが、日本には獨逸で教育を受けたお醫者さんは澤山あるが、和蘭語で教育を受けた人は殆んど無いのであります。和蘭語は出来なくても誰か通譯をつければよいと申しますけれども、それもさうは行きませぬ。日本人で醫者の試験を受けた人もありますが、可なりむづかしい試験をしたやうであります。それでは日本人の醫者を好まないから、絶對的にむづかしい試験をするのかと云ふと、さうでもないのださうであります。勿論蘭領印度のお醫者さんが職業を奪はれる程に澤山の醫者が行つては困るでありませうが、在留邦人の最も苦しむ問題は先づ小學校、其の次が自分達の健康といふ順序になつて居るのに、それが御承知の通りお醫者様は皆和蘭人ですから蘭語を話すのであります。日本人は中々多いが勿論和蘭語を話す人は甚だ少ないのであります。其の和蘭人に自分のむづかしい容態を和蘭語か馬來語或は英語で云ふのですから、非常な不便を感じて居るやうであります。之れも何とかしたいといふことで、頻りに努力して居りますし、日本にも可なりお醫者さんが多いやうですから、和蘭語で試験を受けて開業するやうに勧めて見たいと思つて居

るのであります。

もう一つの事實、即ち之れは或方が注目されて居るやうですから申上げるのであります。大谷光瑞さんが數年前から養蠶に就て研究を始め、第一爪哇が適當するか、繭はどういふ種が宜しいかといふこと、それから爪哇に最も適當する桑はどんなものかといふ點を調べた結果、數箇所養蠶に適する桑地を買収せられ、専門家を連れて行かれたのであります。そして若い人達も二、三十人入れて頻りに實驗をされて居りました。最近蘭領印度政廳では之れに對して非常なる注意を拂ひ出し、政廳の豫算でも殖やして、養蠶製絲を研究しようといふ位に意氣込んで居つたやうであります。殊に最近バンドンに農産物の共進會のやうなものがあります。其處に大谷さんの繭を持つて行つて製絲するところを爪哇人に實地に見せて居りました。私共もそれを見に行き、出來たものまで見まして、石山君の製絲場に持つて來て絲にして見ようといふことまで云つて居りました。それからスマトラには二箇所程、僅かですが養蠶をして居る處もありましたが、大谷さんは私に向ふに滞在の中に斷然それを止められました。私はそれを聞き、双手を舉げて賛成

しました。即ち相當やつては見たが採算上到底爪哇では不可能である、さうであるから自分は數年間苦勞したけれども遺憾ながら此の際止めることにし、バンドンの上に廣い土地まで借りることを蘭印政廳に約束して居るのを放棄して、すっかり止めたといふことを發表されたのであります。それ故に、政廳でもあれ程までに熱心にやられたのを突然やめられたのは不思議である、何處に其の眞意があるのであるかといふことを云つて居りました。尤も以前に斯ういふ事がありました。大谷さんが養蠶をする爲めに日本の農夫を澤山引連れて爪哇なりスマトラに行くといふことで、可なり攻撃されて居つたのであります、兎に角私の滞在の中に製絲の事も斷然止められました。桑も自分の農園に可なり澤山の種類が植ゑられてありましたが、學問的に研究する人も居るのでありますから、爪哇にどの種類が適するか相當に研究して居られるのでありませうから、單に採算といふことを超越して學問的にのみ尙引續き研究して見ようと云つて居られました、斯くして商賣的にやることは斷じて止められたのであります。之れは向ふでも注目して居りましたし、日本の或部分でも可なり蘭領印度の養蠶の事は注目されて

居りましたやうな譯でありますから、一寸御參考までにお話申しておきます。此の邊で私のお話は止めておきます。長い間御清聽を煩しましたことを厚くお禮申上げます。

昭和青年の進むべき道

(昭和三年十一月十七日)
於大日本聯合青年團第四回大會

畏くも新帝陛下は、御即位の大典に於きまして御勅語を賜りました。あの御勅語は、現代に於て、又將來に向つて、吾々八千萬國民の行くべき道を御示し下さつたものと考へるのであります。吾々は此のお若い明天子の許で、新日本の建設に従はなければならぬ。明治大帝によりまして明治の維新が出来たのであります。吾々は此のお若い力強い新帝陛下の許で、昭和の維新を圖らなければならぬ。又昭和の維新が必ず實現するであらうといふことを思ふ。今度の勅語を拜しまして、吾々は此のことを一層あり／＼と拜察することが出来る。抑、新日本或は昭和の維新といふことは何を云ふかと申しますと、明治維新後日本は六十年過ぎ來つたのであります。只今の日本を見ますといふと、政治は非常に墮落し、經濟は大いに不振であり、思想も錯亂して居るといふやうな譯で、此の日本の現狀を吾々は打

開しなければならぬ、改善しなければならぬといふことは、我れ人、共に感じて居る所であります。

熟、六十年前、明治大帝の御即位當時より以後成行を考へて見ますと、日本の國力は非常に膨脹して盛に海外に發展したのであります。さうして其の時の日本國民の元氣の旺であつたことを今から考へて見ますと、現代の日本人と全く其の人を異にしては居らぬかと思はれる程で、當時の日本人の元氣は旺盛であつたのであります。さうして非常に眞剣で眞面目でありました。然るに日本の其の後の状態を見ますのに、六十年間段々膨脹し、かの歐洲大戰の時に、實に其の膨脹の頂上に達したのであります。それは國民の元氣から云つても、或は又貿易の上から云つても、日本人が海外で大いに活動した點から云つても、日本人が海外に放資して居る金の高から云つても、あの時が確かに絶頂で、其の後十箇年間は、日本の海外膨脹は段々縮小しつゝあるのであります。國民の元氣も衰へ、海外に向つて退嬰的であり、萎縮して居るのであります。其の事柄は、總ての點に於て、殊に數字の上に於て、最も明白に之れを證明することが出来るのであります。靜かに考へて御覽

なさい、人間が一步でも外に伸びて居るといふことになる、國民の元氣といふものは非常に盛であります。然るに反對に、次第に縮小し退嬰して來ると、國民の元氣は沈滞してしまひます。

かの歐洲大戦争を境として、其の以前と以後とを考へて見ますと、吾々國民の思想の上に於ても、日本の國の海外に對する品位、品格の上に於ても、段々落ちつゝあるのであります。私は何時もさう考へるのであります。人間が何時も自分の足下ばかり見て、暗い小さな部屋に居ると心持が段々細かく縮小して來ます。時々、は廣い田畑へ出て眺めて見ると、非常に愉快な氣がする。國も其の通りで、國民全體が海外に出かける譯には行かぬが、一部の人でもが大いに發展して居れば、其の事を吾々國民が聞いて愉快に感ずるといふことは、國民の元氣をして益、旺ならしめる所以であります。貴方がたは若いから御承知ないかも知れませぬが、日本の海外發展で申しますると、足利の末路、豊臣、徳川の初代といふ時代には、日本人は非常に海外に發展したのであります。私に云はせますと、寧ろ海外發展によつて日本の其の時分の國民の元氣の維持が出來て居つたと云つても過言ではないと

思ふのであります。吾々が子供の時に、伊達政宗が羅馬に使節をやつて國情を視察せしめたとか、或は天竺徳兵衛の話聞き、山田長政が暹羅に行つて大々的に活動して日本國民の爲めに氣を吐いたとかいふやうなことを聞いて愉快に感じたが、それは山田長政一人の爲めに、國民全體の元氣が作興したのであるとも云ひ得るのであります。

さういふ事を考へて見て、今日の此の日本の状態を考へて見ますと、總ての意味に於て、日本國は外に伸びるといふことの力が非常に足らなくなつて居はしまいか。一體海外に伸びるといふことには、二つのものが綜合しなければならぬ。即ち貴方がたの元氣が旺盛な爲めに、日本の海外に對する意氣が揚がるといふことを考へなければならぬと共に、又海外に發展する爲めに、國民全體が刺戟されて大いに元氣がつくといふことを考へられます。歐羅巴の例を考へても、千四百年代に喜望峰を廻る航路が開けて後に、十五世紀、十六世紀、十七世紀となつて、此の東洋に西洋の力が伸び、印度を首め南洋諸島が歐羅巴人に占領されたのであります。其の時の歐羅巴が東洋に對して伸びる力の爲めに、歐羅巴人の元氣が非常

に盛になつて居る事實は幾らも證明が出来るのであります。私は、お互の同胞が世界の何處かに行つて非常に活動して居る、雄飛して居るといふことが、國民の元氣を刺戟する原因になると同時に、國民の元氣がやがて海外發展の動力となると思ふのであります。

私は今の日本の状態を考へて見ますと、日本國民全體が外に向つて目を向けなければならぬと思ふ。それが日本にとつて今日は最も必要であると思へるのであります。御承知の如く、吾々の世界は吾々が殆ど一つの社會を造つて、其の一つの組織の下に世界中の人間が棲んで居るやうな有様になつて居る。例へば貴方がたが著て居る木綿の衣服、毛の織物といふものを考へて見ますと、棉花は亞米利加、印度から來る、毛は濠洲から來ます、今日の輸入額は棉花が六億、羊毛が一億位であります。それを若し日本が買はなかつたらどうなるか、向ふは非常に困る、六億も買ふ日本が若し之れを買はなかつたら、亞米利加も印度も非常な大恐慌を來す。又日本が此れ等の棉花や羊毛を買ふことが出来なかつたらどうなるかと云ふと、お互は翌日から洋服も著物も著ることが出来なくなるのであります。

す。歐羅巴戰爭中、日本はそれと殆ど同じ苦しい目に遇つたことがあります。今日は昔と違ひまして棉花無し、羊毛無しでは、一日も立つて行くことが出来ないのであります。日本は七億圓の生絲を賣つて居りますが、之れを賣らないと云へば亞米利加が困る、亞米利加が買はぬと云へば、日本が困るのであります。お互の日常生活は世界的に錯綜して、一組織の下に棲んで居るといふやうな有様になつて居るのであります。それを考へると、今後の社會では海外といふことを知らなければ國民が立行かぬのであります。私は其の意味から云つて見ても、貴方がたは内を向かずに、又退嬰的に下を向かずに、外に向つて高く考へて行かなければ青年として伸々した人間になれないと、痛切に考へるのであります。今日の國を考へて見ますと、可なり國家主義といふことが盛であつて、國そのものを盛にし、其の國の主張を通す爲めには世界各國と必ずしも一致の行動は採らない、可なり惡辣なる手段をも採るといふ風であります。併しながら政治の要諦といふものは、經濟上の事が餘程主たるものであります。經濟上に於ては、今申す如く、世界中相寄り相扶けて漸く社會といふものが立行くのでありますから、常に海外の事に吾々は

目を向けなければならぬ、さうして動もすると沈みかゝる自分の精神を引立て、元氣を盛にすることが必要であります。英吉利はあれ程小さな國で、今日世界の大国であります。大戦によつて稍衰へたけれども矢張り大国であります。吾々が英吉利に行つて一番感ずることは何であるかと申しますと、國民全體が外國の事をよく知つて居る、又外國人を取扱ふのに英吉利人程妙を得て居るものはないのであります。之れは決して外交官或は其の局に當つて居る人々を云ふのではない、國民全體がよく外國の事情を知つて居る。外國を承知するといふことは、即ち自國は小さい島であるものを大きく考へて、自國の物資の不足を潤澤にする方法を廣く世界的に考へて居るのであります。今日英吉利は非常に大国であり、又最も力の強い國であります、それは即ち私が先刻申しました十五世紀あたりから今日の領土をこしらへて來て居る結果であります。それでありますから、日本の今日の状態に於きまして、私は最も英吉利の事を考へざるを得ぬのであります。又日本の現状を物質的に考へて見ましても、尙更海外發展といふ事が必要なのであります。

御承知の如く人口は非常に殖える、領土は非常に狭い、私は自分一個の意見として、國民が殖えることによる食糧問題そのものに就ては大して悲觀しませぬ、食糧問題は必ず國內に於て解決し得ると考へて居るのであります。併しながら國民が殖えて領土が狭くなり、さうして仕事が無くなるといふことが、お互に一番困る問題であります。國民に満足な仕事を與へてさへあげば、それで國は無事に繁昌して行くのであります、お互が満足すべき仕事を見出し得ないといふことが、一番其の國の不幸であります。従て國內に於て、種々様々の面白からざる現象を呈するのであります。小さな處にむせかへるといふことは、如何なる動物に於てもよくない事で、私は其の意味から云つても、海外に發展することは必要であると思ふのであります。獨逸が何故にあの海外發展をしたか、獨逸のあの海外發展の始まつた時の事を考へて見ると、今日の日本の現象と少しも變らぬのであります。獨逸も御存じの如く天恵に乏しい國であります。他の歐羅巴諸國から見ると、立後れた國であります。さうした國を繁昌せしめるには、工業を盛にするより外はない、工業を盛にするならば、出來た品物を何處に捌くか、何處に賣るかといふこ

とを考へるとき、世界中に活動して獨逸品を賣る市場を求めなければならなかつたのであります。現在の日本は丁度それと同じ状態で、先づ工業を盛にして、國民全體に満足する仕事を與へなければならぬ、國民に活動を與へなければならぬ。其の活動の結果、物が出來たら之れを何處に捌くかといふことが、直ちに起る第二の問題であります。之れを捌く爲めには、貿易によつて外國に持つて行かなければならぬ。金が出來れば之れを放資する處を求めなければならぬ。斯ういふ事になるのでありますが、實は獨逸のやり方は非常に間違つて居つた、丁度今申した通り事情は日本と同じであります、やり方に於て惡辣な手段を用ひ、信義に背いた事をやり、結局は武力に懇へて自己の目的を達せんとした事が非常に間違つて居りました。日本は此の方法を眞似ることは出來ませぬが、出て來た事情と精神とは非常に参考にしなければならぬと考へるのであります。之れが即ち外を救ひ内を共に救ふ唯一の途であると、私は考へて居ります。

私は今、日本の對海外といふものはどんなものであるかといふことを數字で示しますと、日本人の海外に活動して居るのは、恐らく七十萬人は出て居りませぬ。

それは永住する移民でも何でも無い、貿易の爲めに一時行つて居る人まで加へても七十萬人といふ人間は海外に行つて働いて居りませぬ。後でお話致しますが、支那人はどうであるかと申しますと、千二百萬人は海外に行つて働いて居るといひます。日本は出來た物を幾ら賣つて居るかと申しますと、世界各國に比較して見たならば非常に小さなものであります。日本は僅か十九億圓の品物を賣つて、二十億圓の物を買つて居ります。十九億といふと、私が最近見て來た南洋の和蘭領の印度だけでさへもそれと殆ど同額であります。海外に日本から幾ら金が放資されて居るかと云つても、數字上に於ては可なりありますけれども、露西亞と支那とに對する放資は元も子も無くなつて居る、今生きて居る金は十億圓も無いと思ふ、非常に小さなものであります。船が三百五十萬噸あります。之れは世界中で英吉利、亞米利加に亞ぐのであります、併しながら、かの戰爭中何れの處でも日本の船が見られましたが、今日は段々航路が縮小されて、世界中に活動が出來なくなつたのであります。斯ういふ風に數字は非常に小さいのであります、之れを以て諸君に向つて、斯ういふ風に日本は世界に活動して居ると云つて、愉快な氣持

を興へ、元氣を奮ひ起さしめることは出来ない、其處が私の非常に残念に考へる所でありまして、常にこれから海外に向つて出て行く者がずん／＼殖えて、國民全體の元氣が揚らなければならぬと思ひます。

海外發展の方法に就て色々貴方がたも考へ、世間にも唱へられて居るのに對しまして、私は少し自分自身の意見を述べて見たいのでありますが、御承知の通り日本は日清、日露の戦争をして、さうして非常に國が發展した。それで今日でも、武力によつて世界に發展するといふことを考へて居る者が日本國民中にもある。滿洲問題の如き、常に斯ういふ考へから出て來るのであります。それで日本國には二つの論があるといふことは、世界でも常に考へて居るのであります。即ち武力で國を擴げるといふことが、海外發展の一つであると思つて居る人もあります。併しながらそれは出来ない、今日はもうさういふ事は世界が許さない、何年間考へても、何十年間考へても、それは實現出来ない事を考へて居るといふことになるのであります。それならば日清戦争はどうであつたか、日露戦争はどうであつたかと云ふと、吾々は止むを得ず自己防衛の爲めに起つたのである。今日に於ても、自

分を防ぎ自分を衛る爲めならば武力にでも何にでも懇へてやらなければならぬが、併しながら積極的に進んで海外に發展しようといふ場合には、武力に懇へては到底發展することが出来ない。それならば私の謂ふ海外雄飛、海外發展といふことは何かと云へば、即ち平和の發展でなければならぬ。貿易の高を殖やし、放資の高を殖やし、船の航路を延ばし、或場合には移民を殖やす、斯ういふことでなければならぬのであります。今日武力によつて日本の國の發展を考へる人は、丁度支那の戦國時代のやうな事を考へて居るものであつて、人をペテンに陥れ、詐偽を謀つて國を取り、領土を擴げようといふやうな夢は今日は中々實現しない、國際的には國際信義といふものを守らなければ國の發展は出来ぬのであります。日本が今日、一面から云つて非常に偉くなつたから世界から嫌はれるといふこともありませんが、併しながら、唯徒らに嫌はれるといふことは、今申しますやうに國際信義を重んじない、或は武力發展によつて國を擴げようといふ何處かに潜んだ考へがあるから、それを見られて徒らに嫌はれて居るといふやうなこともあるのであります。今申しましたやうに、今後の國の發展は平和の發展、即ち貿易の増進、放資の増加で

なければならぬ。放資とは何であるかと云ふと、世界中に日本の金と同時に日本人の建設的の才能を結びつけた結果を示すやうな種類の發展でなければならぬのであります。又海外の發展に就て最も注意を要することは、事業は何事によらず何時でも建設的でなければならぬことでありませぬ。自分さへ利益を取れば其の仕事そのものはどうなつてもよい、自分さへ利益を得れば放資されて居る金はどうなつても構はぬといふやうなことは、中々永久には續きませぬ。やつて居る人其の者だけには、或場合に於ては大變利益である。例へば、粗製濫造品を以て人を騙して高い金を取つて賣付ける、斯ういふ場合には賣つた人その者は非常な利益を得られるかも知れませぬが、日本國全體の總ての利益を考へて見れば、之れは出來ない事である。決してさういふ不當の利益は永く續くものでない。故に何時でも建設的でなければならぬ。物が成立つやうにしなければならぬ。物を壊すといふことは、海外發展には最もよくないことであると考えるのであります。こんな抽象的の議論をするよりも、實は此の頃二箇月許りかけて南洋を視察しまして、英吉利と和蘭とがどういふ風に發展して居るか、支那は又どういふ風に其

處に發展して居るかといふ實際を知りましたから、それを簡單に述べて、お互がこれからどういふ風に海外に發展したならよからうかといふ具體案に就て、私の考へを述べて見ます。

南洋といふと、多くの場合比律賓、佛領印度、暹羅、馬來半島、和蘭領の印度を云ふのであるが、私が視察したただけの場所に就て述べると、英領馬來、それから蘭領印度である。英領馬來といふ處は丁度日本の北海道と九州とを合せた位の處であります。人口は四百萬人位、之れは悉く土人であると云つてもよい。其の日本の北海道と九州位との場所で、日本の金にして十二億圓から十三億圓位の品物を毎年輸出して居るのであります。それ程の場所でどうしてそんなに多くの物が出来るかと、羨ましくて仕方が無かつたのであります。それならばこんな良い場所をどうして英吉利が手に入れたかと云ふと、今から四百年程前、十五世紀、十六世紀の頃にかけて、英吉利は此の土地を取つたのであります。蘭領印度はどうかと云ふと、蘭領印度は日本の五倍の廣さがあります。其處に人間が五千萬人位居ります。さうして品物はどれだけ出来るかと云ふと、毎年十六億圓位出します。そ

れなら和蘭はどうして此の土地を持つて居るかと云ふと、之れは十六世紀に段々歐羅巴が東洋に手を伸ばした時に、和蘭が非常に奮發して、此の土地を占領したのであります。其の當時の日本人の此の場所に於ける活動を考へて見ると、今から三百五十年乃至四百年位前には、馬來半島にも暹羅にも安南にも、蘭領印度にも馬尼刺にも、日本人はどつさり行つて居つたのであります。蘭領印度を和蘭が攻めた時に、日本村といふのがあり、それが可なり抵抗したやうに、歴史に書いてあります。比律賓の中にも日本村があつて、其處には二千人位の日本人が居つたのであります。歴史で見ると、長さ二十間、幅九間位の小さな船に乗り、世界中で一番航路の悪い臺灣海峡から新嘉坡あたりを自分の領海の如く雄飛して、英吉利人や和蘭人を戦慄せしめて居つた。其の時分に丁度、英吉利や和蘭が來てあの土地を占領してしまつたのであります。日本は其の後徳川の政策が鎖國主義になつた爲めに、殆ど全部の日本人は引揚げ歸つて來なければならぬ。さうして其の後、海外雄飛といふことは絶對的に絶滅してしまつたのであります。斯やうに三百年或は四百年以前は、日本人が海外に大いに雄飛して居つたのであります。徳川の鎖國

によつて、日本人の勢力といふものはあの近邊から消えてしまつて、英吉利なり和蘭なりが今日の如く活動して居るのであります。吾々は立後れたとはいへ、昔の事を考へれば、英人にも和蘭人にも劣らぬ海外發展の資格を持つて居るのであります。

日本は今日三百五十萬噸の船を持つて居る。英吉利、亞米利加に亞ぐ船舶數であります。日本の海員は英吉利よりも亞米利加よりも勝れて居るのであります。さういふ事を今日でも證明し、過去に於ては今申したやうな海外發展をして居つたのであります。

私は斯う申しましても、今日の日本が昔に返つて、武力を以て海外を征服せよといふやうな考へを持つて居る者ではない。唯國民の元氣といふ點から見ると、昔の日本人の活動した其の場所に自分が立つて具さに視察し、そして日本の海外進出の現状と相對照して考へて見る時に、實に現在の状態には、餘りに殘念で仕方が無い點が多いのであります。

葡萄牙や西班牙が十六世紀に東洋に活動したのであります。其の主になつて

働いた人々は中々偉い人で、葡萄牙のアルベケルクといふやうな豪傑が今の印度、馬來からあの近邊を僅か何十隻かの軍艦を以て占領してしまつた。又英領馬來の新嘉坡に行つて常に幅をきかしたスタンフォード・ラッフルといふ有名な男もあります。併し斯ういふ人達のやつた跡を歴史から見ると、我が國の天竺徳兵衛、山田長政等より劣る人であつても勝れた人ではない。學問も何も無い水夫の子供、教育も無い人が海外に發展して、國の爲めに斯ういふ働きをして居るといふ事績が、ずつと現れて來るのであります。さういふことを考へて見ると、私が先刻抽象的に云うたやうに、今日でも山田長政、天竺徳兵衛、伊達政宗、支倉常長といふやうな人が居つたならば、貴方がたが新聞なり雑誌なりを見て羨ましく思つてゐるやうな事は實現して居つて、貴方がたとしても心持がよからうと思ひます。今日我々が海外に於て大いに發展して居るといふやうな事を、何處に聞くことが出来ますか。放資は段々減つて來る、例へば、日本の放資が南洋に對して一億圓からあつたが最近は一億圓までに賣拂はれ、今残つて居るものも恐らく段々減ずるであらうと思ふ。其の結果はどうなるかと云ふと、日本の勢力は無くなる。關係し

て居つた日本人は職を失つて、海外に大いに發展すべき日本人が旗を卷いて本國に歸りつゝあるといふ實に残念なる事實を呈するのであります。和蘭はあれ程小さな國で僅かの人口しか持たないのに、日本の三倍もあるやうな國を支配して居る。吾々日本人が小さな僅かの國を維持して居る以上は、どうしても何物かを海外に得なければならぬことは當然であります。

昔からよく云ふ、熱帶地方を支配する國でなければ世界には立てないと。何故かといふと、熱帶地方は非常に物が容易に出來る、さうして何でも出來る。さういふ處を自分に持つて居らなければ、世界に雄飛することは出來ぬと云はれて居るが、現場に行つて見ると實際其の感を深くする。併し、昔の日本人の活動の跡を考へて羨むだけのことで、餘り益が無いことであつて、今後の日本人が出て行く道は、平和的の發展、貿易、放資、植民、其の外に幾らでも方法があるのであります。

此の際私は南洋に於ける支那人の活動の話をして見るが、併し私は豫め茲に斷つておくが、一から十まで貴方がたが支那人の眞似をしなければならぬと云ふのではないから、其の邊誤解の無いやうにして欲しい。南洋だけに今一千萬人

の支那人が居る。即ち比律賓、佛領印度、暹羅、馬來、蘭領印度を合計すれば一千萬人からの人間が居るのであります。さうして此れ等の人が一年間に支那本國に送る金が、日本の金にして一億五千萬圓位あります。それから支那人が此處で如何なる方法によつて發展して居るか云ふと、馬來に今四百萬人の人間が居るが、其の中百五十萬人は支那人である。さうして馬來半島では支那人が一番金持で、一番勞働賃銀を高く取つて居る。新嘉坡には五十萬人の人口がありますが、其のうち四十萬人は支那人で、其のうち最も金持で、最も幅のきくのは支那人であります。あの場所に行つて見ると、英吉利の支配下ではあるけれども、恐らく支那本國に居るよりも、もつと幸福な場所であるらしい。日本の品物が馬來半島に三千万圓賣れますが、その中間に立つて居る者は全部支那人であります。日本人が持つて行つて支那人に賣つて、支那人がそれを土人に賣るのであります。それから蘭領印度の爪哇に行くと、四千萬人のうち支那人が八十萬人位居ります。さうして、其の支那人は馬來に於けると同じく、蘭領印度に於ける商權を全部握つて居る。爪哇を自動車で歩いて見ますと、どんな津々浦々でも支那人の商賣人の居ない處は

無いのであります。苟も商賣と名のつくものは悉く支那人の手にあるのであつて、土人は農村に引込んで居つて商賣はしない。商賣は殆ど支那人が一手に握つて居ると云つてもよい。貿易によつて日本から品物が八千万圓位行つて居るが、恐らくは七千万圓までは支那人が取扱つて居ると思ひます。さういふ有様であつて、さうして馬來には百五十萬人、蘭領印度には七、八十萬人の支那人が自國よりも愉快に働いて居るのであります。さういふ事を考へて見るときに、貴方がたにも、支那本國に於ける支那人を考へるよりも、南洋に於ける支那人の海外發展といふものが、如何に力強いものであるかといふことが考へられるのであらうと思ひます。

それならば、私が今話した南洋の事柄に對しても、どうすれば今のやうな事の目的が達せられるかと云ふに、第一私は貿易上に就て貴方がたが非常に活動なざる餘地があると思ひます。日本は今蘭領印度に四千万圓の綿布と、あと四千万圓の種々様々の雜貨を賣つて、八千万圓の品物を賣つて居る。さうして之れは年々非常に殖えつゝあります。必ず之れは殖えるのであります。日本の商品が土人の

生活程度に最も適して居るから、必ず殖えるのであります。其處に非常な妨害は、此の品物を土人に賣るに悉く支那人の手を経なければならぬといふことであつて、私は其處に貴方がた若い人々の活動の餘地があるのではないかと思ふのであります。例の非買同盟(ボイコット)があつても、最後の消費者は五千萬の土人でありますが、何故に日本の品物が賣れないかと云ふと、それは中間に立つ人が皆支那人であるからであります。それならば、日本の商人が蘭領印度の人々に嫌はれて居るかと思ふと云ふと、さうではない。日本の商品が歓迎されて居ると同じやうに、日本人は非常に歓迎されて居るのであります。支那人は嫌はれて居るが、日本人は非常に歓迎されて居るのであります。さういふ事を考へた場合に、茲に活動の餘地が十分あると、吾々は考へて居るのであります。今日日本は非常に經濟上不振であつて、經濟的に何等かの方法を考究しなければならぬ域に達して居る。此の際に今のやうな處に、貴方がたが目を注がれるといふことが、非常に大切であると思ふ。併しながら、それも單純にはいけない。十六世紀或は十五世紀頃から支那人は此の地方に非常に發展して、久しい者は四百年、短い者でも百年間、大なる努力を以て

今日の位置を得て居るのであるから、一朝日本の品物を日本人自身の手で賣つて見ようと思つても、それは中々容易な事ではない。そこで第一に努むべきは、向ふの言葉も知らなければならぬ、風俗習慣も知らなければならぬ。さういふことに就て今後貴方がたが努力をされたならば、必ず今日の貿易は二倍、三倍にも殖やすことが出来ると思ふのであります。五千萬人の人間が居つて、勞働賃銀は巨額のもので支拂はれ、從て購買力は年々殖える、日本人は歓迎せられる、日本の商品は程度が向ふの人に適當して居る。之れを日本人が其の間に立つて努力しないといふことは、非常な間違ひであると思ひます。

もう一つの問題は、平和的發展といふことに就て、最も私は貴方がたに考へて戴かなければならぬと思ふのは、これから先は世界に出て行く場合には餘りに國を背負つて行くといふことは好くない。日本の武力が強いから日本人は大いに發展が出来るといふやうな考へで、海外に發展することは餘程困難であります。今後の海外發展は、頭が良いといふこと、頭が良いといふことは、日本人であるとして、外國人であるかを問はない。頭で戦ふと同時に金を持つて金で戦ふ、即ち金と知識

と結びついたものが、世界に雄飛する最も必要な根本的の條件であります。今日の如く、日本は非常に金融が緩慢で金利は安い、金の放資の途が少ない、御承知の通り支那が今日のやうな状態である以上、海外放資といふことは支那には出来ない、今後どうなるか分らない支那には、決して放資は出来ないものであります。今私が申上げた英領馬來とか蘭領印度等は金利も確實で有利に放資が出来ること、尙も一つは政治的に安定して居ること、支那の如く前内閣の契約した事を次の内閣が守らない、條約さへ破棄するやうな國際信義を無視するやうな國ではないのであります。でありますから、今後多少を問はず、金と頭と結びついて、其の金は千圓でも五百圓でも一千万圓でも宜しいから海外に放資する。今後殊に農村に於て家督相續をする以外の人は、中々職を求めることがむづかしい。斯ういふ場合、海外に目を向けて常に注意するといふことは、最も必要であると思ふのであります。それも、人に勧められて一つ出て見ようといふのではいけない、自分から常に注意して、現在自分の働いて居る日本の事を考へ、其の考へが合致出来たならば、私は非常な安全な適當な場所は其處にあると考へるのであります。又頭と金とを持つ

て行けば、其の金が如何に小さからうとも、何れの國と雖も之れを歓迎するのであります。勞働者であればこそ人が色々な議論をする、いや歓迎せぬとか、之れを排斥するとか議論をするけれども、貿易をするにしても、放資をするにしても、頭と金とが結びついてさへ行けば、何處でも歓迎してくれるのであります。私が此の頃南洋に行つて羨ましくてたまらなかつた事は、蘭領印度に行くと二十何萬人といふ和蘭人が来て日本の三倍もある土地を支配して居る、官吏あり、商人あり、學校の先生あり、種々の人が来て居りますが、其の人達に會つて感想を聞いて見ると、皆非常に愉快な顔をして、和蘭の如く國が狭く、天恵に乏しく、仕事の無い處から斯ういふ廣々とした處へ来て一生涯を送ることは非常に愉快である、と語つて居りました。さういふ處が日本にも欲しいと思ひますが、併しながら日本人は、臺灣に行つても、朝鮮に行つても、中々涉々しく行きませぬ。今、朝鮮には四十萬人位、臺灣には二十萬人位行つて居ります。然るに蘭領印度に行つて見ると、相當本國と距離が離れて居る爲めでありませうが、私はもう十五年本國へ歸らない、私は二十年歸らないといふやうな人ばかりであります。もう一つ羨ましい話をすると、向ふは非

常に廣々とした土地で、何處を見ても見渡す限り何物も無いといふやうな處が幾らでもある。さうして其處にお茶を栽培して居りました。四千町歩、八千町歩、一萬町歩といふやうな處にお茶が一杯生えて居る。さういふ處が幾らでもある。さういつた氣分を貴方がたが考へて御覽なさい。私は此の頃、冗談でも何でも無い、本當に考へて居るのでありますが、私がつと若い時に南洋へ行つたならば、自分の一生涯に非常な變化を來して居つたらうと思ふ位、愉快に見て來たのであります。

兎に角私は海外に行つて感じたから今日自分の實見談をするのでありますが、日本の今日の狀態を打開し改善して、思想問題から經濟問題、政治問題を片付けるには、貴方がたがどうしても海外に目を向けなければならぬ。よく人の云ふことでもあります。仰いで宇宙の大なるを見る。」といふ支那人の言葉があります。天を眺めて見ると、自分の足下のうるさく小さなことが分る。さうして自ら廣々とした氣持になるものである。蘭領印度に行つて、一萬町歩もあるやうな茶園へ行つて見ると、丁度同じやうな氣持がするのであります。もう少し伸々した愉快な、

いゝ考へを起さうと思へば、どうしても貴方がたに海外の事を考へて戴きたい。それで貴方がたの海外に於ける知識が出來たら、それで全體の國民が奮起する。其の間に海外發展といふことも出來て來るのであらうと思ひます。此の海外を視て來て感じた事をお話致し、諸君の進むべき方向に就ての所感を述べた次第であります。

金輸出解禁問題

(昭和四年四月九日
於新日本同盟例會)

今晚金の解禁問題に就てお話をしるといふことでございましたが、實は金解禁の問題は最早議論で済まない問題でありまして、議論のやりやう如何によりましては爲替相場が上つたり下つたり致しますので、實は金解禁の問題は餘り公然と議論をしますことを差控へて居つた次第でございますが、今晚は少數の會員の方が研究されるといふことでありますから、私の卑見を申述べて見たい積りであります。別に變つた考へもありませぬが、唯實行問題として自分の考へて居る意見を申述べるのでございます。従て多少研究されて居る方々には、誠に無味淡白な面白くない意見に過ぎぬであらうと思ひます。

私の結論を最初に申上げておきますと、金の解禁は出来るだけ早くしなければならぬ、此の問題が解決しませんが日本に於ては、金の立直しも出来ないものであり

ます。併しながら即時に解禁は出来ませぬ。然らばどうして金の解禁が出来るかと申しますと、政府が國民に先立つて財政の整理をして、其の結果爲替相場が今よりも上りまして、バーに段々近づくやうにならなければ金の解禁は出来ない、斯ういふ私の議論であります。財政の整理をしなければ金の解禁が出来ないといふことは、結局金の解禁をしないといふ問題になるのではないか、といふ議論が可なりあります。併しながら私自身では、財政の整理をして其の結果國民が今少しく緊張しなければ金の解禁をすることも出来ない、又しましても其の解禁は永く維持は出来ぬといふ議論になるのであります。大戦が済みましてから、世界何れの國と雖も段々財界の立直しといふことをして居るのであります。亞米利加にしても英吉利にしても、戦争の渦中に投じた國は皆、戦後それ〴〵財界の立直しを行ひました。日本も矢張り戦争の影響を非常に受けて居るのであります。財政の整理、財界の緊縮といふことは、どうしてもしなければならぬのであります。然るに日本が過去に於てどういふ事をしたかといふことを探ねて見ますと、大正九年の財界の恐慌後に日本も世界各国と共に財界の整理をすべき所であつたので

ありますが、丁度其の頃は政友會の内閣で、——大正七年の暮から政友會の内閣が出来て——所謂其の頃にはまだ日本人の富力の非常に多い時、即ち政府から見ますと非常に収入の多い時でありますからして、事實に於て財政の整理といふことは出来なかつたのであります。大正九年から十年、十一年にかけて、到底本當の整理は出来なかつたのであります。然るに大震災が大正十二年にありまして、財政そのものの緊縮といふことは止むを得ず餘程出来たのであります。之れは人爲的にしたのでなく、収入が減りました爲めに支出を減らすより仕方が無かつた、公債を募らんとすれども募ることは出来ない、從て吾々の作りました大正十三年度の豫算には、鐵道の公債は全く計上しなかつたといふやうな事實があるのであります。

それで大正十二年に事實に於て緊縮されて居つたのであります、併し之れも自分の考へから出て來た緊縮でなしに、事實に於て餘儀なくされたのでありますから、餘儀なくされないもの、或は從來の主義を守つて居る人であると、中々緊縮は困難であつたのであります。ところが、丁度大正十三年に加藤内閣が出来て、緊縮

方針を採る傾向であつたので、餘程其の時の空氣は緊張したのであります。豫算の上の數字から申しますと、幾許の緊縮にもなつて居らぬのであります、併しながら相當の緊縮の状態が出来て居つたのであります。併しながら間もなく内閣も更つて其の後今日に來て居りまして、今日の内閣は政友會の内閣で、所謂積極主義を採つて居るのであります、緊縮といふことは行はれて居りませぬ。數字に於て前の加藤内閣と大して違ひませぬ。併しながら、三派内閣に於て緊縮した數字は僅かであつたが、其處の空氣が緊縮、緊張といふやうな空氣であつたが如く、今日の數字で云ふと大して脹れては居らぬ譯であります、大體の日本の空氣は緊縮とか緊張といふ譯には行つて居らぬ。斯ういふ有様であるのであります。

然るに民間はどうであるかと申しますと、民間の方では大正九年から十年、十一年にかけては、財界整理は餘程遅延したのであります。何處に弊害があつたかと云ふと、今に世界の景氣は好轉するであらう、あれ程の大景氣の出た後これ程の不景氣の來る筈はない、財界の好調が來るであらうといふやうなことを考へて居る者が中々多數で、財界の整理は餘程延びたのであります。殊に大正十一年から十

二年の春にかけて、世界に餘程さういふ事情が見えて居つたのであります。殊に倫敦會議でドーゾ案が決まつてから稍世界の大勢は良くなりましたけれども、大正十一年から十二年にかけて段々財界の事情も悪くなつて、財界は餘程整理が緒に付いたのであります。今日申しますと、財政の緊縮は思ふやうに出來て居らぬが、民間の財界の方の整理は出來て居る、所謂出來つゝある、之れを兩者比較して見ましたならば、財界の整理は餘程進捗したが、財政の緊縮は出來て居ないと、斯う結論を出しても差支へ無いであらうと思ふのであります。

それで斯うなりました此の日本が、今後どうすれば宜しいかと斯う云ひますと、どうしても政府といふものが先に立つて財政の緊縮をやらなければ、民間の財界の整理といふことも出來ませぬ。之れは吾々の経験であります。政府を向ふに廻はして、政府は財政の緊縮をせんで宜しいから吾々だけ財界の整理をして、さうして國民も全體緊張せしめようと云つてやつても思ふやうに行きませぬ。矢張り何處の國でも政府といふものが先に立ち、政府と財界と共に道行をしませんければ、此の緊張とか或經濟上の目的を達するのには、非常に力が弱いのです。之れ

に就て私の經驗談を致しますと、大正八年から大正九年にかけて、日本は財界の景氣の非常に盛な時であります。併しながら景氣が盛であると同時に、大正八年の七、八月頃から非常に外國の輸入品の註文が殖えて、今にも財界の變動が來さうであるといふことは明かに眼に見えますけれども、政府の財政から云ひますと、まだ其の時は非常な餘力のある時で、政府の收入から云ふと、豫想よりも何倍といふ税の餘計取れたこともある位であります。それでありますから、政府の方に緊縮といふやうな氣分が更に起らない。従て財界を見る眼から行きまして、非常な樂觀論であつたので、其の時に日本銀行で二度程續けて金利を上げたのであります。併しながら其の時の日本銀行から云ふと、人が金を借りて居ない、僅か一億の貸出しかない時に金利を上げるのでありますから、實質的效果は薄い、精神的に效果あらしむるやうにするには、此の財界はもう既に反動が近づいたから緊張しなればならない、緊縮しなければいかぬ、といふ空氣が日本國に出て來なければ、政策の爲めに金利を上げて、効果が少ないのです。それであるから、止むを得ず大正九年の正月、春の議會の言論が放漫であるからして私は、財界の反動が今に

参ります、私の持つて居る證據によると必ず遠からず反動が來ますと云つて、多少人からエクセントリックの議論だと云はれた譯であります、それが三月に財界の反動が見えて來たのであります。さういふ經驗から云ふと、國民的の緊縮とか緊張といふ空氣を起す時には、どうしても政府が先に立たなければいかぬのです。政府と民間と一致しなければいかぬのであります。それで今申す如く、財界の整理は多少ついたが政府の財政の緊縮は一向出來て居ない、斯ういふのが今日、日本の現状であります。之れはどうしても一遍財政の整理を完結しなければ、日本の經濟といふものはどんな事をしても立直らぬのです。さういふ事は、恐らくは之れを煎じ詰めますと、どなたでも賛成する議論であらうと思ひます。

それならば、さういふ事をして財政の緊縮をしたならば爲替相場が上るや否や、財政の緊縮、兌換券の整理、財界の整理をするのは非常に困難だが、やつたら爲替相場が上るかと思ひますと、上りますと思ひます。之れは過去の議論から申しまして、上ることを證明し得るのであります。世界各国でも財界の整理をし、財政の緊縮をすれば爲替相場は上る、それをしなければ爲替相場は上らぬのです。日本の

過去の歴史で云ふと、大正十三年に加藤内閣が出來て濱口君の財政であつたのであります。大正十四年の財政案、大正十五年の財政案で今諸君が數字を比較して御覽になりますと、大正十五年の財政の豫算の如きは、數字には大した緊縮は出來て居ませぬ。併しながら加藤さんより濱口君の態度と云ふか顔付と云ふか、何か知らぬが、緊縮的態度であつたのです。それでありますから、やつた事は數字的には大したことはないが、大正十三年の暮にあの内閣が出來てから、ずつと財界といふものは調子が違つて居ります。まあ一つ宛拾ひあげて見ますと、奢侈税を課したことなんか、理窟から云ふと非常に間違つて居ることもあると思ひますが、兎に角あの時代にあんな間違つた理窟を云つて、其處に奢侈税を置いたといふことは、一方から云ふと緊縮といふことに非常に効果があつたのであります。それからもう一つ申しますと、之れは濱口君の議論に私は寧ろ反對したのですが、財界を緊張せしむる所から云ふと非常に効果があつたのは、外資輸入を許可せぬといふことを濱口君は言出したのです。それなんかは間違つて居る道理でありますけれども、濱口君の緊張するといふことの標本として、之れは非常に効果があつた。

金を貸さうとして日本に来る外國人が政府が進んで證明してくれないと金は貸さないのだ、といふことを亞米利加の金貸などが澤山云つて來たが、あの時代には出來なかつた。そこらは緊縮せしむる方針から云ふと、非常に結構な事でありませう。それから大正十五年から云ふと、公債の額を殖やすといふことは、數字から云へば餘り緊縮ではないのです。併し兎に角、公債の整理をしなければならぬといふことと、地方債はあの時は自由に許さなかつた、之れは十二年の地震の内閣の頃から一切地方債の許可はせぬといふことで、あの時代には一つも許さなかつたのであります。濱口君も其の方針を採つて地方債を許さぬ、進んで地方の財政を整理する、斯ういふ事を標榜して行かれたのであります。地方債も幾らも整理は出來て居ませぬけれども、地方債を自由に許さないといふやうな事が非常に緊縮に效果があつたのであります。然るに今日の政友會内閣は、積極的の方針を採るといふことで、今度の豫算面に現れた所では、公債を許すといふ額は少ないのであるけれども、自作農の關係に於ても、電信、電話の關係に於ても、公債を樂に許すといふやうな風になつて居る。地方債の如きも決して亂雑には許して居らぬでせうが、

前のやうに絶對的に許さぬといふやうなことを云つて居らぬのです。其處に政府の財政の緊縮とか、國民をして緊張せしむるといふことから云ふと、非常な差があります。それで濱口君のやつた事の結果が何處に現れたかと斯う申しますと、大正十三年末から十四年の一月、二月にかけては、爲替の一番安い三十八弗五十仙といふ所まで行つたことがあります。打開けて話しますと、三十八弗五十仙になつたけれども餘り相場の低い時には人爲的の事をやる勇氣は無かつた、何處まで下るか分らぬから勇氣は無かつたのであります。併しながら稍落著いて見ると、どうかして上げたいといふことの人爲的の策もあつたのであります。少し上る調子になると、一番先に考へられたのは、此の緊縮の空氣であるならば世界各國の例から推して日本も金解禁をするであらう、といふことです。亞米利加でも英吉利でも、何處でも金解禁の場合は政府が財政の緊縮をする、それから金の解禁をするのであるから、日本も今度は金の解禁をするであらうといふ一つのスペキュレーションが亞米利加の側から來、其の前には銀が下つて來るといふやうなこと、本氣になつて濱口君の財政政策を高く買つたといふことが、非常な爲替

相場の上る原因となつて居るのです。それでありますから餘り現金を使はず、三十八弗半から四十五、六弗まで、大正十四年から大正十五年にかけて爲替相場は上つたのであります。之れは後で申しますが、今日銀行家が金の即時解禁をしろと云つて決議をした。あの有力な團體が金の即時解禁をしろと決議をしても、爲替相場は亞米利加の側からは少しも買はなかつた、今のやり方で金の解禁をしたならば大變だ、今財政の緊縮も出來ず、民間も緊張して居ないのに金の解禁が出來る筈がない、世界各国でもそんな亂暴な事をしたものは無いといふ例があるので、亞米利加側で少しも變らない、それであるからあれだけ有力な團體が決議をしたにも拘らず買はなかつた、それが濱口君のやつた大正十四年、十五年に上つたといふことがあるのであります。外國の例もさうでありますし、日本で之れを實行して見た例で爲替相場に影響したことがあるのでありますから、私は財政の緊縮、財界の整理を共に行つて、政府が先んじて此の財界に處するの途を講ずれば、必ず爲替相場は上ると考へて居ります。どの程度まで上るかといふことは、其の財政當局者、日本國民の態度如何にもよります。もう一つ申しますと、此の前實は驅され

て居る、あれ程日本は金の解禁をする恰好をしたのに出來なかつたのだから、今度財政の緊縮をしても此の前のやうに外國が買つてくれないかも知れませぬ。併しながら財政の緊縮、財界の整理をするといふ其の事が必ず此の爲替相場を上げ得るといふことは、間違ひ無いことと考へて居るのであります。

それならば爲替相場が上つたといふことを考へて金の解禁に持つて行くのであります。先づもう一つ申しますと、今は斯うであります。爲替相場は四十四弗半と假に致しますと、丁度日本の法定價格よりも一割下つて居るのです、百圓に付て十圓下つて居ると云つて宜しいのであります。金の解禁をすれば其處に十圓の差が出て來るのであります。さういふ場合に、金の解禁をやつたと致します。さうしますと、日本には可なりの變動を與へるのであります。下るものもあれば上るものもあります。國民の或一部分に百圓に付て十圓の利益を與へるが、一部分の國民には百圓に付て十圓の損を與へる、損得に係る國民が或一部分に居る譯であります。併しながら國民全體の大政策を行ふのに、一部の利益や損失を考へて居る暇は勿論ありませぬ。が、併しながら根本から百圓に付て十圓といふやう

な差のある仕事を、今日の政治組織の大藏大臣や政治家に望み得るや否やといふことも一つ考へなければなりません。さういふ事を頭の中で考へず、何等の用意も無しに、突然百圓に就て十圓も差のあるやうな仕事を今日の政治家がすぽつとする権能があるや否やといふことを考へて見ると、國民が斯ういふ事を政治家にしてくれ、あゝいふ事をしてくれといふことも随分亂暴ではないか、政治家が正しい事をやれば非常に結構ですが、間違つた事をやればそれだけに損害を與へ、損得を與へ、それが無駄な事をやるといふことにもなります。非常な其處に無理がありはせぬか、斯ういふ事を考へるのであります。それで私は、兎に角金の解禁をするには財政の緊縮をして、爲替相場が或程度まで上つて行つて、それが先づ例へて見れば、四十八弗とか四十八弗半とか、此のバーに近い所まで上つたところで、それから先は政治家が見込をつけてよからうと思ひます。僅か一弗や五十仙位の所ならばそれから見込をつけて、此の差はこれだけ政府で用意して行けば濟むのだといふ用意をして、それから金の解禁をする、所謂僅かの見込を立て、其の見込は自分の力で維持が出来る、斯ういふ事ならば其處に金の解禁をしても宜しい、併し

ながら突然今のやうな場合に、一割の一方には損を與へ、一方には得を與へるやうな事を勝手氣儘に政治家がやるといふやうなことは、今日の政治組織の政治家にそんな事を希望することは、私は嘘であらうと斯う思ふのであります。又さういふ事は無理で、出来るものではありません。

それならば今私の申す事を繰返して申しますれば、財政の緊縮をしてそれで爲替相場が段々上つて来る、其の上つて来るといふことの結果は所謂財政の緊縮、財政の整理で當然やるべき事をして、其の爲めに來るのでありますから、それが何時でも半年や一年の間にじり／＼やつて來て、やるべき事をやつて、一方には爲替相場が上つて利害關係のある國民はそれを受けるのでありますけれども、之れは止むを得ない處置であつて、やるべき事をやつて、誰も其の間に勝手氣儘のやりやうがないのであります。さうして爲替相場が相當の程度に上つて來た所で、金解禁の直接の準備、即ち海外に金を置くなり、内地の金貨を持出すなりして、金の解禁を行ふべきものと、私は考へるのであります。

それから私の議論を尙確かめる爲めに、即時金解禁論に對する私の反對、それか

ら平價切下に對する反對時期を定めて金の解禁をするといふ事に就ての私の反對論を述べますと、私の議論をもう少し説明することになりますから、さうして見たいと思ひます。

金の即時解禁といふ議論が、中々最近にあるのであります。金の即時解禁、今日今晚金の解禁を執行したと致します。さうするといふと、どうなるでありますか。今は亞米利加も英吉利も非常に金利が高いのです、日本の公債、市債で政府の保證のあるもので大概七分乃至七分以上に廻ります。然るに日本は、今日少し纏まつたものでありますと、六分に廻るといふことは餘程困難であります。公債類、或は社債のやうなもので、良いものになりますと五分、五分五厘といふやうな金利ほかないのであります。其の間に一分五厘位の日本と外國との間に差があります。其の場合に金の解禁を即時に致しましたとしてどうなるかと云ふと、爲替相場が一定しますと、内外の市場で差は無いのでありますから、日本の銀行の、多い時には三億五千萬、少ない時でも一億以上の金が、日本銀行に預けてあると致しますと、第一は其の金は外國に行つて日本の公債なり日本政府の保證のある有價

證券なりを買ひます。買ふ爲めに日本の金利はどうであるかと云ふと、五分五厘の利廻から七分なり、七分以上に直ぐ一躍して飛びます。外國でも日本のものを左程巨額には買へませぬ。一億、一億五千萬圓位は買へませうが、二億、三億となると可なりの時を要します。一時には買へませぬが、買ひ得るとなればどうなるかと云ふと、日本の金利が一分五厘上ります。一分五厘上りますと、其の爲めには有價證券は可なり下らうと思ひます。此の前、銀行團が金の即時解禁を決議した時に有價證券が下りましたが、あれは事情が解らずに、唯無闇に心配した爲めに下りましたけれども、私が申す如く一分五厘の金利が下つたならばどうなるかと云ふと、有價證券が幾ら下りませうか、公債で少なくとも三圓や五圓は下らうと思ひます。さうしますと、今銀行業者が三十億圓の有價證券を——日本の手形交換所の銀行團が三十億圓の有價證券を持つて居ります。一割下れば三億であります。五分下つて一億五千萬圓、一分下つても三千万圓の、銀行業者は一時に損をしなければならぬ。斯ういふやうな事になりまして、非常な大問題を生ずるのであります。外國にある有價證券を買ふ爲めに金を送る、それは金貨を持出します。其の

方は一億や一億五千萬圓の金貨を持出す其の事柄は、さう心配する必要は無いのであります。金の解禁をしたならば、一億や一億五千萬の金貨を持出されることは左程心配は無いと思ひます。此の前大正十五年に、私が金解禁をしなければならぬと云つて居ました當時には、外國の金が二億五千萬圓位、日本に来て放資されて居つたのであります。其の金を持つて行くことは物を買ふ爲めに持つて行くのではない、金を持つて行きさへすれば目的を達するのであります。急激に持つて行きます。併しながら物を買ふ爲めに持つて行くものは、十日や二十日の間に一億や二億の金を持つて行くことは左程必要は無いのであるが、唯内地の有價證券市場に與へる影響は非常に大きいのであります。併しながら今日の如く、内外市場の金利の差が何時までも續くものではない。假にこれが一年前か一年半前乃至は今後一年か二年の間の日本の金利と英米の金利と同じ場合、斯う想像して金の解禁をして見ますとどうなるかと云ふと、吾々が日本銀行に居ります頃金の解禁が直ぐ出来ぬと言ひ出した理窟は其處にあるので、今申上げる如く無利息の金を、多い時には三億五千萬圓、少ない時でも一億以上、銀行業者が日本銀行に預

けてある。さういふ場合に金の解禁をして、爲替相場が一定しますとどうなるかと云ふと、輸入がしよくなりませす。今日は金を貸すのに非常に困つて居りますが、金の解禁をすると輸入がし易くなります。し易くなるとどうなるかと云ふと、例へば此處に石油會社がありまして石油を澤山持つて居る、併しながら爲替相場が高くなれば石油が輸入されます、輸入する人があると其の輸入する人に金融をする、或は又此處に紙を捲へるバルブがある、爲替相場が悪い爲めにバルブ及び紙は輸入が出来ないが、上れば輸入する、それに金融業者が金融をするといふことになれば商品は這入る、金融の便利も出来て來ます。斯ういふ事になりますとどうなるかと云ふと、大正八年から九年にかけて輸入の殖えた如く、今日の状態でも相當に輸入が殖え得る調子があるのです。之れに就て反對を云ふ人があります。日本は不景氣だからそんなに物を消化し得ないのであるから、輸入を此の上殖やすものかと云ふ人がありますが、それは商賣の實際を知らぬ方でありませす。品物は値段が安くなれば、其處に見込を立てて輸入する人は澤山あるのであります。大正八年の如きは、其の意味に於ての輸入の増加が非常に多かつたのであ

りますが、さういふ者が出て来ますと、少なくとも、ものの一年も経つといふと、今度は外國に金が出て行くことになりません。今日は在外正貨も缺乏して殆どありません。外國から輸入して来ると云へば日本から金を持出さなければならぬ、其の額は可なり殖えて来ます。今日の金利の安い所から見ますと、相當に輸入は殖えるものと承知しておかなければなりません。さうすると其の場合に、平生ならば金利を高くする。金利を高くして、さうして内地の金融を非常に逼迫させておくといふ作用もあるのでありますが、今日の日本銀行の状態、普通銀行の状態から云ふと、さうたやすく決行出来なくなつて居る事情が、金の解禁を直ちにやつて見るのに非常に故障になる所があります。

金の即時解禁といふことが若し政治論でありますなら、それは別問題であります。可なり政治論の意味の方が多しやうです。今の儘で日本を放つておいたならば、政黨政治である以上は財政の緊縮などする機會は無いのだ、従て今より以上に爲替相場の上る機會もありはせぬ。それならば金の解禁は何時までも出来ぬ、未來永劫出来ぬのではないか。そこで金の解禁といふことは人民の希望である

といふことを一つ打附けて、そこで政府に之れをやらせるといふことが一つの策だと、斯ういふ事を考へてやられて居る方もあるやうであります。私に言はせませすと、それには非常な缺點がある。今茲に金の即時解禁をやりまして、現在ならば私の云ふ金利が非常に上つて有價證券が下ります。金利の平準を得て居る時でも、少なくとも半年の間に可なりの金貨が出て参ります。日本の財界はそれに堪へ得るや否や、斯ういふ事を考へて見ますと、私はよう堪へないと云つてよからうと思ひます。これは亞米利加の人に云つた談で、諸君のやうな方々には甚だ不向きな例であります。之れを極く細かく議論すると長くなりますから簡単に申し上げますと、丁度一昨年の銀行の取付騒ぎといふものは斯ういふ風に見てよいと、私は思つて居るのです。元來日本の財界の健康診断をしましたならば、大正九年から癌腫の疑ひがあつたのです。それが、段々時が経つに従ひ、どうか斯うか療治をせざとも行けるだらうといふ風に、吾々も考へて居つたのです。それで大正十五年に濱口財政の爲めに爲替相場が段々上つて来て、そこで私も金の解禁を此の際の方が宜しいといふ議論を立て、誰も賛成したのですが、一番の問題は、眼前に十ば

かりの潰れかゝつた或銀行がありますから、之れをどうしても手の中に入れておかなければならぬ、之れを必ずしも整理をしてしまふことは出来ぬか知れぬが、潰さうと潰すまいと他のものに影響の無いやうに此方を手に握つておかなければならぬといふことを云つて、片岡君が議會に震災善後處理法案といふものを出して、銀行家を援助するといふ意味のあの案が出来たのであります。さうしてあれが通つたならば其の銀行を片端から潰すなり活かすなりして、財界に變動を與へぬやうにして金の解禁をしよう、それより外に途は無からうと思つて居つた、それで兎に角日本の財界に癌腫の疑ひがあつたのです。併しながら丁度あの時の議論をすると、日本人の健康状態があの議會の間に悪くなつた譯ではない、風邪を引いて熱が出たとか、そこに初めて赤痢を患つたとかいふやうな特別な病氣が起つたのではない、併しながら斯ういふ程度の影響はある、癌腫の疑ひのあつた者が、水と思つて飲んだ一ボトルがウキスキーであつた。片岡君が薬を飲ませる積りで飲ませたのが、ウキスキーの壘と間違つて日本の財界が飲ませられたといふやうな有様であります。ウキスキーを一壘飲んで、癌腫が悪くなつて生命にかゝる

といふことは無いが、ウキスキーを飲んだ爲めに血を吐いたり、血を下したことは確かであります。さういふ亂暴な事を病人がして見ると、矢張り元の身體になるには一年や二年の時を要する、それと丁度同じことであらうと思ふ。血を吐き、血を下したのでよく診察して見ると癌腫があつたから、癌を取去つてしまつて、癌腫は無くなつたが、身體そのものは非常に傷んで居る、全體の身體は餘程デリケートの身體になつて居るといふことはあらうと思ふ。さうなりますと、今のやうな強硬手段をして金の解禁をしてしまつて、それから日本の財界を整理しようといふ非常手段には日本の財界はよう堪へませぬ、といふより外はないと私は思ひます。長くではありませぬが、今暫くはそれにはよう堪へない。

それからもう一つは政治問題として此の問題を投げつけて、政府をして之れを實行させようといふならば、今の内閣といふか、今の政友會内閣といふものは金の解禁をするのには丁度反對の方向に走る政策を持つて居る内閣ではないかと、私は心配するのであります。下戸に酒を飲めとか、上戸に菓子を食べるといふのと同じではないか、相手方に不相當な勝手の違つた仕事ではないかと思はれます。今

日の財界の整理といふことは日本の經濟を活かすのに必要だと見るならば、金の解禁といふことが其の機會に起つて来るものならば、今の——何と申しますか、此の目的を政治問題に使つて居るといふならば、相手方の測量を非常に誤つて居るのではないか、若し假に云へば田中さんの顔は財政緊縮が出来ない顔であらう、斯う私は思ふのです。さういふ事を思ふと、其處には非常な誤りがあるので、はなからうかと思ひます。爲めに金の即時解禁は現在は絶對的に出来ぬと、斯う私は考へて居るのであります。

それから最近に起つて来る議論で、平價切下といふことがあります。之れは佛蘭西でやり、伊太利でやり、白耳義でやつた議論であります。それを日本も眞似て、今爲替相場が四十四弗五十仙にまで下つて居るから一つ日本の金貨を悪くしよう、例へば此處で私が申しますやうに一割下つて居る、それならば一割だけ金を削つて小さくしよう、斯ういふのであります。日本は百匁五百圓の金貨、即ち一匁五圓、二分で一圓でありますから、それを一圓を一分八厘にしよう、斯ういふ事になるのであります。其の議論を私が研究致しますと、其の中に三つ位含まれて居る要

素があるので。今申す如く、私自分が反對して居るのですが、爲替相場が四十四弗五十仙の場合に金の解禁を實行すれば、日本の財界には非常な變動を與へて、其の變動にはよう堪へない。それならば其の弊害を除く爲めに、財界に變動を與へぬやうにすればよいのではないか、即ち日本の金貨を小さくすればどうなるかと云へば、四十四弗五十仙に合ふやうに小さくして、同時に金の解禁をするのであるから、さうしたならば新しい價値で爲替の變動は無くなる、それは無くなります、さういふ事が一つあるのであります。それからもう一つは、財界の整理をしてと云つても、そんな事は實行が出来るものではない。實行の出来ない事を云つて居るよりも、金解禁の一番の故障は何かと云ふと、爲替相場が下つたといふことである。元の額の四十九弗五十仙まで上げるから一割の變動が来るのであるから、其の變動が無いやうにすれば差支へ無いではないかといふことがあります。もう一つは、金を貸して居る人は損をする、借りて居る人は得をする、斯ういふ議論が其處に出て来るのであります。先づ財界の整理をする場合に、皆によいやうにといふ議論は出来ないのであるから、誰かに損を與へるならば金を貸して居る金持に損を

與へて、金を借りて居るの方が利益をするやうな議論の方がよからうと思ふ、斯ういふのも其の中に含まれて居るやうに思ひます。併しながら之れは必要がありませぬ、私は左程のことをする必要が無いと思ひます。何故かならば、私が一例を申しますと、佛蘭西の例をとつて頻りに云はれますが佛蘭西は御承知の如く一磅に對して二十五法二二一とかの相場です。それが一番相場の悪い時は二百五十法まで行つたことがあります。日本はどうかと云ふと、兎に角悪くなつた時でも三十八弗五十仙ほか行つたことはありませぬ。三十八弗五十仙といふと、二割二分の下落であります。今日は一割ほか下つて居りませぬ。然るに佛蘭西は二百五十法まで下つたことがある、つまり十分の一位に法の値段が下つたのであります。さうして通貨はどれだけ發行して居るか云ふと、一番最近の多い時で五百億法位發行して居る、吾々は佛蘭西の立場になつて財政を研究したことがあります、借金を棒引にしてしまふ、三千何百億法といふ公債があります、それを全部切つてしまふか、或は一分とか二分の利息にまけさせなければ佛蘭西の財政整理といふものは出来ませぬ、どうしても佛蘭西の財政といふものはバランスは合

はなかつたのであります。とても佛蘭西のあの局に立つて、二十五法まで持つて行くのはどんなことを考へても駄目であります。それならば伊太利はどうであるかと云ふと、伊太利も矢張り二十五リラが九十二リラといふことになつて、丁度三分の一位になつたのであります。それで一番悪い時は、百五十リラになつたことは珍しくないであります。さういふ風に考へて見て、さうして又伊太利は戦争後唯の一遍も財政のバランスが合つたことは無いのであります。さうして兌換券は幾ら發行して居るか云ふと、二百四十億リラ位を平時發行して居つたのです。とてもあの局に立つて、元の値段まで爲替相場を持つて來ようなどといふことは夢にも見られない。白耳義も同じやうに二十五法といふのが百七十五法になつて、五分の一以上になつた譯です。それを元に戻すことは到底望みは無い。ところで日本はどうかと云ふと、今の相場は一割ほか下つて居りませぬ。であるから今のやうな極端な事を考へる必要も無い。私に言はせると、此處で財政の緊縮、財界の整理はどうせやらなければならぬ、之れをやれば一割位爲替相場は上る、必ず上るといふことを確信して疑はないのであります。のみならず、平價を切下

げた後はどうであるか、對外價値を下げましても對内價値は左程一致しないものであります。其處が日本の外國貿易の非常に違ふ所であります。佛蘭西と英吉利との間を申しますと、同じ物が出來、同じ國情で同じ物を使つて居る。僅かの爲替の差で、僅かの價格の差で、白耳義と佛蘭西と英吉利との間は常に物資が動いて居ります。關稅の問題も何も非常に關聯して居りますが、日本は英、佛と白耳義、伊太利との間のやうな事を考へる程、日本の此の物價といふものが對外的價値に直接影響しないことが多いのです。それを考へますと、對外價値を四十四弗半までに切下げて見た所で、此の日本の物價といふものが、それにきちんと合ふや否や、合つて見た所で日本の如きは輸入超過で依然として残ると、私は思ふのです。日本が輸出超過の國になり得るや否や、私は、今日の儘で財政の緊縮をするといふことは、輸入を少なからしめ輸出を多からしむる所以にはなりませんけれども、私自身も輸出超過の國になるかどうかと云へば、寧ろならないであらうと考へる、無理に爲さんとすれば日本は非常な縮こまつた國になると思ひます。日本は二十億の外債を持つて居りますが、此の二十億の外債は何に使つたかと云ふと、輸入超過の決

濟資金に使つて居ります。其の上に日本は戰爭中に四十億位の金を儲けたのであります。それも皆輸入超過に使つてしまつた次第であります。それは甚だ憂ふべき事實であります。併しながら今日までの如く大きな輸入超過があつては困りますけれども、日本國を掌を反すが如く輸出超過の國になし得るや否やと申しますと、先づ不可能であるといふ氣がするのであります。さう考へて來ると、對外價値と對内價値といふものは、日本のやうな世界の中心から遠ざかつて居る所で一致するや否やといふことは、私は疑ふのであります。それが一致しないといふことになるかと云ふと、輸入超過は矢張りあることになつて、私の云ふ財政の緊縮、財界の整理といふことは、矢張りやらなければならぬのであります。佛蘭西はどうかと云へば、ポアンカレが起つてあれ程無理な財政を整理して今度百二十四法といふことになつたが、金の解禁をすることになつた。それは全くポアンカレといふ者が出て來て、財政の緊縮をして、佛蘭西の財政のバランスが稍合ふ形になつたから維持が出來ます。財政の緊縮をしなかつたならば、百二十四法にデヴァリュエーションをして、維持は出來ませぬ。伊太利のムッソリーニのやり方が矢張

りさうであります。伊太利も矢張り財政の緊縮をして同時にデヴァリュエーションをやつて維持が出来るのであります。日本でやつても、財政の緊縮、財界の整理をしなければ決して日本の兌換制度は維持が出来ない、それならば同じ苦痛をしなければならぬのみならず、どつちにしてもやるべき事はやらなければならぬのみならず私に言はせれば、やれば必ず途があるのだといふことを考へると、決して私は平價切下といふことには賛成出来ませぬ、又日本はそんな状態と考へませぬ。又佛蘭西、伊太利、白耳義のデヴァリュエーションをやつた状態と日本とは全く非常な差があります、殆ど比較になりませぬ。

それから此の際にもう一つ附加へて申しますと、日本の財政の緊縮、財界の整理を私はやらなければならぬと、斯ういふ事を感じますのは、日本は大正三年の歐羅巴戦争から今日まで、何と申しますか、不當の利益、——不当といふ普通に使ふ言葉ではないが——あれ程に日本が經濟上の膨脹をしようとは豫期しない程に、戦争中好い立場に立つたのであります。金儲けが非常にたやすく出来た。其の儲けた金を使ひ慣れて居るといふ國民に、茲に非常な弊害があります。何故かと申し

ますと、あの時代と今日では人の収入は非常に減つて居ります。が、それにも拘らず、生計の方を減じ得ないのが國民の非常な弊害であります。殊に地方に行きますと、其の時代に収入が多かつた、収入が餘計なくとも自分の持つて居る不動産の値上りを考へて生活程度を高くした者が、今日は其の値段が下り収入が減つても、どうしても生計を減ずることが出来ないで居る。茲に弊害が非常にあります。所謂飯の食へない人が立派な飯を食つて居るやうに、街はなければならぬ間違つた事情が澤山あるので、つまり嘘をして居る、此の日本は國の經濟から一家の生計に至るまで、非常に嘘の所が澤山あります。之れを本當の途に直すには、私は今日の如き場合に財政の緊縮、財界の整理をして、さうして國民的に此の問題を解決するといふことが、日本の今日の弊害の大部分を矯正する所以だと考へるのであります。借りて居る金の金利を拂はずに、銀行を潰すやうな人が澤山あります。如何にして飯を食つて居るか分らないやうな人が宏大な生活をして居るといふやうな事が、都會には澤山見受けられます。一度其の内情に入つて見ると、寧ろ日本の國の經濟なり、一個人の生活が嘘をして居るといふ事を見て吃驚するやうな事

情が澤山あります。政治上の不道德、社會上の不道德もさういふ所から出て來ることが多からうと思つて居ります。若し今日緊縮、整理といふやうなむづかしい事は避けて之れをなさず、此の儘に財界の状態を維持して行かうといふやうな政策を採れば、日本には未來永劫、精神の腐敗を匡救するといふことは困難であると考へるのであります。それで今日はどうしても財政の緊縮、財界の整理を一遍やつて見なくてはいかぬ。此の儘で居りますと、日本は非常にむづかしい立場に立たなければならぬ。今日は外國に在る金も段々少なくなりまして、外國に在る金が少なくなれば、日本内地に在る金を送つて行くのであります。事柄は何でもない話でありませんが、併しながら之れを外國から見た時にはどうか、貿易のバランスを合すに内地では金の輸出禁止をしておきながら、貿易のバランスを合せる爲めに正貨準備を脱して外國に持つて行くといふやうなことは、日本のやり方の如何にも不徹底のことを表明するのと同じであります。そんな事をするならば寧ろ財政の緊縮をして、貿易のバランスを合ふやうに近づけて行かないかといふことは、直ぐに其處に疑問が起つて來る所でありまして、實際問題としては餘り感心し

ないやり方に見られることを非常に恐れて居るのであります。是非さういふ事を行つて見たらばよからうと、斯う思つて居ります。

それからよく諸君の耳にされる、期限を決めて金の解禁をしたらよからうといふ議論であります。之れは餘り役に立たぬと、斯う私は思ふのであります。期限を決めてやりますことは、例へば今年の暮とか來年の暮といふやうなことに期限を決めておきましたならば、來年の暮になれば四十九弗五十仙になつて、元金に對して今日よりか一割程上るといふことがちやんと決まる譯であります。さうすると今日直ぐに其の結果が現れて參ります。まだ用意の出來ない今日、爲替相場はずつと上ります。如何に政府と雖も或時を決めて金の解禁をしますと云ふ以上は、それは一つの約束になる、此の約束は非常に金錢上の關係があるので、約束を不履行には出來ないとなりますと、それを確定的と見ますと、今日に結果は皆全部出て來てしまひます。之れも一つの政治問題としてさうしなければ政治家が怠けるから、其の間に財界の整理をして行けばそれでよいじゃないか、といふ議論であらうと思ふのであります。併しながら財界の整理の如きは、終局まで行かなけ

ればならぬといふ議論も立たなければ、或年限が立てばこれで宜しいといふ議論も決して立ちませぬ。財界の整理をやつて見て、六箇月で行くかも知れぬ、一年で行くかも知れぬ、即ち國民のやり方の程度、政府の局に立つ人のやり方の程度では、たつた一遍でも出来ないことはない、やり方が緩るければ二年かゝるかも知れぬ、三年かゝるかも知れぬ、財界の整理に期限を決める如きは意味をなしませぬ。私の言ふ解禁即行には財界がよう堪へませぬといふ議論から云ふと、此の財界の整理がどの位の時に健全になるかといふことは、時で決めることは不法なことで、やつて見ぬと分らぬ、短くて済むかも知れぬ、一年も二年もかゝるかも知れぬといふことは、即ち此の財界の混雑した状態を見分けるのを時で決めるといふことは、意味をなさぬと思ふのでありまして、餘り私は参考にならぬ議論と考へて居ります。それで私の申しますのは、結局何も考へる必要は無いから、財政の緊縮をする、それは政府だけではない、即ち國民をして緊張せしむるだけに指導をして、政府が先に立つてやらなくてはいかぬ、さうしなければ効果が無い、斯ういふ結論になるのであります。甚だ簡単な議論であります、これで………

大藏大臣時代(第二次)の演説、講演

財政の緊縮と金解禁

(昭和四年七月十二日
於東株ビルディング講堂)

實は先日岡崎理事長から、政府の財政政策、殊に金の解禁に就て、誤解と云ひますか、寧ろ十分の理解が無いやうに思ふから困つたものである、何か之れを説明する方法は無いであらうかといふことでありましたから、私は進んで今日の政府の財政政策は、政府自らが財政の緊縮をするだけでは十分の目的を達せられぬのであり、國民に廣く諒解を得なければ解決が出来ぬのでありますから、如何なる機會にでも、如何なる團體に向つても、いつ何時でも行つて説明をしますからと、斯う申上げて今日實は出たのであります。それでお忙しい所でもありますから、十分の意思を盡せぬかも知れませぬが、一通り順序を立てて、私の考へて居ること、現政府の爲さんとする所を、一つ皆さんの前に説明して見ます。實は斯ういふ機會に説明を致しますのは、今日が始めなのであります。初めの時は前後矛盾して、餘り好く出

來ないのが普通でありますから、お聞き苦しい所は其のお積りで一つお聴取を願ひます。

世界の大战争によりまして、日本の經濟界といふものは一變したのであります。總ての物貨が高く賣れ、又餘計に日本の品物が賣れたのでありまして、從て歐羅巴の大战争中には利益も非常に殖えたのであります。各事業、各團體、各個人、非常に收入が殖えたのでありまして、段々世界戦争が時が経るに従ひまして、外國から金貨を澤山持つて來ました。從て通貨も非常に殖えたのであります。御承知の如く、今日は少なくとも十一億以上の通貨があります。平均してそれよりずっと上であります。其の戦争の始まつた頃には、恐らくは通貨は三億少し上であつたらうと思つて居ります。それを見ましても、如何に日本の經濟界が膨脹したかといふことが分ります。從て物價が高くなつた、お互の生活費も非常に殖えたのであります。殆ど日本の經濟組織が一變せられたと言つて差支へ無い位に、歐羅巴の戦争といふものは日本に影響を與へたのであります。數字を諄々しく申しませぬが、御承知の如く日本は通商貿易を各國と開きましてから以來、特殊の事情の爲

めに僅かな年限輸出超過でありまして、他は輸入超過に苦しんで居つたのが、歐羅巴の戦争が始まつてから大正十年位までの間に、四十億圓も日本の取勘定になつたのであります。斯ういふ事を考へますと、日本の經濟界といふものは、全部一變してしまつて居つたと、斯う言つてよいのであります。私が申上げるまでもなく、斯ういふ事は十分御承知の所であります。政府の財政だけで一つ申して見ますと、斯ういふ事になつて居ります。大正三年度には七億三千万圓ばかりの歳入が、大正十一年には二十億八千万圓といふやうな大きな數字になつて居ります。此の二十億八千万圓は年々の剩餘金も計上したのであります。一番大きな日本政府の財政では、二十億以上に達したことがあります。それを考へて見ますと、各事業でも、各經濟團體でも、各個人でも同じことであつたらうと思ひます。政府の財政が七億のが二十億に殖えたが、恐らくは誰も其の位の状況があつたらうと思ひます。貴方がたの御關係の方々は恐らくはそれ以上、それよりかずつと殖えて居られたに相違ない。併しながら、日本全國を通じて見ましたならば、日本の財政の状態が一番良く各個人の状態を云ひ現して居ると言つてよいことであらうと考

へて居ります。斯くの如く非常に収入が殖えました結果はどうであるかと云ふと、政府の財政は非常な膨脹を致しまして、各事業、各會社、各銀行、各個人共、皆此の收入の多いことによつて自分の生活が出来、自分の仕事の基礎が出来て居ります。然るに今はどうか、其の後どうであるか、斯う申しますと、大正九年の反動が来て、經濟界の事情は一變致しましたのであります。大震災にもつて行つて、日本は尙更大なる打撃を受けましたのであります。それで非常に収入が減つて居るのであります。之れを貴方がたや他の方の例で云はずに、財政で申しますと、昭和四年度の財政は十七億以上であります。然るに歳入はどうであるかと云ふと、二十億何がしとあつた歳入が、今日は十七億何がしの歳出に辻褃を合せる爲めに、九千百万圓の公債を其の中に入れて、漸やく十七億何がしといふものが出来て居るのであります。即ち十六億圓臺に収入は下つてしまつて居るのであります。然るにどうかと申しますと、財政の方で云ふと減らすことが出来ずに居ります。歳入は非常に減つたけれども、相變らず十七億以上の歳出を計上して居るのであります。私自分は今日、財政の事を研究して居りますが、之れを見ますと、恐らくは財政だけ

でなしに、各事業、各銀行、各會社、各個人が皆此の通りであらうと思ひます。繰返して申しますれば、歳入の非常に多かつた時の財政、貴方がたで云はれると、容易く儲けた時、容易く収入の多かつた時に出来た生計が、今日それを縮めることが出来ずに居るのではなからうか、さういふ事を考へるのであります。今日は不景氣で、非常に一部では苦しんで居るのを認めます。併しながら収入が減つたから當然減らすべき支出が、減らされずに居る、生活費といふものは減らすべき筈のものが、減らされずに居ります。財政で云へば、減らすべき所の歳出を減らすことが出来ずに居るといふ状態であります。従て其處が何に現れて居るか、と申しますと、今日は輸入超過も減りませぬ。國際貸借の改善も出来て居りませぬ。次に日本の財界は爲替相場が下つたり、上つたりして、皆さん非常に困られて居るのが今日の状態であります。之れを言葉を縮めて云ひますと、今日は過去の収入で飯を食つて居るか、生計に足りないが借金をして利息を拂はずにやつて居るといふやうな状態であるか、何れかであります。それでも過去の収入の多かつた時に戀々として居つて、茲に國民全體が自分の生計を立直すことが出来ないといふことが、今日廣

い日本の状態であります。私は經濟問題を離れて一つ此の事態を考へて見ますと、こんな状態でありまして、一國の財政から個人の生活に至るまで收支が償つて居らない。西洋の言葉で云ひますと、各個人、政府、總ての日本のものがバランスが合つて居らぬのであります。さうして猶バランスが合つて居ないが、之れを改めることも出来なくて居るのであります。經濟問題を離れて、日本の總ての事情の生ずる所が私は茲にあると見て居るのであります。國民思想が頹廢して居る、斯ういふ事を申しますが、之れをずつと尋ねて見ると、収入は減つたが相變らず贅澤な生計をしたい、其處に無理がある、其處から國民思想の頹廢といふことも出て参ります。日本全體の此の國民の不健全な状態が出て来る大きな原因は、此の經濟上のバランスの合はない、虚偽な生活をして居るといふことにあるやうに、吾々は考へるのであります。それでありまして、今日我政府のやらんとする此の經濟上の立直しは、一方から云ひますと、廣く社會問題の立直しである、即ち今日財政を緊縮して國民に廣く消費經濟の節約を希望するといふことは、即ち國家を救ふ所以であると、斯う考へて居る次第であります。吾々は今日の日本國を經濟上の方

面からさう見、又他の方面からも只今申述べたやうに考へて居るのであります。之れを世界各國の事情に照合して見ましても、英吉利でも、佛蘭西でも、獨逸でも、伊太利でも、戰爭には非常な苦しみをしたのであります。戦後に財政の立直しをして、さうして國民の消費節約をして、今日は漸やく國の信用を維持して居るのであります。何處の國でも戦後に財政の大緊縮をして、國民が消費節約をしなかつた處は無いのであります。亞米利加の如き調子の良かつた國でさへも、貴方がたも御承知の如く、戦後數年間には非常な消費の節約をして、財政の立直しをして、今日の如く盛なる状況を呈して居るのであります。それを日本は未だ曾て實行して居りませぬ。徹底的に實行したことは更にありませぬ。それで日本はたつた一人世界に取殘されて居るのであります。金の解禁も出来て居りませぬ。爲替相場も常に動いて居ります。世界各國は早く立直しをして先に進みつゝあるのに、日本は取殘されて居ります。又世界各國の人が、此の日本の財界を見る眼はさういふ風に見て居るのであります。そこで斯う見ますといふと、此の時期に於て此の經濟問題の解決をしなくてはならぬといふ考へからして、吾々は自ら財政の緊

縮を致して、さうして國民にも諒解を得て、共に協力して行きたいと、斯う考へて居ります。御承知の如く、十七億何がしといふ政府は消費者であります。此の意味から行きましても、日本國內の最大の消費者でありますから、其の消費を大いに節約するといふことを、一方には考へます。一方には又、政府といふものは、國民に範を示して、國民を指導して行かうといふことを考へて居るのであります。從て自ら實行して、共に皆さんにも此の諒解を得て、一つ進んで行きたいと思ふのであります。政府單獨に財政緊縮を致しましても、唯單に消費者といふ意味から整理するのであります。國民と共に協力して、此の經濟界を救ふといふ上に就きましては、皆貴方がたの御諒解を得て行はなければ出來ないのであります。此の日本の經濟界をどう見られるか。吾々に反對の方があるなら議論も承ります。斯うして共々に、日本の經濟界を打開して行きたいと思つて居ります。先日豫算編成方針に示した如く、昭和五年度に於て財政緊縮を、あの方針によつて圖る積りであります。のみならずこれは數箇月後に互る約束でありますから、眼の前にある昭和四年度の豫算も實行豫算を作つて出來るだけの節約をして、國民に吾々が實行に

就て如何なる覺悟と決心とを持つて居るかを示して、國民の諒解を得たいと思つて居るのであります。

財政緊縮の一端として公債整理を致しますことは、これは當然の義であります。御承知の如く、内外債集めて只今五十八億何がしあります。さうして昭和四年度の公債は、一般會計から特別會計を通じまして二億近くあります。昭和五年度にもそれだけの計畫が含まれて居るのであります。斯くの如くして行きますと、此の日本の公債は六十億、六十億をずん／＼越えて行きました何處まで増加するか、最近の事情を見ると、殆ど停止する所がないやうな有様であります。利拂だけで、三億の豫算を計上してあります。三億圓の數字が、公債の利拂に計上してあります。政府の歳出の中で三億の公債の利拂といふものは、割合から云つたら可なり大きな數字であります。で、之れはどうしても相當な程度に止めなければならぬ。又吾々が言ふ財政の緊縮の程度から行きましたならば、財政を緊縮して得たものは、此の公債整理に持つて行きたいといふことを考へて居ります。從て此の實行豫算の上に就きましても、出來るだけ公債の計上を減らします。今の一億九千何

百萬圓計上されてある公債をなるだけ減らします。昭和五年度に於きましては、一般會計には一切の公債を計上せぬ方針を立てたのであります。特別會計に於ては現在豫定されてある數字の半分以下に減じようといふ事になります。さうしました結果がどうなるか、斯う申しますと、新規の公債は昭和五年度では五千五百萬圓になります。それで減債基金がどうなるかと云ふと、御承知の如く公債の總額の萬分の百十六以上を公債償還に充てるのであります。それが丁度七千萬圓ばかりになります。其の外に獨逸から賠償金で貰ひます高が、此の頃の巴里の賠償委員會で少し減りましたが、それでも六百三十萬圓程あるのであります。それも國債の償還資金に持つて參ります。それから剩餘金がありますと、其の剩餘金の四分の一以上も持つて參ります。これは剩餘金が幾らありますか、まだはつきりした高は分りませぬが、少なくとも四分の一で千萬圓以上のものがあります。さうしますと八千六百三十萬圓といふものが、償還資金に昭和五年度以降充てられることになる。其の中から五千五百萬圓を引きました其の餘りといふものは、即ち凡そ三千萬圓といふものは、現在の此の昭和四年度の年度末の公債の總高を

押へて、それから段々、少なくとも三千萬圓程度のものは減額して行くのであります。さう致しましたならば、公債も大體に申しますと、昭和四年度の年度末に幾らになるか、假に六十億と致しましても、其の高は年々三千萬圓位減額して行く。吾が節約をして、剩餘金が多くなれば多くなるだけ、四分の一の金額が多くなりますから、三千萬圓といふ償還資金は殖えて行くことになるのであります。くれぐれも申しますが、政府の財政は一般會計で十七億であります。一般會計と特別會計とを加へますと、可なり大きな數字にはなりますが、兎に角主要な一般會計が十七億であります。國民全體の總收入、總支出に比較したならば、十七億といふものは非常に小さなものであります。それで今日の經濟界を救はうとするのには、消費節約をしなくてはならぬ。政府は自ら大消費者として節約を致しますが、此の事情を理解されて、皆様が此の政府の行ひに協力下さつて、さうして共に消費を節約しなければ、吾々の希望する効果はあがり悪いのであります。で、政府は段々實行の緒に著きましたならば、重ねて貴方がたに、吾々は斯うする、斯うするからどうか此の點まで貴方がたもやつて戴きたいといふことを、又の再び機會があらまし

たら申上げたいと思つて居ります。銀行なり會社なり、總てが政府の考へて居る所に同一の態度で協力することを希望して見たいといふことを考へて居ります。金の解禁の問題に就て、政府の考へて居る所を申します。金の解禁の問題は中世間で色々議論されて居りますが、政府の考へて居ります所は、財政を緊縮する、さうして今私がお願ひ致しましたやうに、國民も之れに應じて消費を節約します、そこで初めて金の解禁の準備が出来ると思つて居ります。此の準備を致しますのに、此の經濟界がどういふ風に、ずつと移つて行くだらうかといふことを一つ想像して見ますと、政府が財政を緊縮して、國民が消費を節約致します。其の結果、爲替相場は上ります。即ち言葉を変へて言へば、私は政府から、國民全體が擧つて、金の解禁の出来るやうな風に、此の日本の經濟界を持つて行く積りで居ります。さうして金の解禁を致しますれば、金解禁そのものによつては、殆ど財界に影響は與へないと思つて居ります。之れは私が理窟を言ふだけでない。英吉利に於ても、英吉利は日本の解禁と同じ順序を取つて行つたのでありますが、解禁そのものが英吉利の經濟界には何等の影響を與へて居りませぬ。唯解禁後になつて、石炭の

關係で、石炭を外國に賣るのが高くなつたといふやうなことで、石炭に影響を與へたことがあります。それは大分時が経つてからの事であり、金解禁そのものは、私が申しました經濟界の事情を金解禁の適當なる所までずつと持つて行きますれば、それで影響は無いと確信して居ります。例へば、今金の解禁を即行しようといふ論者が中々あります。今爲替が段々上りまして、今日は四十五弗四分の一であります。先づさう致しますと、四弗五十仙の平價までの開きがあるとして、九分の開きがあります。九分の開きのあります時に、金の解禁をばかつと決行したと致します。さうするとどうなるかと云へば、例へば生絲の例をとつて考へて見ます。生絲が今日少し下りましたが、假に千四百圓と斯うする。亞米利加の人が九分だけ高く買つてくれれば、それで日本の生絲は下らずに濟みますが、若し亞米利加の人が依然として今までの値段で外買はないと云ふならば、日本の生絲は九分下ることになつて參ります。之れは理窟で、實際はさうは參りますまい。恐らくは亞米利加も漸次高く買ふやうになりませうけれども、さう假定したならば九分の下落をすると、斯ういふ事になります。そこで實行論から行けば、金解禁そ